

科目名	生物学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	生体における生命が示す現象を学び、生命の誕生や生体の維持について考え、生命に対する尊厳や畏敬について教授する。また、生物の生活と密接に関係する環境とのかかわりについて教授する。さらに看護分野の基礎知識となる生物学分野の基礎知識(細胞、遺伝発現とその調節、個体の統一的な反応、生態系、生物多様性等)への理解を深める内容とする。						
一般目標	1. 生物・生命現象の一般原理を理解できる。 2. 遺伝情報の伝達と発現機構、恒常性の維持の仕組みを理解できる。 3. 生物の生活と密接に関係する環境とのかかわりについて理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 生物学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
生物学の基礎知識や生命活動の理解を深める。				
技術(精神運動領域)				
生命に対する考えを持てるようになる。疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	方法	備考
1	I. 生物学を学ぶにあたって	1. 生命観の変遷、看護の基礎科学としての生物学	講義	
2	II. 生命体のつくりとはたらき	1. 生命現象の捉え方、細胞とその構造	講義	
3		2. 細胞の化学成分、細胞膜の輸送	講義	
4	III. 生体維持のエネルギー	1. 生体内の化学反応、酵素、ATPの生成	講義	
5	IV. 細胞の増殖と身体 の成り立ち	1. 細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、細胞の老化	講義	
6	V. 遺伝情報の伝達と その発現	1. 遺伝の法則と染色体、DNAの複製	講義	
7		2. 遺伝情報の伝達、タンパク質の合成、ゲノム解析	講義	
8		3. 変異、ヒトの遺伝、遺伝子組み換えの応用	講義	
9	VI. 生殖と発生	1. 動物の授精と発生、形態形成と遺伝子発現	講義	
10	VII. 個体の調節	1. ホメオスタシス、各器官系の働き	講義	
11		2. 自律神経、内分泌、体内調節系の相互作用	講義	
12	VIII. 刺激の受容と行動	1. 神経、受容器、神経系の系統的発達	講義	
13		2. 筋収縮の神経制御、行動、学習、記憶	講義	
14	IX. 生命の起源と進化	1. 生命の起源、進化の仕組み、ヒトの起源と進化	講義	
15	X. 生物と環境のかかわり	1. 個体間関係、生態系、環境問題、生物多様性	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	渡辺 雅夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	情報科学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	教員実務経験対象		有	
授業概要	情報の概念や情報処理の基本を理解し、情報学の医療や看護にとっての必要性を教授する。情報技術の急速な進歩に対応できるよう情報伝達、処理などコンピュータの操作を理解し、看護への活用を考える内容とする。また、教育、医療・看護におけるICT活用の現状について教授する。						
一般目標	1. 情報や情報処理の意味や目的がわかる。 2. コンピュータの基本的な機能を理解し、情報処理のための基礎的知識とコンピュータネットワークについて理解できる。 3. 基本操作を習得し、情報技術(Excel, Word)の基本を身につける。 4. 医療・看護におけるICT活用の現状を理解できる。						
テキスト 参考書等	適時資料を配付						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
コンピュータや情報処理のための機能を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
コンピュータの基本操作を習得し、Excel, Wordの情報技術を身につける。				
態度(情意領域)				
学習やグループワークに積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 情報と情報社会	1. 情報の定義 2. コミュニケーション 3. 情報社会 4. 医療と情報	講義	
2	II. 保健医療における情報	1. 看護と情報 2. 情報システムの性質	講義	
3	III. 情報と倫理	1. 情報倫理 2. 権利と情報 3. 個人情報保護 4. コンピュータリテラシーとセキュリティ	講義	
4	IV. 情報処理	1. インターネットの活用 2. 調査と情報収集 3. データ・整理	講義	
5	V. コンピュータによる演習	1. 基本操作(ファイル管理, マウス操作, 文字入力)	講義	
6		2. Wordの基本操作(新規ファイルの作成・保存, 文字の入力, メニュー)	講義	
7		3. Wordを用いたビジネス文書の作成	演習	
8		4. レポート・論文の作成方法	演習	
9		5. Excelの基本操作(データ入力の基本, 表作成, グラフ作成)	演習	
10		6. 基礎的なエクセル関数を用いての統計処理	演習	
11	VI. 模擬試験	1. Word, Excelの基本操作についての試験	試験	
12	VII. 教育現場におけるICT活用の実際	1. 遠隔授業 2. ICTを活用したグループワーク(情報共有、調査内容や進捗状況の共有、発表内容作成)	講義	
13			演習	
14	VIII. 医療現場におけるICT活用の実際	1. 電子カルテシステムの活用 2. 遠隔診療	講義	
15		3. 地域医療情報連携ネットワークシステム活用 4. 地域医療情報連携ネットワークシステム活用	演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○		40	
担当教員	酒井 徹也		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	論理的思考の基礎			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		
授業概要	自己の思考を深めるために問題意識をもち、論理的な思考ができ、それを文章表現できることを目的とする。論理的な文章を作成することで主体的な判断能力、推論能力を高めるための基礎的知識を教授する。臨床判断を行う基盤として考える力の修得を目指し、基礎的な文章読解力・思考力・論理的表現力に関する演習を行う。						
一般目標	1. 一般的な文章の読解力と論理的表現能力の必要性が理解できる。 2. 課題の文章から、必要な情報を正確に読み取ることができる。 3. 情報伝達において論理的な思考に基づいた適切な表現(口頭および文章)ができる。 4. 社会への関心を高め、社会の問題や課題にアセスメントを行い対策を考えることができる。						
テキスト 提出物	毎回事例等の資料を配布。 授業日ごとに課題(リフレクションシート)の提出がある。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
論理的な思考について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
思考に基づいた文章を書くことができる。				
態度(情意領域)				
学習や演習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. オリエンテーション	授業の目的、目標の理解、学び方を学ぶ、グループワーク	講義・演習	
2	II. 思考と言葉をみがく①	事例(1)をとおして読解力と、思考力をみがく	講義・演習	
3	III. 思考と言葉をみがく②	事例(2)をとおして表現力をみがく	講義・演習	
4	IV. 思考と言葉をみがく③	社会の課題をテーマにレポートを作成する	講義・演習	
5	V. 思考と言葉をみがく④	事例(3)のアセスメントをとおして対策を考えまとめる	講義・演習	
6	VI. 思考と言葉をみがく⑤	「社会の気になるニュース」をテーマに意見文を作成する	講義・演習	
7	VII. 意見文の理解	論理的な文章を作成する	講義・演習	
8	まとめ・試験	意見文(小論文)を作成し提出する	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
提出物・小テスト				50	
課題レポート	○			50	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○			評価なし	
担当教員	三宅 英明		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護のための英会話			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護に必要な医療英語や医療現場で必要とされる英会話での基礎的コミュニケーション力を教授する。						
一般目標	1. 看護に必要な医療用語が理解できる。 2. 患者への問診や説明ができるよう基礎英会話が習得できる。						
テキスト 参考書等	クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護・医療に必要な医療英語を身につける。				
技術(精神運動領域)				
情報収集に必要な基礎的な英会話を身につける。				
態度(情意領域)				
演習に積極的に参加することができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. Unit2・Unit3	1. 患者に質問し、情報を聞き出す	講義	
2	II. Unit4 Unit5	1. ○○科の言い方、初診でのやり取り、道案内	講義	
3	III. Unit6	1. 症状と兆候、症状の聞き方の表現	講義	
4	IV. Unit7	1. 人体各部の名称 2. 症状の部位・具合を聞く	講義	
5	V. Unit8	1. 主な病気の名称の表現 2. 病歴の聞き方、ロールプレイ	講義・演習	
6	VI. Unit9・10	1. 薬の種類、服用に関する表現 2. 検査の言い方、予約の取り方に関する表現	講義	
7	VII. Unit11	1. 手術に関する表現 2. 話し手の意思を述べるときの表現、ロールプレイ	講義・演習	
8	VIII. Final test	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)		○		評価なし	
担当教員	Poul Rowlands		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	運動と健康			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	運動と健康との関連および健康づくりのための活動を理解し、スポーツをとおして運動の必要性和生涯スポーツとの関連について教授する。						
一般目標	1. 運動と健康との関連および健康づくりのための活動が理解できる。 2. 障害者スポーツの目的と意義、安全対策が理解できる。 3. スポーツをとおして運動の必要性を理解できる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
運動と健康との関連や健康づくりのための活動内容を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
健康づくりの活動内容を工夫できる。				
態度(情意領域)				
学習やグループワーク、スポーツの実践に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1・2	I. 運動と健康について	1. 運動と健康の関連と意義 2. 運動療法	講義・GW	
	II. 障害者スポーツの理解	1. 障がい者スポーツの目的と意義 2. 安全対策	講義・GW	
3・4	III. 健康づくりのプログラム	1. 健康づくりのための活動 2. 体力測定 3. 生活活動のメツ表を使用したプログラムの作成	講義・GW	
5・6	IV. スポーツ実践1	競技の意義を考え、実践する(個人競技):卓球・バトミントン	実技	
7・8	V. スポーツ実践2	競技の意義を考え、実践する(団体競技):バレーボール	実技	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			50	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)		○		50	
担当教員	水崎 佑毅		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	人間関係論			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護実践において必要となる人間関係のダイナミズムを理解する。また、目的に応じた役割関係を展開する人間関係形成能力とコミュニケーション能力を養う。人見知りを克服する。人前での話（パブリックスピーキング）の苦手意識を克服する。人間を人との関係で生き成長する存在ととらえ、人間関係を円滑に保つ必要とその方法について教授する。演習を通して体験することで、自分と他人の違いを知り、円滑なコミュニケーションに必要な「多様性」を受け入れることに繋がる。						
一般目標	1. 社会の一員である人間の存在と社会的相互作用を引き起こす人間関係を理解できる。 2. コミュニケーションの基本概念及び基本構造を学び、基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 3. 看護師求められる人間関係調整力について理解できる。 4. 送り手と受け手の対人的コミュニケーションにおける相互作用について多角的に理解できる。 5. 人間関係の向上に役立つスキルについて体験し理解できる。 6. 相手を思いやる感性やコミュニケーション能力を高めることができる。						
テキスト 参考書等	担当教員資料（林伸一ほか『エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集』図書文化社） 『人間関係論』医学書院等　＊授業の内容に合わせて資料を配布する。						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
ペアワーク、グループワーク、構成的グループ・エンカウンター、自己肯定感について体験的に理解することができる。 授業を通して、コミュニケーションの重要性や自分の特徴（強み・弱み）、多様性について説明できる。				
技術（精神運動領域）				
自己開示、他者理解、相互理解のためのコミュニケーション技法を身につけることができる。チーム支援の協力体制がとれる。 授業を通して、コミュニケーションの重要性や自分の特徴（強み・弱み）、多様性について説明できる。				
態度（情意領域）				
男女差、年齢差にとらわれることなく積極的にコミュニケーションをはかることができる。人見知りを克服できる。 事実と感情を受けとめ、自分と他人を大切にしながらコミュニケーションを取ることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 人間関係基礎1	1. 自己紹介、ペアワーク、ネームゲーム、病気自慢、名前の由来	演習・解説	
2	II. 人間関係基礎2	1. 先週のふりかえり、シェアリング、わりばしウォーク	演習・解説	
3	III. 人間関係基礎3	1. ブラインド・ウォーク（目隠し歩き）、トラスト・ウォーク（信頼の歩行）	演習・解説	
4	IV. 人間関係基礎4	1. 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーション、気づき（アウェアネス）	演習・解説	
5	V. コミュニケーション技法1	1. カラーワーク、お次をどうぞ、共同絵画、ほめる・ほめられる	演習・解説	
6	VI. コミュニケーション技法2	1. 対話のある人間関係づくり1 ヒューマンライブラリー、紙芝居1	演習・解説	
7	VII. コミュニケーション技法3	1. 対話のある人間関係づくり2 人間の図書館、紙芝居2	演習・解説	
8	VIII. コミュニケーション技法4	1. 対話のある人間関係づくり3 生きている図書館、紙芝居3	演習・解説	
9	IX. コミュニケーション技法5	1. SGEのショートエクササイズ、詩の朗読、人権標語づくり	演習・解説	
10	X. 人間関係スキル1	1. 内観法1（いつ、誰に何をしてもらったか）、三面鏡（ジョハリの窓）	演習・解説	
11	XI. 人間関係スキル2	1. 内観法2（いつ、誰に何をしてあげましたか）、ビブリオバトル	演習・解説	
12	XII. 人間関係スキル3	1. 内観法3（いつ、誰にどんな迷惑をかけましたか）、インフォーマーセッションギャップ	演習・解説	
13	XIII. 人間関係スキル2	1. 音読、朗読、群読、輪読、朗読劇（ドラマ・メソッド） 未完の行為の完成	演習・解説	
14	XIV. 人間関係スキル3	1. 課題レポートのテーマ発表と書き方の留意点の説明	演習・解説	
15	XV. 人間関係スキル4	1. 課題レポートを制限時間内に決められた書式で書く	課題	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		20	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト		○		15	
課題レポート	○			35	
授業態度		○		5	
演習(GW・技術等)			○	25	
担当教員	林 伸一		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	心理学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、看護実践の場においてのよりよい人間関係を模索する。						
一般目標	1. 人間の心理や行動の基礎にある原理を理解できる。 2. 人間の発達段階の特徴から、発達の心理を理解できる。 3. 看護実践の場で必要なカウンセリング技術を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 心理学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
人間の心理や行動の基礎にある原理を説明できる。 人間の発達段階の特徴から、発達の心理を説明できる。 看護実践の場で必要なカウンセリング技術を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
演習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 心理学とは イメージ	1. 心理学に関するイメージとその先入観の原因	講義	
2	II. 心理学とは 感覚	1. 感覚の共通性	講義	
3	III. 知覚の心理	1. 知覚の一般特性 ものの見え方	講義	
4		2. 錯覚現象	講義	
5		3. 運動視、恒常性	講義	
6		4. 錯覚の測定	演習	
7	IV. 知覚の種類	1. 空間知覚、運動知覚、時間知覚	講義	
8		2. 人の認知	演習	
9	V. 記憶の諸相	1. 記憶に関する系列位置曲線	演習	
10	VI. 忘却の理論	1. 忘却の理論 記憶の工夫	講義	
11	VII. 学習の心理	1. 学習理論	講義	
12		2. 動機づけ	講義	
13	VIII. 集団の心理	1. 集団力学	講義	
14		2. リーダーシップ論	講義	
15	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	福田 廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	行動科学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間の行動の成立と変化のメカニズムについて理解し、看護場面においてよりよい人間関係を成立、発展させるための基礎的能力を養う。アクティブラーニングによる課題解決能力を高める。						
一般目標	1. 人間の行動と健康の概念を理解する。 2. 人間の行動の成立と変化のメカニズムについて発達心理学的観点から理解を深める。 3. 行動理論・コーピング・自己効力感などの人間関係成立の思考と行動を理解する。						
テキスト 参考書等	健康行動理論の基礎（医歯薬出版） 健康行動理論の実践編（医歯薬出版）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
人間の行動と健康の概念が説明できる。 人間の行動の成立と変化のメカニズムについて発達心理学の視点から説明できる。 行動理論・コーピング・自己効力感などの人間関係成立の思考と行動が説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 行動科学の歴史と看護のかかわり	1. 行動科学とは	講義	
2		2. 行動科学と看護理論	講義	
3	Ⅱ. 発達心理学の基本概念	1. 生物学的・心理学的・社会的存在としての人間	講義・GW	
4		2. ライフサイクルと発達課題 (1) エリクソンの発達課題	講義・GW	
5		3. 危機と対処 (1) 適応と不適応 (2) 危機モデル (3) 防衛機制	講義・GW	
6	Ⅲ. 健康行動理論の基礎	1. 健康信念モデル・自己効力感	講義・GW	
7		2. 変化のステージモデル・計画的行動理論	講義・GW	
8		3. ストレスとコーピング・ソーシャルサポート・コントロール所在	講義・GW	
9	Ⅳ. 健康行動理論の実践	1. 健康行動理論の現場への応用・食事療法へのやる気とアドヒアランス	講義・GW	
10		2. 運動療法へのやる気とアドヒアランス 薬物療法へのやる気とアドヒアランス	講義・GW	
11		3. 手技へのやる気と健康増進プログラムへの参加のやる気とアドヒアランス	講義・GW	
12	Ⅴ. 看護の分野における行動科学	1. 看護師の変化	講義・GW	
13		2. 患者の変化	講義・GW	
14		3. 看護師と患者の関係性における変化	講義	
15	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	40	
担当教員	福田 廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	社会学			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会学の概要および病気と医療を対象とする医療社会学としての基礎的知識を教授する。 また、人間と社会とのかわりについて学び、現代社会の現状や問題と医療・看護がどのように関連しているかを教授する。						
一般目標	1. 社会学を学ぶ意義を理解し、社会の中の人間について理解できる。 2. 社会の仕組みや人間と社会の相互作用について理解できる。 3. 現代社会の現状や問題と健康・病気・医療について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 社会学（医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） 社会の仕組みや人間と社会の相互作用について理解できる。 現代社会の現状や問題と健康・病気・医療について理解できる。				
技術（精神運動領域） 疑問や不明な点を調べることができる。				
態度（情意領域） 学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ. 社会学の基礎	1. 社会学とは 2. 社会学の基礎概念（社会的行為、相互行為、集団・組織他） 3. 社会学的視点とモデル	講義	
2		4. 保健医療と社会学（医学と社会学、保健医療社会学の視点） 5. 社会調査の理論と技法（社会調査の方法と読み方）	講義	
3	Ⅱ. 健康・病気と社会	1. 健康・病気・ストレスのとらえ方（健康・病気のとらえ方の変化と医療の考え方） 2. 健康・病気の格差（経済格差と健康、ヘルスリテラシー他）	講義 映像視聴	
4		3. 「働き方」「働かせ方」と健康・病気（日本の働き方の変遷、バーンアウト、過労死他）	講義	
5	Ⅲ. 保健医療における行為・関係・組織	1. 健康・病気行動と病体験（病気健康行動の考え方他）	講義	
6		2. 患者－医療関係者とコミュニケーション（社会学における患者－医療関係の捉え方）	講義	
7		3. 性・ジェンダー・家族（社会的カテゴリーとしての性・ジェンダーの捉え方、多様性の考え方） 4. 地域社会と保健医療	講義 映像視聴	
8	Ⅳ. 保健医療の現代的課題	1. 保健医療の現代的変化（医療システム・日本の医療制度の変化と課題） 2. ケアと医療（「ケア」の時代による変化、社会のあり方との関係）	講義	

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習（GW・技術等）				評価なし	
担当教員	瀬崎 譲廣		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域防災学			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		
授業概要	災害発生のメカニズムと防災の基本を学ぶとともに、被害を最小化するための平時から復旧・復興期までの災害対策を考え、地域自治体の防災への取り組みの実践的知識について教授する。 また、災害時には支援やボランティア活動を担える内容とする。						
一般目標	1. 災害時に関する情報やハザードマップの活用ができる。 2. 避難所の運営や生活支援が理解できる。 3. 災害と状況を想定した訓練計画が実施できる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
地震・津波に関する災害情報の活用や地域防災への取り組みが説明できる。				
技術(精神運動領域)				
災害情報の活用や災害状況を想定したハザードマップの活用ができる。				
態度(情意領域)				
学習やグループワーク、演習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 自然災害について	自然災害の歴史と特徴および将来の災害について	講義	
2	II. 地域防災・減災の考え方	危機管理を踏まえた地域防災・減災活動の位置づけ	講義	
3	III. 地域防災・減災活動の創出について	地域防災・減災活動その1 地域性とハザード情報の理解	講義・演習	
4		地域防災・減災活動その2 災害対応と防災情報の活用	講義・演習	
5	IV. 災害後の地域の課題と支援	避難所における課題と運営の考え方	講義	
6		避難所設置・運営・支援の検討	講義・演習	
7	V. 持続的な地域防災・減災活動に向けた検討	地域防災・減災に関わる地域が抱える諸課題について	講義	
8		持続的な地域防災・減災活動のための検討	講義・演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	瀧本 浩一		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	カウンセリング理論と技法			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の看護場面で適切なコミュニケーションができる基礎的知識を教授する。実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得できる内容とする。						
一般目標	1. コミュニケーションの基礎的なスキルを理解し、それぞれのスキルを理解することができる。 2. ロールプレイを通じて、コミュニケーションスキルを体験的に理解する。 3. ロールプレイを通じて、自分のコミュニケーションの傾向に気づくことができる。 4. カウンセリングの理論が看護場面でどのように役立つのか説明できる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標

知識(認知領域)				
コミュニケーションスキルが看護場面でどのように役立つのか説明できる。				
技術(精神運動領域)				
実践的にロールプレイを体験して、スキルを身につけていく。				
態度(情意領域)				
相手の考えや感情を受け入れることができる。講義で体験したことを日常生活に取り入れることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. カウンセリングの考え方と カウンセリング理論	1. カウンセリングとは 2. カウンセリングの基本姿勢 3. カウンセリングの理論: 来談者中心療法・認知行動療法・交流分析他	講義	
2	II. コミュニケーションスキル1	1. 相づち、繰り返し、質問、要約 2. ロールプレイ 1 傾聴する	講義・演習	
3		3. ロールプレイ 2 相手の考えや感情をアセスメントする		
4	III. コミュニケーションスキル2	1. 言い換え、共感 2. ロールプレイ 3 言い換えて細やかな理解をする、肯定的な表現に言い換える	講義・演習	
5		3. ロールプレイ 4 自分が体験したことがないことに共感する	講義・演習	
6	IV. カウンセリングの実践と リフレクション	1. 事例演習	演習	
7	V. 体験と理論の統合	1. 実習での対応をとおして体験と理論を考察する	講義・演習	
8	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	山下 清可		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	文化人類学			単位数	1単位	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期	教員実務経験対象		有	
授業概要	人類学は人を総合的に理解しようとする学問分野であり、その一分野である文化人類学は社会文化的存在としての人間に焦点をあてる。本授業では文化人類学の視点と方法を理解した上で、その視点と方法を用いて病むこととそのケアに関わるさまざまなものごとやできごとを読み解いていく。						
一般目標	文化人類学の視点と方法を用いてさまざまな社会現象を理解できるようになる。とりわけ病むこととそのケア、医療に関わる社会現象を、文化人類学的視点と方法を用いて解釈できる。						
テキスト 参考書等	参考書：江口重幸・斎藤清二・野村直樹編『ナラティブと医療』金剛出版、2006　波平恵美子編『文化人類学[カレッジ版] 第3版』医学書院、2012						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
文化人類学(医療人類学)の基本的な視点・方法・理論を概説できる。病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。				
人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。				
少子高齢化がどのように保健・医療・福祉のあり方に変化をもたらすか説明できる。				
技術(精神運動領域)				
エスノグラフィ等質的研究の手法を理解し活用できる。				
人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。				
態度(情意領域)				
他者・異文化に敬意を払える。自身が所属する文化(医療専門職文化を含む)を相対化することができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 文化人類学とは	1. 授業の進め方、文化人類学の基本的な視点と方法の解説	講義	
2	II. 文化と医療	1. 国際保健における文化摩擦	講義	
3		2. 文化摩擦としての輸血拒否	講義	
4	III. グループ・ワーク	1. 女子割礼のケース	SGW	
5	IV. 親子	1. 親子の定義、生殖補助医療がもたらす親子関係の混乱	講義	
6	V. どこから人とみなすか	1. 何をもって人の誕生とするかをめぐる文化	講義	
7	VI. ライフステージ	1. 人の一生と通過儀礼	講義	
8	VII. 死生観	1. チベットの死生観	講義	
9	VIII. 御遺体は最初の患者である	1. 医療専門職のものの見方の特殊性	講義	
10	IX. サファリングとケアリング	1. シャーマニズムと医療はなぜ矛盾なく併用しうるか	講義	
11	X. 病むことの語り	1. ナラティブ(語り)に着目して、生活者にとっての病むことを理解する	講義	
12	XI. 医療専門職と病者の関係	1. 異文化間コミュニケーションとしての医療専門職・患者間関係	講義	
13	XII. 少子高齢化する日本社会	1. 高齢化が保健・医療のあり方をどのように変えるか	講義	
14	XIII. グループワーク 総括	1. 暮らしの現場のケアについて、嚥下障害のケース検討	SGW	
15		2. 嚥下障害のケースについてのプレゼン解説、総括と振り返り		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○		80	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)		○	○	15	
担当教員	星野 晋		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	教育学			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間形成にとって重要である教育の必要性や学ぶことの意味を考え、日本の教育の現状や教育問題が抱える課題について教授する。看護における教育的役割や生涯教育の意義について理解を深め、看護実践に応用するための視点について教授する。						
一般目標	1. 人間形成にとって教育の必要性や学ぶことの意味を理解できる。 2. 日本の教育の現状や教育問題が抱える課題について理解できる。 3. 看護における教育的役割や生涯教育の意義を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 基礎分野 教育学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
教育の必要性や教育問題を考えることができる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 社会の中の教育と看護	1. オリエンテーション(授業概要) 2. 社会・文化・人間形成 3. 社会における教育と看護	講義・GW	
2	II. 教育とはなにか:教育の概念	1. 形成と教化の世界 2. 子どもを価値とする教育 3. 学校で身につける力と生きる力	講義・GW	
3	III. 教育の対象:子ども観と発達	1. 子ども観の形成と背景 2. 発達という見方 3. 子どもの権利	講義・GW	
4	IV. 社会変動と教育環境の変化への対応	1. 大衆社会の成立と変容 2. 消費社会と情報化社会 3. 子どもを取り巻く社会の変容(子どもの貧困、子ども支援の地域資源、フードバンク、子ども食堂、ひとり親家庭)	講義・GW	
5		4. 少子化動向 5. 新型コロナウイルス等による学校・教育現場への影響(学校教育の遅れ、就職活動への影響、家族の収入減少による退学等)	講義・GW	
6	V. 教育をなりたせるもの ・教授:人を教える ・訓育:他者とのかかわりを導く	1. 学ぶ・教える 2. 省察 3. 「教える・学ぶ」の関係の中でおきること	講義・GW	
		4. かかわりを導く技法 5. 訓育の新たなかたち	講義・GW	
7	・擁護:教育の受け手を見まもる ・発達:教育を受けて成長する	1. 学校における養護の機能と過程 2. 学校における保健室の存在と役割 3. 地域社会の役割・参画	講義・GW	
		4. 教育による発達の理論 5. 発達における身体と感情 6. 発達と教育の未来像	講義・GW	
8	VI. 学びの場の拡大	1. 学校の役割と機能 2. 家庭教育の取り組み 3. 地域社会の役割・参画 4. フリースクール等 5. 主体的参加(ボランティア活動・国際交流活動等)	講義・GW	
9	VII. 教育の目標と評価	1. 評価と目標の関係 2. 現在の目標・評価論 3. パフォーマンス課題とルーブリック	講義・GW	
10	VIII. 教育の専門性と専門職種	1. 教育の担い手と教員 2. 学校教員の専門性と専門職性	講義・GW	
11	IX. 現代における教育の課題	1. 現代における教育の諸問題 2. 世界の教育 3. 教育の課題への取り組み	講義・GW	

12	X. キャリア教育	1. キャリア教育の時代をむかえて 2. キャリア教育の実際 3. これからのキャリア教育と課題	講義・GW	
	XI. ジェンダーとセクシュアリティ	1. ジェンダーと教育の課題 2. セクシュアリティと教育の課題 3. 性の多様性	講義・GW	
13	XII. 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	1. 障害・看護・教育 2. 障害にどう向き合うか 3. 「みんなが一緒に学ぶ」インクルーシブ教育 4. 心身障害児・発達障害児への教育の取り組みと実際	講義・GW	
14	XIII. 生涯教育・シティズンシップ教育	1. 生涯学習の必要性とあり方 2. 看護師の生涯教育 3. シティズンシップ教育の意義とあり方	講義・GW	
15	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○	○	20	
授業態度		○		評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	原田 拓馬		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	芸術と看護			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	豊かな感性を養い、情緒的発達を促すための音楽の必要性と、多様な音楽が日常生活に与える影響について教授する。また、さまざまなジャンルの音楽を体験し、音楽から得られる一体感、協調性などを養える内容とする。						
一般目標	1. 音楽が日常生活に与える影響について理解できる。 2. 歌う、聴く、音楽コミュニケーションをとおして自己の感性を磨くことができる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
音楽が日常生活に与える影響について理解できる。				
技術(精神運動領域)				
合唱曲の選曲をし、詞のストーリー性から音楽表現の工夫ができる。				
態度(情意領域)				
合唱や音楽鑑賞に積極的に参加できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 芸術における音楽	1. 音楽の意義 2. 音楽が人に与える影響	講義	
2	II. 音楽における表現	1. 音楽における呼吸・発声の大切さ 2. リズムとハーモニー 3. 表現力		
3	III. 音楽と看護との関連	1. 音楽療法の実際	講義	
4	IV. 多様なジャンルの音楽を体験(合唱と音楽鑑賞)	1. クラシック 2. ポピュラー 3. ロック 4. ジャズ 5. 邦楽 他	講義	
5			講義	
6	V. 合唱発表会に向けて	1. 合唱曲の選曲と表現の工夫(詞のストーリー性から音楽表現につなげる)	演習	
7	VI. 合唱発表会	1. 課題曲(グループで練習した曲)の発表 2. まとめ	演習	
8			演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)		○		30	
担当教員	モチエオ 久美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学 I			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の対象である人体の構造と機能(身体の支持と運動・栄養の消化と吸収)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に教授する。解剖生理学は、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる内容とする。						
一般目標	1. 人体の細胞・組織の構造と機能が理解できる。 2. 身体の支持と運動を担う骨・関節・筋の構造と機能が理解できる。 3. 栄養の消化と吸収を行う消化器の機能と構造が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
身体の支持と運動・栄養の消化と吸収について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	1. 解剖生理のための基礎知識	1. 人体について	講義	
2		2. 細胞・組織、構造と機能	講義	
3	II. 栄養の消化と吸収	1. 咽頭・食道の構造と機能	講義	
4		2. 腹部消化管の構造と機能(胃、小腸、大腸、栄養素の消化と吸収)	講義	
5				
6				
7		3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	
8				
9		4. 腹膜の構造と機能	講義	
10	III. 身体の支持と運動	1. 骨格について	講義	
11		2. 体幹の骨格と筋の構造と機能	講義	
12		3. 上肢の骨格と筋の構造と機能	講義	
13		4. 下肢の骨格と筋の構造と機能	講義	
14		5. 頭頸部の骨格と筋、筋の収縮	講義	
15				

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			95	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	村瀬 ひろみ		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の対象である人体の構造と機能(呼吸と血液のはたらき・血液の循環とその調節)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に教授する。解剖生理学は、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる内容とする。						
一般目標	1. ガス交換を行う呼吸器の部位、構造と機能が理解できる。 2. 血液循環を担う循環系の部位、構造と機能が理解できる。 3. 全身を循環する血液の組成と機能が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
呼吸と血液のはたらき・血液の循環とその調節について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 呼吸と血液のはたらき	1. 呼吸器の構造(気道、肺、胸膜・縦郭)	講義	
2		2. 呼吸の機能(呼吸器と呼吸運動)	講義	
3		3. 呼吸の機能(ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調整)	講義	
4			講義	
5		4. 呼吸の機能(呼吸器系の病態生理)	講義	
6		5. 血液の機能(血液の組成と機能、赤血球)	講義	
7		6. 血液の機能(白血球、血小板、血液の凝固)	講義	
8		7. 血液の機能(血液型と輸血)	講義	
9	Ⅱ. 血液の循環とその調節	1. 心臓の構造	講義	
10		2. 心臓の拍出機能	講義	
11			講義	
12		3. 末梢循環系の構造	講義	
13			講義	
14		4. 血液の循環の調節	講義	
15		5. リンパとリンパ管の構造	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の対象である人体の構造と機能(体液の調節と尿の生成・内臓機能の調節・生殖・発生と老化のしくみ)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に教授する。解剖生理学は、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる内容とする。						
一般目標	1. 体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系の部位、構造と機能が理解できる。 2. 内臓機能の調節を行う自律神経、内分泌とホルモンの構造と機能が理解できる。 3. 生殖と老化のしくみを担う生殖器の部位、構造と機能が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
体液の調節と尿の生成・内臓機能の調節・生殖・発生と老化のしくみについて説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 体液の調節と尿の生成	1. 腎臓の構造と機能	講義	澤田
2		2. 排尿路の構造と機能	講義	
3		3. 体液の調節	講義	
4	Ⅱ. 内臓機能の調節	1. 自律神経による調節(自律神経の機能・構造)	講義	野島
5			講義	
6		2. 内分泌系による調節(内分泌とホルモン、ホルモンの構造と作用)	講義	
7		3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞(視床下部-下垂体系、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺)	講義	
8			講義	
9			講義	
10		4. ホルモン分泌の調節	講義	
11		5. ホルモンによる調節の実際	講義	
12	Ⅲ. 生殖・発生と老化のしくみ	1. 男性生殖器	講義	澤田
13		2. 女性生殖器	講義	
14		3. 受精と胎児の発生	講義	
15		4. 成長と老化	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			15	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三 澤田 知夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	解剖生理学Ⅳ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の対象である人体の構造と機能(情報の受容と処理・身体機能の防御と適応)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に教授する。解剖生理学は、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる内容とする。						
一般目標	1. 情報の受容と処理を行う神経細胞・脊髄と脳・感覚器の部位、機能と構造を理解できる。 2. 身体機能の防御と適応を行う皮膚・粘膜・免疫等の構造と機能を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
情報の受容と処理・身体機能の防御と適応について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 情報の受容と処理	1. 神経細胞の構造と機能	講義	木田 崎本 石川
2		2. 脊髄と脳の構造と機能	講義	
3			講義	
4		3. 脊髄神経と脳神経の構造と機能	講義	
5		4. 脳の高次機能	講義	
6		5. 運動機能と下行伝導路	講義	
7		6. 感覚機能と上行伝導路	講義	
8		7. 目の構造と視覚	講義	
9		8. 耳の構造と聴覚・平衡覚	講義	
10		9. 味覚と嗅覚、疼痛	講義	
11	Ⅱ. 身体機能の防御と適応	1. 皮膚の構造と機能	講義	澤田
12		2. 生体の防御機能	講義	
13			講義	
14		3. 代謝と運動	講義	
15		4. 体温とその調節	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			95	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	崎本 裕也 木田 裕之 石川 淳子 澤田 知夫		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	生化学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	この授業では、まず細胞の構造および細胞を構成する化学物質の構造と性質を学び、それらの物質が体内でどのように変化・代謝されているかを解説する。続いて、遺伝情報がどのような分子に書かれており、どのように発現するのか、そして遺伝情報の異常がどのような結果をもたらすか、を解説する。また、疾病の代表として糖尿病を取り上げ、この疾病において、代謝がどのように変化しているか、それによりどのようなことが引き起こされるかを説明する。さらに、いくつかの生化学検査の方法と原理についても学ぶ。						
一般目標	1.人間の生体を構成する物質が何であるか理解できる。 2.物質代謝を理解できる。 3.遺伝情報と発現の方法を理解できる。 4.疾病の成り立ちを理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護講座 基礎専門分野 人体の構造と機能2 生化学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
タンパク質・糖質・脂質の構造を説明できる。 糖代謝・脂質代謝・アミノ酸代謝について説明できる。 DNA・RNAの構造と遺伝情報に基づいたタンパク質の合成を説明できる。 糖尿病における代謝の変化を説明できる。				
態度(情意領域)				
授業に真面目に取り組む。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 生体の成り立ちと生体分子	1. 生化学を学ぶために必要な生物学と化学の基礎	講義	
2	II. タンパク質の構造と性質	1. アミノ酸の種類、ペプチド結合、タンパク質の構造、変性	講義	
3	III. 酵素の性質と働き	1. 酵素とは何か、命名法、酵素反応の特徴	講義	
4	IV. 糖の代謝	1. 単糖類と多糖類 2. 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ATP合成	講義	
5	V. 脂質の構造	1. 脂肪の種類と性質 2. 脂質代謝	講義	
6		1. リポタンパク質 2. 脂質代謝異常	講義	
7	VI. アミノ酸およびタンパク質の代謝	1. タンパク質の代謝 2. 必須アミノ酸の合成 3. アミノ酸の分解、代謝異常	講義	
8	VII. 糖尿病	1. 糖尿病の成り立ち、糖化反応、アシドーシス、脂質代謝との関係	講義	
9	VIII. 核酸の役割	1. DNA・RNAの構造、染色体の構造、遺伝情報とは？ 2. DNAからタンパク質へ	講義	
10	IX. ホルモン	1. ホルモンとは 2. ホルモンの種類と作用機序 3. 各種ホルモン	講義	
11	X. ビタミン	1. ビタミンの種類と作用	講義	
12	XI. 内部環境の恒常性	1. 内部環境とその調整	講義	
13	XII. 消化・吸収	1. 体に必要な栄養素 2. 食品の摂取・消化・吸収 3. エネルギー量	講義	
14	XIII. 体液・血液	1. 体液の組成 2. 血液の構成とその働き	講義	
15	XIV. 尿・免疫系	1. 腎臓の機能と体液量の調整 2. 免疫系・運動系・消化器系	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	村上 柳太郎		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	栄養学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人間にとっての栄養の意義や生体が発育・成長し、健康な生活を営むために必要な栄養、食事の摂り方について教授する。また、生活習慣病や低栄養等を対象の食事および栄養状態から、食生活と健康づくりとの関連性を理解できるように教授する。						
一般目標	1. 栄養素の働きと代謝が理解できる。 2. 発達段階における栄養の目的と摂取方法が理解できる。 3. 治療食の実際が理解できる。 4. 治療食の調理ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学(医学書院) 食品成分表2021(医歯薬出版) 糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂)、自己作成資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 食生活の急激な変化を年代別に振り返ると共に食生活の基本知識を学ぶことができる。 授乳期から老齢期に至るまでの段階による栄養について詳しく学ぶことができる。				
技術(精神運動領域) 健康に関する(栄養素・栄養計算・バランスガイド・BMI・エネルギー必要量の求め方)について学ぶことができる。				
態度(情意領域) 主体的に参加することができる。(治療食の調理実習) 事前準備ができる。(テキスト等の準備、ファイルでの整理整頓等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 人間栄養学と看護	1. 栄養学を学ぶということ 2. 保健・医療における栄養学 3. 看護と栄養	講義	
2	II. 栄養素の種類と働き	1. 栄養素の種類と働き 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維	講義	
3	III. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝	1. 食物の消化 2. 血漿成分と栄養素 3. 栄養素の吸収・代謝	講義	
4	IV. エネルギー代謝	1. 食品のエネルギー 2. 体内のエネルギー 3. エネルギー代謝の測定 4. エネルギー消費	講義・演習	
5	V. 食事と食品	1. 食事摂取基準 2. 食品群とその分類 3. 食品に含まれる栄養素 4. 食品の調理	講義	
6	VI. 栄養ケア・マネジメント	1. チームアプローチと栄養ケア・マネジメント 2. 栄養ケア計画・実施とモニタリング	講義・演習	
7	VI. 栄養状態の評価・判定	1. 栄養アセスメントの意義 2. 栄養アセスメントの方法	講義	
8	VII. ライフステージと栄養	1. 乳児期における栄養 2. 幼児期における栄養 3. 学童期における栄養 4. 思春期・青年期における栄養 5. 成人期における栄養 6. 高齢期における栄養	講義・演習	
9	VIII. 臨床栄養	1. チームで取り組む栄養管理 2. 病院食 3. 栄養補給法	講義	
10		4. 疾患・症状別食事療法	講義	
11	IX. 健康づくりと食生活	1. 食生活の変遷と栄養の問題点 2. 生活習慣病の予防 3. 食生活の改善への施策 4. 食の安全性と表示	講義	
12	X. 疾患別食事療法	1. 食品交換表による治療食の献立のたてかた・考え方 2. 糖尿病の治療食作りの献立と調理方法について	講義	
13	XI. 食事療法における調理の実際	1. 糖尿病の治療食作り:調理実習	実習	
14				
15	XII. リフレクション	1. 栄養学全般の振り返り	講義・演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○		10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)			○	10	
担当教員	原田 綾子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病理学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	教員実務経験対象		有	
授業概要	人体の基本構造と病因の分類を解説し、細胞・組織の損傷と修復過程について教授する。 自然免疫と適応免疫・細胞性免疫と液性免疫について解説し、炎症反応・アレルギー・自己免疫疾患の発症機序を教授する。 先天異常・遺伝子異常や代謝障害について解説し、それらに伴う病態について教授する。 腫瘍の組織発生による分類や癌の転移と進行度について解説し、腫瘍の診断と治療法を教授する。						
一般目標	1. 人体の基本構造と病因の分類を理解し、細胞・組織の損傷と修復過程について説明できる。 2. 免疫の概念と仕組みを理解し、炎症反応・アレルギー・自己免疫疾患について説明できる。 3. 遺伝子、DNA、染色体の構造を理解し、先天異常と遺伝子疾患について説明できる。 4. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、腫瘍の組織発生による分類や癌の転移と進行度を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
病気の成因や病気の分類と成り行きが理解できる。病理診断の役割と意義を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。				
態度(情意領域)				
予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理できる。授業での教員の質問に積極的に回答できる。自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 人体の基本構造と病因の分類	1. 人体の基本構造と働き、臓器の全体像・病気の原因(病因)の分類	講義	
2	II. 細胞・組織の損傷と修復	1. 細胞の損傷と適応・肝臓の代謝機能・高脂血症・動脈硬化症・虚血性心疾患	講義	
3	III. 循環障害	1. 循環障害・充血とうっ血・血小板・凝固・線溶機構・出血と血栓	講義	
4	IV. 出血性疾患と血栓塞栓症	1. 出血性疾患・病的血栓形成の3要因・DIC・ショックの分類	講義	
5	V. 免疫の概念と仕組み 免疫システム 炎症・アレルギー・自己免疫	1. 免疫の概念と仕組み・免疫担当細胞の分化と成熟	講義	
6		2. 自然免疫と適応免疫・細胞性免疫と液性免疫・能動免疫と受動免疫	講義	
7		3. 炎症反応・アレルギーの分類・代表的な自己免疫疾患	講義	
8	VI. 臓器移植と造血幹細胞移植	1. 免疫不全症候群・臓器移植と造血幹細胞移植・ヒト白血球抗原(HLA)	講義	
9	VII. 再生医療・造血器腫瘍	1. 移植に対する免疫反応・再生医療と細胞療法・造血器腫瘍	講義	
10	VIII. 代謝障害	1. タンパク質代謝障害・糖代謝と糖尿病・ビリルビン代謝と黄疸・肝臓・胆嚢の疾患	講義	
11	IX. 老化と死	1. 細胞の老化と個体の老化・加齢に伴う諸臓器の変化・尊厳死と緩和医療	講義	
12	X. 先天異常と遺伝子疾患	1. 先天性異常・遺伝子、DNA、染色体・先天異常・遺伝性疾患の診断	講義	
13	XI. 良性腫瘍と悪性腫瘍 腫瘍の診断と治療	1. 良性腫瘍と悪性腫瘍・腫瘍の組織発生による分類・癌の転移と進行度	講義	
14		2. 腫瘍の診断と治療・造血器腫瘍総論・急性白血病・慢性白血病	講義	
15	XII. 病理診断の実際	1. 病理診断の意義・細胞診断・術中迅速診断・病理解剖	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			30	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	野島 順三		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅰ（循環機能障害、呼吸機能障害、内分泌・代謝機能障害）			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	解剖生理学の知識をもとに、循環機能障害、呼吸機能障害、内分泌・代謝機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を教授する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療など看護実践に必要な基礎的知識を教授する。						
一般目標	1. 循環機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解ができる。 2. 呼吸機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解ができる。 3. 内分泌・代謝機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 循環器、呼吸器、内分泌・代謝 （医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） 循環機能障害、呼吸機能障害、内分泌・代謝機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について説明できる。				
技術（精神運動領域） 疑問や不明な点を調べることができる。				
態度（情意領域） 学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 循環機能障害	1. 症状とその病態生理	講義	上田
2		2. 検査と治療・処置	講義	
3		3. 主な疾患の理解 1) 虚血性心疾患 2) 心不全、血圧異常	講義	
4		3) 不整脈 4) 弁膜症、心膜炎	講義	
5		5) 心筋疾患 6) 動脈系・静脈系疾患 7) リンパ系疾患	講義	
6	Ⅱ. 呼吸機能障害	1. 症状とその病態生理	講義	池田 金田
7		2. 検査と治療・処置	講義	
8		3. 主な疾患の理解 1) 感染症 2) 間質性肺疾患	講義	
9		3) 気道・肺循環疾患 4) 呼吸調節に関する疾患	講義	
10		5) 肺腫瘍 6) 胸膜・縦郭・横隔膜	講義	
11		7) 胸部外傷	講義	
12	Ⅲ. 内分泌・代謝機能障害	1. 症状とその病態生理 2. 検査と治療・処置	講義	東
13		3. 主な疾患の理解 1) 内分泌疾患(視床下部・下垂体前葉系・後葉系疾患 甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、消化管神経、内分泌腫瘍)	講義	
14			講義	
15		2) 代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常)	講義	

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	上田 亨 池田 安宏 金田 好和 東 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅱ（消化・吸収機能障害、造血機能障害、アレルギー・膠原病・感染症）			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	解剖生理学の知識をもとに、消化・吸収機能障害、造血機能障害、アレルギー・膠原病・感染症における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を教授する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療など看護実践に必要な基礎的知識を教授する。						
一般目標	1. 消化・吸収機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。 2. 造血機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。 3. アレルギー・膠原病・感染症の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 消化器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
消化・吸収機能障害、造血機能障害、アレルギー・膠原病・感染症における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 消化機能障害	1. 症状とその病態生理	講義	若林
2		2. 検査と治療	講義	
3		3. 主な疾患の理解	講義	
4		1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸疾患 3) 腸および腹膜疾患	講義	
5		4) 肝臓・胆嚢の疾患 5) 膵臓の疾患 6) 急性腹症 7) 腹部外傷	講義	
6	Ⅱ. 造血機能障害	1. 検査・診断と症候・病態生理	講義	大津山
7		2. 主な疾患と治療の理解	講義	
8		1) 赤血球系の異常 2) 白血球系の異常	講義	
9		3) 造血器腫瘍の治療および支持療法 4) 白血病	講義	
10		5) 悪性リンパ腫 6) 多発性骨髄腫 7) 骨髄異形成症候群 8) 出血性疾患: 血小板異常、凝固異常、DIC	講義	
11	Ⅲ. アレルギー・膠原病・感染症	1. 免疫のしくみとアレルギー 2. 診断・検査と治療	講義	大津山
12		3. アレルギーの症状と主な疾患の理解 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) 食物・薬物アレルギー 4) アナフィラキシー	講義	
13		4. 自己免疫性疾患の症状とその病態生理 5. 検査と治療	講義	
14		6. 主な疾患の理解 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 強皮症 4) 筋炎 5) 血管炎	講義	
15		7. 感染症の病態生理 8. 検査・診断・治療 9. 主な疾患の理解 1) インフルエンザ 2) 消化管感染症 3) HIV感染症 4) 多剤耐性菌感染症	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	大津山 賢一郎 若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅲ(脳・神経機能障害、運動機能障害、排泄機能障害、麻酔法)			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	解剖生理学の知識をもとに、脳・神経機能障害、運動器機能障害、排泄機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を教授する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療など看護実践に必要な基礎的知識を教授する。						
一般目標	1. 脳・神経機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。 2. 運動機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。 3. 排泄機能障害の症状と病態生理、検査と治療、主な疾患について理解できる。 4. 外科的治療における麻酔法と生体反応について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 脳・神経、運動器、腎・泌尿器				臨床外科看護総論(医学書院)		

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
脳・神経機能障害、運動器機能障害、排泄機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 脳・神経機能障害	1. 症状とその病態生理	講義	長谷
2		2. 検査・診断と治療・処置	講義	
3		3. 主な疾患の理解 1)脳疾患 2)脊髄疾患 3)末梢神経障害 4)筋疾患・神経疾患 5)脱髄・変性疾患 6)脳・神経系の感染症 7)脳腫瘍 8)認知症	講義	
4			講義	
5			講義	
6			講義	
7	Ⅱ. 運動機能障害	1. 症状とその病態生理 2. 診断・検査と治療・処置	講義	坂本
8		3. 主な疾患の理解 1)外傷性運動器疾患 (骨折、脱臼、捻挫・打撲、神経・筋・腱・靱帯の損傷)	講義	
9		2)炎症性疾患 3)腫瘍 4)代謝性疾患	講義	
10		5)神経・筋・腱の疾患 6)上肢・下肢の疾患 7)脊椎の疾患	講義	
11	Ⅲ. 排泄機能障害	1. 腎・泌尿器の構造と機能 2. 症状とその病態生理	講義	東
12		3. 検査と治療・処置 4. 主な疾患の理解 1)腎不全とAKI・CKD 2)ネフローゼ症候群	講義	
13		3)糸球体腎炎 4)全身性疾患による腎障害 5)尿路結石症 6)尿路・性器の腫瘍	講義	
14	Ⅳ. 麻酔法と生体反応	1. 外科治療における麻酔法と生体反応	講義	佐甲
15		1)麻酔の種類 2)術前・術中・術後管理	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	長谷 亮佑 東 真由美	坂本 相哲 佐甲 美和	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅳ(小児)			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	小児期における主な機能障害の原因・病態・検査・治療について教授する。						
一般目標	1. 脳神経・循環機能障害の原因、病態、症状、治療を理解できる。 2. 呼吸・運動機能障害の原因、病態、症状、治療を理解できる。 3. 内分泌・代謝機能障害の原因、病態、症状、治療を理解できる。 4. 造血機能障害・悪性腫瘍疾患の原因、病態、症状、治療を理解できる。 5. 消化機能障害の原因、病態、症状、治療を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
各臓器の解剖生理学を想起しながら、その働きについて述べることができる。 検査データや症状・発達段階を分析・解釈して、事象やデータ間の構成要素や関係を判断し、疾病構造について理解できる。 病態が理解でき治療との関連性がわかる。				
技術(精神運動領域)				
発達段階に応じたフィジカルアセスメントができる。 発達段階に応じた検査・治療時の援助技術を考えることができる。				
態度(情意領域)				
特定の症状や現象・状況・条件などを感知して、問題状況を発見する能力(感受性)が持てる。 学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 呼吸機能障害	1. 気管支喘息 2. 肺炎	講義	
2	II. 脳神経・循環機能障害	1. 動脈管開存症 2. ファロー四徴症	講義	
3	III. 内分泌機能障害	1. ホルモンと疾患の特徴 2. 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症	講義	
4	IV. 代謝機能障害	1. 代謝機能の障害 1) 先天性代謝異常 2) 糖尿病 3) アセトン血性嘔吐症	講義	
	V. 運動器機能障害	1. 運動機能の障害 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸	講義	
5	VI. 腎・泌尿器機能障害	1. 腎・泌尿器系の障害 1) ネフローゼ症候群	講義	
	VII. 造血機能障害・悪性腫瘍	1. 造血器疾患 1) 鉄欠乏性貧血 2) 再生不良性貧血 3) DIC 2. 悪性腫瘍 1) 白血病	講義	
6	VIII. 消化機能障害	1. 消化器疾患による影響 2. 先天性の形態異常をもつ子ども 3. 主な疾患 1) 口腔疾患・頸部嚢胞・瘻孔・横隔膜の疾患 2) 食道の疾患・胃・十二指腸疾患 3) 小腸・大腸の疾患・腹膜・腹壁の疾患 4) 肝臓・胆のうの疾患・急性乳幼児下痢症 5) 急性胃腸炎	講義	
7		6) 唇裂・口蓋裂の子どもの看護 7) 食道閉鎖症の子どもの看護 8) 肥厚性幽門狭窄の症子どもの看護 9) 鎖肛の子どもの看護 10) 胆道閉鎖症の子どもの看護 11) 急性胃腸炎の子どもの看護	講義	
8	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			30	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	磯部 純子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅴ(女性生殖器・妊娠期・新生児期)			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	女性のライフサイクルにおける疾患や妊娠・分娩・新生児・産褥における異常の原因・病態・検査・治療について教授する。						
一般目標	1. 女性生殖器の原因、病態、症状、治療を理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥の疾患を理解できる。 3. 新生児の疾患を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
女性生殖疾患の原因、症状、治療が説明できる。 妊娠・分娩・産褥の疾患が説明できる。 新生児の疾患を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
解剖生理学の第10章女性生殖器を事前に学習し、主体的に講義に参加する。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 女性生殖器の構造と機能	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 女性生殖器の特有な診察・検査と治療・処置について	講義	
2	II. 女性生殖器疾患	1. 性分化疾患・外陰・膣疾患 2. 卵巣・子宮における疾患 3. 機能的疾患 4. 性感染症	講義	
3	III. 妊娠期の疾患	1. 妊娠の成立・妊娠期間の異常 2. 妊娠を伴う疾患	講義	
4			講義	
5	IV. 分娩期の疾患	1. 分娩の経過について 2. 分娩3要素の異常(産道・娩出力・胎児付属物)	講義	
6		3. 胎児の異常(骨盤位) 4. 帝王切開、産科処置	講義	
7	V. 産褥・新生児の疾患	1. 産褥期の特徴及び産褥期特有の疾患 2. 新生児(早期)の疾患	講義	
8	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	病態論Ⅵ(精神)			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神科医療の現場で出会う代表的な疾患にどのようなものがあるか、またその状態や経過からの症状の把握や、診断に至る過程、そして治療およびリハビリテーションや社会復帰支援、在宅支援などについて教授する。						
一般目標	1. 代表的な精神疾患について、その状態像や経過から症状の把握、診断の手順と方法、治療およびリハビリテーション等について、本人や家族への支援の観点から理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護学2 精神看護の基礎 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
代表的な精神疾患について症状や経過を理解し、診断・治療リハビリテーションなどの対処方法を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
代表的な精神疾患を持つ人に対処できる看護実践能力を身に着ける。 精神科チームの医療の一員として、関わる際に担うべき役割について理解できる。				
態度(情意領域)				
精神疾患を持つ個々の人の人権を尊重し、信頼関係を築き、適切な治療的環境をとるとはどういうことか理解できる。 学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 精神疾患概論	1. 社会の動向と精神科医療の現状 2. 精神疾患の精神症状とは	講義 DVD	
2	II. 代表的な精神疾患1	1. 統合失調症 2. 精神医学的診断の手順と実際	講義 RP	
3	III. 精神科での治療	1. 精神科治療の実際 2. 薬物療法を中心に	講義	
4	IV. 心理社会的療法	1. 精神療法 2. 精神障害の概念と精神科リハビリテーション	講義 GW	
5	V. 代表的な精神疾患2	1. 気分障害 2. 診断と治療、復職支援など	講義	
6		3. 物質関連障害 4. 症状性を含む器質性精神障害	DVD 講義	
7		5. 神経症 6. ストレス関連障害;PTSDなど	講義	
8	VI. 社会の中の精神障害	1. 精神疾患を有する者の保護およびメンタルヘルス	GW	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未 修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	吉次 徹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	微生物学			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法について教授する。						
一般目標	1. 微生物の種類と性質を理解できる。 2. 感染症と生体防御機構を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進4 微生物学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
微生物の種類と性質が説明できる。 感染症と生体防御機能が説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 微生物学の基礎	1. 微生物と微生物学	講義	
2		2. 細菌の性質	講義	
3		3. 真菌の性質	講義	
4		4. 原虫の性質	講義	
5		5. ウイルスの性質	講義	
6	Ⅱ. 感染とその防御	1. 感染と感染症	講義	
7		2. 感染に対する生体防御機構	講義	
8		3. 感染源・感染経路からみた感染症	講義	
9		4. 感染症の予防	講義	
10		5. 感染症の検査と診断	講義	
11		6. 感染症の治療	講義	
12	Ⅲ. おもな病原微生物	1. 病原細菌と細菌感染症	講義	
13		2. 病原真菌と真菌感染症	講義	
14		3. 病原原虫と原虫感染症	講義	
15		4. おもなウイルスとウイルス感染症	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	常岡 英弘		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	医療放射線学			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	放射線を用いた検査と放射線治療の適応と有効性、人体に及ぼす影響について教授する。						
一般目標	1. 放射線の影響、利用、防護などの基礎知識を理解できる。 2. 画像診断の方法を理解できる。 3. 放射線治療を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
放射線の影響、利用、防護などの基礎知識が説明できる。画像診断の方法が説明できる。 放射線治療が説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 放射線とは	1. 放射線の基礎知識 2. 放射線の利用 3. 放射線の影響 4. 放射線の防護 5. 医療現場の放射線画像	講義	山下
2	II. 画像診断	1. X線検査(一般撮影、アンギオ) 2. X線診断	講義	小池
3		3. MRIの特徴 4. MRI画像	講義	山根
4		5. CT撮影装置 6. CT画像処理	講義	小池
5		7. 核医学検査(ガンマカメラ、骨シンチグラム) 8. 超音波検査の特徴、超音波画像診断 9. IVR・血管造影	講義	田辺
6	III. 放射線治療	1. 放射線治療の原理 2. 放射線治療の基礎 3. 正常組織の耐容線量と治療効果	講義	鮎川
7		4. 放射線治療の看護 5. 放射線治療における看護師の役割 6. 放射線治療に伴う有害反応と看護 7. 部位別放射線治療の実践	講義	
8		1. 放射線による障害と防護	講義	
	IV. 放射線防御		講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	山下 雅刀 山根 正聡 鮎川 香苗	小池 正紘 田辺 昌寛	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	薬理学			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	薬物についての基礎的知識を理解し、薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知る。						
一般目標	1. 薬物の特徴、発生機序、影響などを理解する。 2. 薬物の適正な使用方法を理解する。 3. 疾患の治療に用いる薬物の主作用・副作用を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
薬物の特徴、発生機序、影響などが説明できる。 薬物の適正な使用方法が説明できる。 疾患の治療に用いる薬物の主作用や副作用が説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	薬理学総論(1)	1. 医薬品とは	講義	
		2. 医薬品の分類と名前		
		3. 医薬品に関する法律		
2	薬理学総論(2)	1. 薬の体内挙動(薬物動態学)	講義	
		2. 薬物相互作用		
		3. 薬効に影響する要因		
		4. 薬物使用の有益性と危険性		
3	免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬	1. 免疫抑制薬と免疫増強薬	講義	
		2. ワクチン		
		3. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬		
		4. ステロイド性抗炎症薬と非ステロイド性抗炎症薬		
4	末梢神経作用薬	1. 自律神経作用薬	講義	
		2. 筋弛緩薬		
		3. 末梢での神経活動に作用する薬物		
5	中枢神経作用薬(1)	1. 抗精神病薬	講義	
		2. 抗うつ薬		
		3. 催眠薬・抗不安薬		
6	中枢神経作用薬(2)	1. パーキンソン病治療薬	講義	
		2. 抗てんかん薬		
		3. 麻薬性鎮痛薬		
7	中間試験	第1回～第6回の範囲	試験	
8	抗感染症薬と抗がん薬	1. 抗感染症治療の基礎事項	講義	
		2. 抗菌薬		
		3. 抗ウイルス薬		
		4. 抗がん薬の作用機序と有害作用		

9	循環器系作用薬(1)	1. 狭心症治療薬	講義	
		2. 心不全治療薬		
		3. 抗不整脈薬(局所麻酔薬を含む)		
10	循環器系作用薬(2)	1. 高血圧治療薬	講義	
		2. 利尿薬		
11	血液系作用薬	1. 血液凝固系、線溶系に作用する薬物	講義	
		2. 血液に作用する薬物		
12	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬	1. 気管支喘息治療薬	講義	
		2. 消化性潰瘍治療薬		
13	代謝系疾患治療薬	1. 糖尿病治療薬	講義	
		2. 治療薬としてのホルモンとホルモン拮抗薬		
14	その他の薬	1. 眼科用薬、皮膚科用薬、消毒薬など	講義	
15	試験	第8回～第14回の範囲	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
中間テスト	○			50	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	乾 誠		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	保健統計			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	保健統計は保健・医療・看護の分野での問題を考えていく上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報を学ぶのに応用できる科目である。授業では、基礎的な統計学の知識を説明し、さらに、あるデータが得られた時にどのような統計方法が使えるか(使うべきか)、またその統計処理した結果をどう読み取るかを説明する。さらに人口静態統計、人口動態統計の基礎的なものを教授する。						
一般目標	1. 統計学の基礎となる確率・分布理論が理解できる。 2. 測定データから適切な検定方法を選び実行することができる。 3. 統計分析結果を読み取ることができる。 4. 人口静態、人口動態統計値の基本を理解することができる						
テキスト 参考書等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 系統看護学講座 基礎分野 統計学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
保健統計の基礎的技法を説明できる。 保健統計の正しい読み取り方、まとめ方を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 保健統計とは	1. 尺度、度数分布、代表値、散布度	講義 演習	
2	II. 正規性の検定	1. 確率、確率分布、母集団統計値の推定	講義 演習	
3	III. 仮説検定(1)	1. 仮説検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準(危険率)、検定統計量	講義 演習	
4	仮説検定(2)	2. 2標本の平均値の差の検定(t検定)	講義 演習	
5	仮説検定(3)	3. χ^2 二乗検定(適合度の検定、独立性の検定)	講義 演習	
6	IV. 相関と回帰	1. 相関係数	講義 演習	
7	V. 国民保健の現状	2. 人口静態・動態統計、統計図表の作成と分類	講義 演習	
8	まとめ、試験	まとめ、試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)		○		評価なし	
担当教員	酒井 徹也		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	公衆衛生学			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	集団の疾病予防や健康の維持・増進を目的とする公衆衛生の概念と基本的な内容や、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを教授する。さらに人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを教授する。						
一般目標	1. 人口変動や疾病構造の変化とその要因を理解できる。 2. 我々の健康生活を支える様々な保健体制の現状を理解できる。 3. 保健・医療・福祉の連携の現状と今後の課題について考えることができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生学（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
公衆衛生の理念、医療の動向と医療保障について説明できる。 新しい公衆衛生のヘルスプロモーションを学び、地域保健の意義を説明できる。 環境保健を学び、自身の健康づくりと共に、家族や職場、地域での総合的な健康づくりを推進する方法を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 公衆衛生とは	1. 看護学生が公衆衛生を学ぶ意味を理解する。	講義	
2	II. 公衆衛生の仕組み	1. 我が国における公衆衛生の仕組みを理解する。	講義	
3	III. 環境と健康(1)	1. 地球規模の健康と身近な環境と健康、生活のつながりを知る	講義	
4	環境と健康(2)	2. 環境保全の大切さを理解する	講義	
5	IV. 国際保健	1. 国際保健活動の現場と国際保健の使命を知る	講義	
6	V. 疫学・保健統計(1)	1. 集団の健康状態を表す指標と意味を知る	講義	
7	疫学・保健統計(2)	2. 公衆衛生の場での疫学を知る。	講義	
8	VI. 感染症対策	1. 感染症とその予防対策を知る。	講義	
9	VII. 地域保健(1)	1. 母子保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
10	地域保健(2)	2. 成人保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
11	地域保健(3)	1. 高齢者保健、精神保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
12	地域保健(4)	2. 歯科保健、障害者保健、難病保健の対象となる人々、しくみ、活動を知る。	講義	
13	VIII. 学校保健	1. 学校保健の目的としくみを知る	講義	
14	IX. 産業職場	1. 職場と健康について知る。	講義	
15	X. 災害保健	1. 健康危機管理、災害保健について知る。	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	伊藤 悦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	社会福祉Ⅰ（社会保障制度）			単位数	1単位	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会保障と社会福祉の理念および社会の中で生活する人々の生活問題に対する法律や施策の基礎的知識について教授する。						
一般目標	1. 現代社会の変化と社会福祉・社会保障について理解できる。 2. 医療保険制度と保険診療のしくみについて理解できる。 3. 介護保険制度の概要と今後の課題を理解できる。 4. 年金保険制度、社会手当、労働保険制度について理解できる。 5. 低所得問題と公的扶助制度について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉（医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） 人々の生活問題に対する法律や施策について説明できる。				
技術（精神運動領域） 疑問や不明な点を調べることができる。				
態度（情意領域） 学習やグループワークに積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 社会保障制度と社会福祉	1. 社会保障制度の概念・目的・機能・体系	講義	
2		2. 社会福祉の法制度 ①社会福祉6法	講義・GW	
3	Ⅱ. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	1. 現代社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向	講義	
4	Ⅲ. 医療保障	1. 医療保険制度の構造と体系 2. 健康保険と国民健康保険 3. 高齢者医療制度	講義	
5	Ⅳ. 介護保障	1. 介護保険制度の概要 2. 介護保険制度の課題と展望	講義	
6	Ⅴ. 所得保障	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度	講義	
7	Ⅵ. 公的扶助	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得対策	講義	
8	Ⅶ. 社会保障制度について考える	提示された課題について各グループで検討・考察	GW	

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			5	
課題レポート	○			5	
授業態度			○	5	
演習(GW・技術等)			○	5	
担当教員	佐藤 正昭		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	社会福祉Ⅱ			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会保障制度のうち、社会福祉における各分野の実態と課題を知り、それに対する施策を学ぶとともに、医療現場、地域社会等多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤としての援助の種類や方法を教授する。						
一般目標	1. 高齢者福祉の施策と老人保健事業を理解する。 2. 障害者の定義と障害者福祉の施策について理解する。 3. 児童に関わる法と施策、子育て支援、児童虐待や子どもの人権と貧困対策を理解する。 4. 地域包括システムにおける他機関との連携と看護業務での必要性を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
社会福祉分野とサービスおよび社会福祉実践の援助の方法を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習やグループワークに積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 社会福祉分野とサービス	1. 高齢者福祉	講義	
2		2. 障害者福祉	講義	
3		3. 児童家庭福祉	講義	
4		4. 少子化対策と子育て支援および児童虐待対策 5. 子どもの人権と貧困対策	講義・GW	
5	Ⅱ. 社会福祉実践と医療・看護	1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術(ケースワーク)	講義・GW	
6		3. 集団援助技術(グループワーク) 4. 間接援助技術と関連援助技術	講義 GW	
7		5. 社会福祉援助の検討課題 6. 地域包括ケアシステムにおける職種間の連携について	講義	
8	Ⅲ. 医療・看護・福祉の連携の実際	7. 医療・看護・福祉の連携の実際を考える	講義・GW	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	20	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)			○	評価なし	
担当教員	横山 順一		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	家族看護			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	さまざまな健康レベルにおける家族のヘルスニーズや健康問題によって発生する課題を理解し、家族機能を高めるための看護を学修する。						
一般目標	1. さまざまな健康レベルの家族の健康問題によって発生する課題と援助の必要性を理解する。 2. 家族を単位としたアセスメントと看護問題の明確化の方法を理解する。 3. 家族に対する看護を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 家族看護学（医学書院）						

到達目標

知識(認知領域)				
健康問題によって発生する課題や家族機能を高めるための看護について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習やグループワークに積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	
1	I. 家族看護とは II. 家族看護の対象理解	1. 家族看護の対象・役割、ライフサイクルと家族 2. 家族構造、家族機能、現代の家族とその課題	講義	
2	III. 家族看護を支える理論と看護展開の方法	1. 家族理論、家族アセスメントモデル 2. 家族看護の展開: 情報収集、家族アセスメント、家族の看護問題の明確化と看護計画	講義・GW	
3	IV. 家族看護の実践 V. 家族看護と多職種連携	1. 情報収集、家族アセスメント、家族の看護問題の明確化と看護計画 2. 家族を支援をする多職種連携の実践	講義・GW	
4	VI. 急性期疾患の患者をもつ家族の看護	1. 家族の特徴 2. 事例による家族アセスメントと援助の方向性	講義・GW	
5	VII. 慢性期疾患の患者をもつ家族の看護	1. 家族の特徴 2. 事例による家族アセスメントと援助の方向性	講義・GW	
6	VIII. 終末期疾患の患者をもつ家族の看護	1. 家族の特徴 2. 事例による家族アセスメントと援助の方向性	講義・GW	
7	IX. 家族の援助の実践	1. 援助計画に基づいた援助の実践とリフレクションおよび援助の修正	演習	
8	X. まとめ	1. 学習をもとに各自が考える家族について、多様な家族の在り方、家族の捉え方などを考察	講義・GW	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4): 90点以上 優(3): 80点以上 良(2): 70点以上 可(1): 60点以上 不可(0): 60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)			○	評価なし	
担当教員	伊東 美佐江		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護関連法令			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	保健・医療・福祉に関する諸法規の概要を学び、看護師としての責任と義務を教授する。 看護専門職者として必要な看護に係る法規の基本的事項を教授する。 厚生行政関連法、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規を教授する。						
一般目標	1. 国民として健康な生活を維持するために必要な法を理解できる。 2. 看護業務に携わる人の身分や業務に関する法を理解できる。 3. 個々の法律が、法制度全体の中でどのような位置づけにあるのかを理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護師の業務遂行に必要なその他の諸法規について説明できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明な点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
学習やグループワークに積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 法の概念	1. 看護師をとりまく法律について	講義	
2	II. 看護法	1. 保健師助産師看護師法を学ぶ①	講義	
3		2. 保健師助産師看護師法を学ぶ② 3. 看護師等の人材確保の促進に関する法律を学ぶ	講義	
4				
5	III. 医事法	1. 医療提供の場を規定する医療法について① 2. 医療提供の場を規定する医療法について②	講義	
6	IV. 保健衛生法	1. 保健衛生を規定する保健衛生法について①	講義	
7		2. 保健衛生を規定する保健衛生法について②	講義	
8	V. 薬務法	1. 薬務法について①	講義	
9		2. 薬務法について②	講義	
10	VI. 環境衛生法	1. 環境衛生法について	講義	
11	VII. 社会保険法	1. 社会保険に関する法律について	講義	
12	VIII. 福祉法	1. 福祉に関する法律について	講義	
13	IX. 労働法社会基盤整備	1. 労働するうえで規定されている労働法について	講義	
14	X. 環境法	1. 環境に関する法律について	講義	
15	XI. 学習のまとめ	1. 看護法令の国家試験	講義	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			20	
課題レポート	○			20	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	今川 晋平		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護学概論			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割を学ぶ。						
一般目標	1. 看護の理念を構成する要素について説明できる。 2. 看護の歴史や看護理論を手がかりに、看護の役割と機能、看護師の倫理を説明できる。 3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学1 看護学概論、別巻 看護史(医学書院)						
	ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト図解でよくわかる（西東社）						
	国民衛生の動向（厚生労働統計局）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
主要な看護理論家の示す主要概念「人間・健康・環境・看護」を説明できる。 ICNや日本看護協会の「看護の定義」「看護者の倫理綱領」の前文から看護師の役割と機能を説明できる。 人口動態統計からわが国の健康課題を年齢区分別に1つ以上挙げることができる。 職業としての看護の歴史を学び、保健師助産師看護師法に基づく看護師の業務が説明できる。				
態度(情意領域)				
グループワークにおいて積極的に意見交換を行い、自身の役割を果たすことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 看護とは 今、なぜナイチンゲールを学ぶのか	1. 看護を学ぶにあたって 基礎看護教育における概念枠組み 「人間」についての解釈 「環境」「健康」	ワーク 課題学習	学生便覧
2		2. 近代看護の確立と看護の本質 フローレンス・ナイチンゲールの業績	講義	
3		3. フローレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」	GW	
4	Ⅱ. 国際的な看護の組織化と看護の定義	1. 人間・健康・環境・看護	講義 GW	
		2. 国際赤十字の創立		
		3. ICNの発足と看護の定義		
		4. 看護の定義の構成要素		
5		5. ヴァージニア・ヘンダーソンの基本的看護		
		6. WHOの設立と主な役割		
6	Ⅲ. 看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」の関係	講義	
		2. マズローの基本的欲求階層説		
		3. セリエのストレス学説、ラザルスのストレス コーピング理論		
7	Ⅳ. 看護の本質	4. リディア・ホールのケアリング理論	講義	部分試験 範囲
		5. ウィーデンバック理論、オレムのセルフケア理論		
		6. 人間関係論 ペプロウ、トラベルビー		
		7. システム理論 ロイ適応モデル		

8	V. 国民の健康状態と生活	1. 健康とは	講義	
		1) WHOの健康の定義		
		2) プライマリーヘルスケア ・ヘルスプロモーション	講義 ワーク	
9		3) 障害の分類 国際障害分類、国際生活機能分類		
		4) 健康と生活		
10		2. 国民の健康状態		
		1) わが国の人口の動向	講義	
		2) 国民の健康の全体像		
11		3. 国民のライフサイクルと健康		
		1) 少子高齢化		
		2) 世帯の特徴と健康課題	講義	
		3) 健康日本21の課題		
12	VI. 看護の提供者	1. 保健師・助産師・看護師の資格制度	講義	
		2. GHQ支援の下での看護制度改革		
13		3. 保健師助産師看護師法	講義	
		4. 看護の資格と養成に関わる制度		
14	VII. 看護の提供のしくみ	1. 看護サービスの提供の場	講義	
		2. 看護サービスと経済のしくみ	講義	
15	試験 まとめ		筆記試験	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
修了時試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
部分試験	○			20	
課題レポート	○		○提出期限厳守	5	
授業態度			○発言を含む参加度	5	
演習(ワーク・技術等)			○主体的な発言 参加度・役割遂行	10	
担当教員	野崎 美紀		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護倫理			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶのかを学生自身が考えることができるよう教授する。現在の倫理問題を調べ発表することで、倫理問題の理解を深めていく。事例を倫理原則を活用し演習を行うことで、看護を学ぶものとして倫理的ジレンマを考え抜く姿勢を身につけられるよう教授する。						
一般目標	1. 倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶ必要があるかを理解できる。 2. 倫理の歴史的経緯を理解できる。 3. 倫理的問題を理解できる。 4. 看護職の倫理綱領を理解できる。 5. 倫理原則を理解し、倫理的ジレンマの解決の取り組み方を学ぶ。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護学1 看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 看護倫理(医学書院) 医療安全ワークブック（医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
倫理・道徳・法および倫理原則を理解できる。 倫理問題であると認識できる。 事例検討から倫理的ジレンマを解決するための方法を理解できる。				
技術（精神運動領域）				
倫理原則に基づいて行動できる。				
態度（情意領域）				
現在の倫理問題に関心を持つことができる。倫理的問題を粘り強く考え抜こうとする。				
回数	授業項目	授業内容		講師
1	I. 倫理学の基本的な考え方	1. なぜ倫理について学ぶのか 2. 倫理理論 3. 他者理解と対話のための理論	講義	
2	II. 生命倫理	1. 生命倫理とはなにか 2. 生命倫理の理論 3. 生命倫理と看護職の責務 1) 意思決定支援と守秘義務（課題1提出） 4. 生命倫理の課題（性と生殖・死・先端医療）	講義	
3	III. 看護倫理	1. 看護の本質としての看護倫理 2. 看護実践上の倫理的概念 アドボカシー ケアリング	講義・演習	
4		3. 専門職の倫理綱領 1) ICN看護師の倫理綱領 2) 看護職の倫理綱領（課題2提出）	講義・演習	
5	IV. 倫理的問題へのアプローチ	1. 倫理的問題を討議する基本的ルール 2. 倫理的問題へのアプローチ法 3. 倫理的問題へのアプローチの実践	講義・演習	
6		4. 倫理的問題へのアプローチの実践	演習	
7	V. 看護実践における倫理問題への取り組み	1. 倫理的問題に取り組むためのしくみ 2. 臨床倫理委員会 研究倫理委員会	講義	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	30	
授業態度		○	○	10	
演習（GW・技術等）		○	○	評価なし	
担当教員	東 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	共通基本看護技術Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の基本となる対象とのコミュニケーション技術と安全を守る技術の基礎を教授する。						
一般目標	1. 看護技術の意義が説明できる。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法が説明できる。 3. 安全を守るための基本的な技術が実施できる。 4. 感染予防の意義を理解し、基本的な技術を実施できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 看護技術における共通の安全・コミュニケーションの意義が理解できる。 看護におけるコミュニケーション、感染予防策の方法が理解できる。				
技術(精神運動領域) 感染防止の技術(手洗い・手袋・滅菌手袋・ガウンテクニック)の習得ができる。				
態度(情意領域) GWにおける役割を果たすことができる。 技術習得に向けて協働できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 看護の方法と技術	1. 看護技術とは 2. 看護技術を適切に実践するための要素	講義 GW	高橋
2	II. 人間関係を成立・発展させるための技術	1. コミュニケーションの意義と目的 2. 看護・医療におけるコミュニケーション	講義	高橋
3	III. コミュニケーションを成立させる要素	1. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 2. 接近的行動と非接近的行動	講義	高橋
4	IV. コミュニケーション技術の実際	1. プロセスレコードによるコミュニケーションの分析	講義	高橋
5		2. 効果的なコミュニケーションの実際①	演習	高橋
6		3. 効果的なコミュニケーションの実際② 4. 医療におけるコミュニケーション・アサーティブネス	講義 演習	高橋
7	V. コミュニケーション障害への対応	1. 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 2. コミュニケーション障害がある人への対応	講義	高橋
8	VI. 感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策、感染経路別予防策 3. 医療施設における感染対策	講義	隅
9		4. 洗浄・消毒・滅菌、感染性廃棄物、針刺し防止策	講義	隅
10	VII. 感染防止技術の実際	1. 衛生的手洗い、個人防護具(手袋・エプロン、滅菌手袋)の実際	講義 演習	隅
11		2. 無菌操作の実際(滅菌物の取り扱い)	講義 演習	隅
12		3. 無菌操作の実際(ガウンテクニック)	講義 演習	隅
13		4. 衛生的手洗い、個人防護用具の着脱、滅菌手袋の着脱	技術試験	隅
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	高橋・隅

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	30	
担当教員	高橋 朋子 隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	共通基本看護技術Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	対象の健康状態を客観的に・系統的に把握するための身体計測、バイタルサインとフィジカルアセスメントに必要な技術を教授する。						
一般目標	1. 生活行動から見るフィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて説明できる。 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について説明できる。 3. 身体各部の形態や身体機能を正しく測定し、評価する技術を実施できる。 4. 看護における観察・記録・報告の意義と方法を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえるvol 3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) ヘルスアセスメントの意味が理解できる。 フィジカルアセスメントに必要な技術の方法が理解できる。 系統別フィジカルアセスメントが理解できる。				
技術(精神運動領域) バイタルサインの技術が習得できる。				
態度(情意領域) 技術習得に向けて協働できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. ヘルスアセスメントとは	1. ヘルスアセスメントの意味と観察 2. ヘルスアセスメントにおける視点	講義	三好
2	II. フィジカルアセスメントに必要な技術	1. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 2. 情報収集と整理	講義	
		3. フィジカルアセスメントの基本技術 (問診・視診・触診・打診・聴診)	講義	
3	III. バイタルサインの観察とアセスメント	1. バイタルサインとは 2. 体温:体温維持のメカニズム、観察ポイント、測定方法 3. 脈拍:循環のメカニズム、観察ポイント、測定方法	講義	
4		4. 呼吸:呼吸のメカニズム、呼吸数、呼吸音、観察ポイント、測定方法 5. 血圧:血圧とは、血圧測定時のポイント、測定方法	講義	
5		6. バイタルサインの測定	演習	
6		7. 意識:基礎知識、意識状態の観察ポイント、瞳孔の観察	講義 演習	
7	IV. 計測	1. 身長・体重・皮膚脂肪厚・腹囲	講義 課題	田中勝
8	V. 系統別フィジカルアセスメント	1. 頭頸部、呼吸器系のフィジカルアセスメント 2. 循環器系、腹部、神経系のフィジカルアセスメント	演習 DVD	
9				三好
10	VI. フィジカルアセスメントの実践	1. フィジカルアセスメント演習 バイタルサインを含めた患者に応じたフィジカルアセスメント 意識レベル、呼吸音、腸音、浮腫、意識レベルの観察など	演習	
11				
12				
13				
14		2. 技術試験:バイタルサイン測定	技術試験	
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	三好

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		75	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	15	
担当教員	三好 恭子 田中 勝男		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護過程Ⅰ			単位数	1	時間数	15
対象学生	1	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護を個別的に展開する看護過程の考え方、看護問題を解決するための思考過程と問題解決方法を教授する。						
一般目標	1. 看護過程の基本的な考え方や看護に必要な思考過程を理解できる。 2. ゴードンの機能的健康パターンを知る。 3. 看護過程を通し、対象理解の重要性を理解する。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる④ 看護過程の展開（メディックメディア）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 看護過程の意義、目的、構成要素を理解できる。 看護におけるクリティカルシンキングの重要性を理解できる。 看護記録の意義と看護過程との関連性を説明できる。				
技術(精神運動領域) ゴードンの枠組みで事例をアセスメントすることをイメージできる。 看護過程の展開を実践するために分からないことを質問できる。				
態度(情意領域) 提出期限を守ることができる。 グループワークに主体的に取り組み意見交換ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護過程の基盤となる考え方	1. 看護過程とは 1) 看護過程の構成と関係性 2) 看護過程を展開する際の基盤となる考え方	講義 GW	
2	II. 看護過程の展開	2. 看護過程の各段階 1) アセスメントをよんでみよう 2) 情報とは 3) 情報の分析 4) 全体像	講義 GW	
3	III. ゴードンの機能的健康パターン	1. ゴードンの枠組みの特徴 1) 健康知覚－健康管理パターン 2) 栄養－代謝パターン 3) 排泄パターン 4) 活動－運動パターン 5) 睡眠－休息パターン 6) 認知－知覚パターン 7) 自己知覚－自己概念パターン 8) 役割－関係パターン 9) セクシュアリティ－生殖パターン 10) コーピングストレス耐性パターン 11) 価値信念パターン	講義 GW	
4			講義 GW	
5			講義 GW	
6	IV. 看護問題の明確化	1. 全体像の表現と看護問題の明確化 1) 看護問題の明確化のプロセス 2) NANDA-I 3) 看護問題の種類と表記 4) 優先順位の決め方 5) 共同問題という考え方	講義 GW	
7	V. 看護計画の実施・評価	1. 看護計画 2) クリティカルパス 1) 看護計画の立案と表記 2. 看護介入の実施と評価の考え方 2) 評価の進め方 1) 実施の記録 3. 看護記録 2) 実習記録での注意点 1) 看護記録と法的位置づけ	講義 GW	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準
定期試験	○				70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					評価なし	
課題レポート	○		○		30	
授業態度		○				
演習(GW・技術等)	○	○				
担当教員	隅 敦子		実務経験紹介	あり	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	看護過程Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護過程の基本理論を活用し、対象の健康状態に応じた看護を提供する過程を事例を通して教授する。基礎的な問題解決ができる能力を養う内容とする。						
一般目標	1. ゴードンの機能的健康パターンを用いて対象を統合的に説明できる。 2. 対象の健康上の課題を明確化し、看護計画立案および評価する視点を説明できる。 3. 事例を用いて看護過程を展開できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる④ 看護過程の展開（メディックメディア）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報収集の項目を挙げることができる。 事例の情報を整理することができ、その分析を根拠に基づいて説明できる。 事例に対する関連図を記述でき、関連図を用いて全体像を発表できる。 事例に対する看護問題の優先順位を説明できる。 事例に対する看護計画を具体的に記述できる。				
技術(精神運動領域)				
ゴードンの枠組みで成人期・老年期の特徴を踏まえたアセスメントができる。 クリティカルシンキングを用いて看護過程の展開を体験できる。 サマリーを作成して看護実践とその成果を振り返ることができる。 看護過程を展開する際に分からないことを質問し、解消することができる。				
態度(情意領域)				
自ら課題に取り組み、提出物の期限を守ることができる。 グループワークに主体的に取り組み意見交換ができる。				
回数	授業項目	授業内容		備考
1	I. 看護過程の展開	1. 看護過程の展開の振り返り 2. 事例提示	講義	隅
2	II. 成人・老年期にある看護過程の展開	1. 事例患者の情報収集とアセスメント(急性期～慢性期) 2. 病態関連図の作成	演習	
3			GW	
4		1. 病態関連図の修正と全体像の作成 2. 看護問題の抽出と看護診断の確定	演習	
5				
6		1. 全体像の発表	GW	
7		1. 看護計画の立案	GW	
8				
9		1. 看護計画に基づいた援助の実施と経過記録	演習	
10		1. 実施の評価	講義	
11	III. SOAP記録・評価の方法	1. 看護計画の見直し 2. 看護問題の見直し 3. 目標・期待される成果の見直し	講義	三好
12			演習	
13		1. SOAP記録の見直し 2. 評価記録の書き方と実践	演習	
14			GW	
15		1. サマリーの書き方と実践	演習	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○	○	○	60	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	40	
担当教員	三好 恭子 隅 敦子		実務経験紹介	あり	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	環境調整の技術は、普段の生活とはことなる集団生活、治療の場としての療養環境にどのように看護師がかかわるかを中心に講義し、演習にて教授する。また、活動・休息の援助技術は、姿勢の基本からはじめ、実際の道具を用いながら、車いすへの移乗の技術を指導する。環境調整の技術は、基礎看護学実習Ⅰの課題にもなる。						
一般目標	1. 快適な日常生活を過ごすことができるように、生活環境を整える技術を習得できる。 2. ベッドメイキングと臥床患者のリネン交換を安全・安楽に援助する技術を習得できる。 3. ボディメカニクスの原理を用いて、臥床患者へ効率的な体位変換を実施できる。 4. 運動と休息の意義を理解し、活動および休息を促す基本的な技術を習得できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
療養生活における、安全安楽な生活環境、休息・睡眠を適切に整える方法を理解できる。 姿勢の基礎知識と、ボディメカニクスの原理を理解できる。 体位の種類とその目的、移乗・移動に用いる用具の特徴とその方法を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
臥床患者のベッドメイキングが習得できる。 ベッド上の水平移動・垂直移動、ベッドから車いすへ、ストレッチャーの移乗が実施できる。				
態度(情意領域)				
周囲と協力し、思考しながら授業に取り組むことができる。 事前課題や提出物を時間内に提出できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 環境を整える技術	1. 生活と療養環境 2. 療養環境を整える援助の意義	講義 GW	三好
2		3. ベッド周囲の環境整備 4. 患者の安全な環境を考える	講義 GW	
3	Ⅱ. 環境を整える援助の 実際	1. 患者にとって快適な療養環境を作ってみよう	講義 演習	
4		2. ベッドメイキング演習 1) デモンストレーション 2) 患者がベッドにいない場合 3) 臥床患者がベッドにいる場合	講義 演習	
5				
6		3. ベッドメイキング技術	技術試験	
7				
8	Ⅲ. 基本的活動の援助	1. 基本的活動の基礎知識・ボディメカニクス 2. 日常生活動作・廃用症候群の予防・関節可動域	講義	高橋
9	Ⅳ. 基本的活動の援助 の実際	1. ボディメカニクスを活用した技術 2. 体位変換・ボディメカニクス演習 1) ベッド上における体位変換・ポジショニング 「側臥位(同一体位)でできるだけ長い時間寝てみよう(事前課題)」 2) 仰臥位から側臥位・水平移動・垂直移動 3) 仰臥位から長座位・長座位から端座位・端座位から立位	講義 演習	高橋・若林
10				高橋・若林
11		4. 歩行補助具使用の基礎知識と技術のポイント 5. 歩行演習: 補助具を使用しての歩行介助(杖、歩行器等)	講義 演習	高橋・若林
12		6. 移動補助具使用の基礎知識と技術のポイント	演習	高橋・若林
13		7. 移乗・移動演習①(車いす・ストレッチャー)		高橋・若林
14	Ⅴ. 睡眠と休息の援助	1. 睡眠の基礎知識とアセスメントから考える援助	講義	若林
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	三好・高橋 若林

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			評価なし	
課題レポート	○		○	20	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	三好 恭子 高橋 朋子 若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	食事・排泄の意義、メカニズム、アセスメントの方法を教授する。食事の援助技術を実際に体験することで学びを深める。排泄の援助は、陰部洗浄からのおむつ交換をデモンストレーションを行い指導する。						
一般目標	1. 対象の栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解できる。 2. 対象に適した食事を、その人らしく満足に摂取できるようにするための援助技術を習得できる。 3. 排泄の意義が理解できる。 4. 対象に適した排泄援助と自然な排泄を促すための基本的な技術を習得できる。 5. 排泄を促す方法と留意点を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解できる。 食事介助と口腔ケアの注意点と具体的方法を理解できる。 摂食・嚥下訓練の注意点と方法を理解できる。 経鼻経管栄養の具体的な方法を理解できる。 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解できる。 導尿法の注意点と方法を理解できる。 自然排便を促す方法と浣腸と摘便の方法を理解できる。 医療器具の管理及び環境整備の意義や重要性を理解できる。					
技術(精神運動領域)					
食事に関連する一連の援助技術、食事介助と口腔ケアを習得できる。 経鼻経管栄養法の挿入、固定と滴下を体験できる。 陰部洗浄からおむつを交換する技術を習得できる。 自然排泄の方法を体験できる。 一時導尿の方法を体験できる。 無菌操作を体験できる。					
態度(情意領域)					
事例を通して、思考しながら授業に取り組むことができる。 事前課題や提出物を時間内に提出できる。 周囲と協力し演習に取り組むことができる。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師	
1	Ⅰ．食事の援助技術	1. 食事の意義 2. 食事にかかわる解剖生理 3. 食事療法	講義 GW	高橋	
2		4. 食事に関するアセスメント 5. 食事の介助と口腔ケアの基礎知識	講義 GW		
3		6. 食事の援助技術の実際 1) 食事介助の演習 2) 口腔ケアの演習	演習		
4					
5		7. 摂食・嚥下訓練	講義		
6		8. 非経口的栄養摂取の援助の基礎知識	講義 演習		
7		9. 経鼻経管栄養法の実際(挿入の長さ測定、固定、速度調整)	講義 演習		
8	Ⅱ．排泄の援助技術	1. 排泄の意義 2. 排泄にかかわる解剖生理(事前課題) 3. 排泄のアセスメント 4. 排便を促す援助(便秘に対する援助)	講義	木村	
9		5. 自然排尿が困難な対象の援助技術 6. 排泄を促す援助演習 (便尿器の当て方、ポータブルトイレの利用)	講義 演習		
10		7. 下痢便に対する援助 排泄の援助(紙おむつの当て方、尿取りパッドの使い方)	演習		

11	Ⅱ. 排泄の援助技術	8.排泄の援助(紙おむつ・尿取りパッドの交換の仕方、 陰部洗浄)	演習	木村
12				
13		9.一時的導尿・持続的導尿 10.一時的導尿の演習	演習	
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	木村

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	20	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	高橋 朋子 木村 美保		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	日常生活援助技術Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	清潔の援助技術は、実習で実践することの多い科目である。療養生活を送る対象に合わせた清潔の援助の方法を、解剖学と関連させながら教授する。皮膚の構造や呼吸循環との関連性が高い科目である。技術面は、全ての技術を体験して、どのように行うと患者にとって安全で快適か考えられるように教授する。						
一般目標	1. 清潔の意義を理解し、身体各部の清潔を保つための基本的な技術が習得できる。 2. 衣生活の意義を理解し、衣生活を整える援助技術が習得できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
皮膚と粘膜の構造と機能を知り、生活援助の効果と全身への影響を理解する。 患者の状態に合わせた清潔援助の方法を選択する視点を説明できる。 療養生活における衣生活の基礎を説明できる。				
技術(精神運動領域)				
清潔援助の基礎知識をもとに、清潔を保つ援助を実施できる。 寝衣交換の援助を実施できる。				
態度(情意領域)				
患者にとって気持ちのよい清潔援助を思考しながら授業に取り組むことができる。 課題や提出物を時間内に提出できる。 周囲と協力し演習に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 清潔援助の基礎知識	1.1日の生活から「清潔」を考える 2.清潔援助の意義	講義 GW	
	II. 清潔援助の効果	1.身体機能の防御と適応における皮膚の役割 2.皮膚の機能と構造から考える清潔		
2	III. 清潔の援助	1. 各援助の実際(動画で確認しよう) 2. 入浴・シャワー浴、手足浴の方法と必要なアセスメント 3. 清拭、洗髪の方法と必要なアセスメント	講義 GW	
3	IV. 衣生活の援助	1. 各援助の実際(動画で確認しよう) 2. 衣服の持つ役割、衣生活と衣交換の方法と必要なアセスメント	講義	
4	V. 清潔と衣生活の援助 の実際	1. 清潔援助の実際(デモンストレーション) 1)入浴・シャワー浴の技術 2)手浴・足浴の技術	演習	
5				
6		3)洗髪台を使用した洗髪の技術	演習 (スタジオ)	
7				
8		4)寝衣交換(和式寝衣・セパレートタイプ) 5)麻痺や点滴のある患者の寝衣交換	演習	
9				
10		6)整容の技術 7)全身清拭(自立の患者・臥床患者の場合) 8)熱布の当て方とバックケア		
11				
12		3. 事例患者の寝衣交換と陰部洗浄の援助計画を考えよう	GW	
13		4. 事例患者の寝衣交換と陰部洗浄を実際に行ってみよう 5. 事例患者の寝衣交換と陰部洗浄を発表しよう	演習	
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	40	
授業態度		○	○		
演習(GW・技術等)	○	○	○		
担当教員	三好 恭子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	診療補助技術			単位数	2	時間数	45
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	診療に伴う援助の意義を理解し、対象の病態を踏まえて呼吸・循環を整える技術や与薬時の看護技術、診療・検査の補助などの侵襲を伴う看護技術を中心に教授する。看護実践をするための基礎的知識・技術・態度を習得できる内容とする。						
一般目標	1. 呼吸を整えるために必要な知識と援助方法を理解できる。 2. 循環を整えるために必要な知識と援助方法を理解できる。 3. 創傷管理に必要な知識と援助方法を理解できる。 4. 与薬に必要な知識と援助方法を理解できる。 5. 症状・生体機能管理に必要な知識と技術を理解できる。 6. 診察・検査・処置の介助に必要な知識と技術を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 生理学を振り返り、呼吸・循環を整える方法を理解できる。 創部治癒のメカニズムと創傷保護や道具の取り扱い方法を理解できる。 薬理学と関連させ、与薬に必要な知識と援助方法と看護師の役割を理解できる。 症状・生体機能管理に必要な知識を身につける。 診察・検査・処置の介助に必要な知識を身につける。				
技術(精神運動領域) モデル人形に対しする安全な口腔内吸引の技術を習得できる。 モデルに対して感染対策を踏まえた創部の洗浄方法を体験できる。 モデルに対し原則に基づいた包帯法を実施できる。 アンブル、バイアルからの薬液吸引上げを実施できる。 モデルに対し皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射が安全に実施できる。 モデルに対し静脈採血法が安全に実施できる。				
態度(情意領域) 指示された課題の提出期限を守ることができる。 指示されたワークノートを自ら取り組むことができる。 グループメンバーと協力することができる。 積極的に技術練習ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 呼吸を整える技術	1. 酸素療法の基礎 2. 排痰ケアの基礎・吸入の基礎 3. 胸腔ドレナージの基礎	講義	高橋
2		1. 酸素ポンベの残量の計算 2. 人工呼吸療法の基礎知識 3. NPPVについて	講義	
3		1. 吸引の基礎 2. 口腔・鼻腔内吸引の実際 3. 気管内吸引の注意点	講義	
4			演習	
5	Ⅱ. 循環を整える技術	1. 体温管理の技術 2. 末梢循環促進ケア(電法)	講義	南田
6	技術チェック	1. 吸引技術チェック 2. 背部温電法の実践	演習	高橋・南田
7	Ⅴ. 創傷管理技術	1. 創傷管理の基礎 2. 創洗浄と保護 3. 包帯法の基本 4. 包帯法の演習	講義 演習	南田
8				
9	Ⅲ. 症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理における看護師の役割 2. 検体検査と援助の実際 3. 生体情報のモニタリング	講義	南田
10				

11	VI. 中間試験	1. 中間試験 2. 背部温電法の結果		高橋・南田
12	VI. 診察・検査・処置の技術	1. 診察介助における看護師の役割 2. 検査・処置の介助の実際 3. 穿刺を伴う検査・処置の介助	講義	隅
13			講義 個人ワーク GW	
14	VII. 与薬の技術	1. 与薬における看護師の役割 2. ワークノート学習 ・与薬の基礎知識 ・経口与薬 ・口腔内与薬 ・吸入 ・点眼 ・点鼻 ・経皮的与薬 ・直腸内与薬	講義 個人ワーク	
15	VII. 与薬の技術	3. ワークノート確認 4. グループワーク: 正しく与薬をしよう 1) 内服薬 2) 点眼薬	講義 個人ワーク	
16		1. ワークノートの学習 ・注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ ・点滴静脈内注射の混注 ・中心静脈カテーテル挿入の介助	講義 個人ワーク	
17		2. 輸液の速度調整 3. ワークノートの確認	講義 個人ワーク	
18	VIII. 技術演習① 注射	1. アンプルの薬液吸い上げの演習 2. 皮内注射の演習 3. 筋肉内注射	演習	隅
19				
20		1. バイアルの薬液吸い上げの演習 2. 静脈内注射の演習 ・ワンショット ・静脈留置針		
21	IX. 技術演習② 採血	3. 静脈内採血の演習		
22	X. 技術演習③ まとめ	1. 診療補助技術で行った技術の振り返り		
23	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	隅

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
中間試験	○			30	
課題レポート		○		10	
授業態度				10	
演習(GW・技術等)		○	○	10	
担当教員	隅 敦子 南田 直子 高橋 朋子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅰ			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における健康とライフステージに沿った暮らしを支える看護の基礎的知識を教授する。						
一般目標	1. 人々の健康に影響を及ぼす「生活の場」としての地域を理解できる。 2. 看護の対象となる「地域で暮らす人々とその家族」とが理解できる。 3. 地域での生活と生活が健康に与える影響を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
「生活の場」と健康の関連を理解できる。 生活環境と健康の関連を理解できる。 看護の対象となる「地域で暮らす人々とその家族」を理解できる。 健康を支える地域システムを理解できる。				
技術(精神運動領域)				
「生活の場」を支えるための「人々の支えあい」について考えることができる。 ライフステージにあった看護の提供をイメージできる。				
態度(情意領域)				
提出期限を守ることができる。 グループワークに主体的に参加できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 人々の暮らしと地域看護	1. 人々の暮らしの理解: 暮らすとは 2. 「生きる」を支援するとは 3. 地域看護の役割	講義・GW	
2		4. 暮らしの理解について(演習1)	演習	
3	Ⅱ. 暮らしの基盤としての地域の理解	1. 暮らしと地域のかかわり 2. 地域の生活環境が健康に与える影響 (文化的環境、社会的環境、自然環境) 3. 地域づくりのための地域共生社会と地域包括ケアシステム	講義・GW	
4		4. 地域で支えあって生きるについて(演習2)	演習	
5	Ⅲ. 地域看護の対象	1. 地域看護の対象者 1) 地域に暮らすすべての人々 2) 健康状態(健康～終末期看護まで) 3) 発達段階(胎児期から老年期まで) 2. 家族の理解 3. 家族の理解について	講義・GW	
6	Ⅳ. 地域における暮らしを支える看護	1. 地域における暮らしの環境を整える看護 2. 地域の人々の「もっと健康に」を支える看護 3. 地域における「家族の健康」をまもる看護	講義・GW	
7		4. 地域におけるライフステージに応じた看護 5. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 6. 地域での暮らしにおける災害対策・感染症対策	講義・GW	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	三好 恭子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅱ			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	社会の変化と多様化する在宅看護活動について学ぶ。疾患や障害を持ちながら在宅で生活している療養者及び家族の特性を知り、在宅看護における看護師の役割と機能について教授する。						
一般目標	1. 在宅看護の目的について説明できる。 2. 日本の在宅看護の変遷とその社会背景について述べることができる。 3. 在宅看護の基本理念について説明する。 4. 在宅療養者と家族の特性を知り、支援の必要性を理解できる。 5. 在宅ケアにおける看護職の役割を説明できる。 6. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 在宅看護の対象・活動の場・看護活動の特徴について理解できる。 在宅ケアにおける看護職の役割を説明できる。 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解できる。 在宅療養者と家族の特性を知り、支援の必要性を理解できる。 社会資源及び在宅看護を支える制度について理解できる。				
技術(精神運動領域) 疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域) 主体的に参加し協力できる(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 在宅看護の概念	1. 人々の暮らしの理解:暮らすとは 2. 「生きる」を支援するとは 3. 地域看護の役割	講義	
2	II. 在宅看護の対象	1. 在宅看護の対象者	講義	
3		2. 家族の理解 3. 在宅看護の対象と家族の理解		
4	III. 在宅看護を支える制度と活用	1. 医療保険・介護保険制度と施策 2. 在宅看護にかかわる医療提供体制 3. 訪問看護の制度 4. 高齢者に対する法制度 5. 障害者・難病に関する法制度 6. 子どもの在宅療養を支える制度 7. 在宅療養者の権利の権利保障 8. 各保健・障害者に関する法と施策	講義	
5				
6				
7		9. 在宅看護を支える制度と活用 (事例)	演習	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度		○		評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	10	
担当教員	木村 美保		実務経験紹介	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	地域における健康課題や健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護を通して、地域看護の活動を理解するための方法を教授する。また、地域看護を実践する場と多職種連携における看護の役割を関連づけて考えられるよう教授する。						
一般目標	1. 地域における健康課題を通して、暮らしを支える看護の内容と方法が理解できる。 2. 健康の保持増進と疾病の予防に関わる看護が理解できる。 3. 地域看護を実践する場と多職種連携を関連して理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
地域における健康課題が理解できる。 健康の保持増進と疾病の予防に関わる看護を理解できる。 地域看護の活動を通して地域看護の役割を理解できる。					
技術(精神運動領域)					
地域で暮らす人々とその家族の健康課題をアセスメントできる。 健康の保持増進と疾病の予防に関わる看護活動を考えることができる。 地域看護の活動提案書の作成を通してセルフケア能力を高めるための技術を体験できる。					
態度(情意領域)					
グループワーク・演習に積極的に参加できる。 提出期限を守ることができる。 課題に自ら取り組むことができる。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	Ⅰ. 健康の保持増進と疾病の予防に関わる看護	1. 疾病予防のレベル(一次・二次・三次予防) 2. 各予防レベルに対する目的とその対策 疾病予防のレベルに対する目的とその対策方法を考える	講義	三好	
		3. 健康づくり対策 ライフステージにおける健康診断・検診とその目的、法律との関連性を考える	講義		
2	Ⅱ. 多職種でかかわる地域看護	1. 地域で人々に関わる多職種の種類、役割の理解	講義		三好
3					
4		2. 地域で看護を実践する場とサービス内容の理解 病院と各施設との連携(入院前支援、入院支援、退院支援) 3. 病院-診療所との連携、診療所間、病院間の連携	講義		
5					
6		4. 地域における多職種連携 5. 多職種連携からのネットワークづくり 地域での多職種とその役割、連携の方法を考える	講義・GW	角	
7					
8		6. 地域にある保健・医療・福祉・生活を支える施設の理解 (各ライフステージ)	GW	三好	
			GW発表		
9	Ⅲ. 地域看護の活動	各ライフステージごとの事例から支える施設、多職種の役割を考える	GW	三好	
10			GW		
11			GW		
12			GW発表		
13	Ⅳ. 多職種連携でかかわる地域看護の実践	テーマ「多職種の協働・連携を考える」 介護福祉学科との合同講義	演習	三好	
14					
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	三好	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度		○		評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	30	
担当教員	三好 恭子 角 晴美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	在宅で提供する基礎的看護技術を習得するために在宅での日常生活援助技術、医療処置の伴う医療機器について教授する。また使用している療養者及び家族へ支援について教授する。						
一般目標	1. 在宅看護を支える訪問看護について理解できる。 2. 在宅における生活援助と医療管理を必要とする人とその家族の看護を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
在宅看護を支える訪問看護について理解できる。 訪問看護師の役割および他職種との連携のあり方について具体的に述べる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し協力できる。(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 在宅療養を支える 訪問看護	1. 訪問看護の制度 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護と他職種連携 4. 訪問看護サービスの展開・導入方法の理解	講義	
2				
3				
4	Ⅱ. 在宅看護における 看護技術1 (生活援助)	1. 療養生活を支える基本的な生活援助 1) 活動と休息のアセスメントと援助 2) 食と清潔のアセスメントと援助 在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養管理 3) 排泄・清潔のアセスメントと援助 膀胱留置カテーテル・ストーマ管理 4) 呼吸と循環のアセスメントと援助 在宅人工呼吸療法管理	講義	
5				
6				
7	Ⅲ. 在宅看護における 看護技術2 (医療的ケア援助)	1. 療養を支える医療的ケアにおける援助 1) 在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養 2) 膀胱留置カテーテル・ストーマ管理・浣腸・排便 3) 気管切開の吸引・気管カニューレ管理	演習	
8				
9				
10	Ⅳ. 訪問看護に必要な 基本的態度	1. 訪問準備～初回訪問時における接遇 ロールプレイの準備 2. 初回訪問時における接遇 ロールプレイ およびリフレクション	講義・演習	
11				
12	Ⅴ. 在宅看護における 看護の展開	1. 在宅看護過程のポイントと展開方法 2. 在宅で療養する人の家族のアセスメント 1) ヘルスアセスメント 2) 家族のアセスメント 3) 生活のアセスメント 3. ICFを使用した訪問記録	講義・GW	
13				
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			25	
授業態度		○	○	5	
演習(GW・技術等)		○		20	
担当教員	木村 美保		実務経験紹介	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護師が行う在宅ケアマネジメントについて教授する。また在宅での特徴的な事例の実際から、在宅看護の状態別に 応じた看護展開を教授する。						
一般目標	1. 在宅看護における特徴的な事例を通し、アセスメント能力・判断力を養いながら、在宅看護過程の展開方法を理 解できる。 2. さまざまな事例から状態に応じた看護を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法を理解できる。 在宅看護における看護展開の特徴と家族支援のあり方について理解できる。 在宅看護におけるリスクマネジメントについて理解できる。				
技術(精神運動領域)				
家庭訪問の手順、倫理と心構えを理解し、訪問者としてのマナーを身につけることができる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し協力できる。(GWでの積極的な討議・意見交換、課題提出等)				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 介入時期と看護の継続性	1. 療養の場における継続看護の意義と方法 2. 健康レベルに応じた看護や場の移行に伴う看護 1) 治療の場から在宅への移行期 2) 在宅療養の安定期・リハビリテーション期 3) 急性増悪期 4) 終末期・グリーフケア	講義	木村
2	II. 在宅看護におけるマネジメント	1. 在宅で療養し続けるためのマネジメント 1) 自己決定権の支援 2) ケアマネジメントの必要性 3) インフォームドコンセントのありかた	講義	木村
3		2. 在宅看護におけるケースマネジメントとケアマネジメントの展開 3. 退院支援の連携とケアマネジメントの実際	演習	
4		4. 在宅で療養し続けるためのマネジメント(事例演習)	講義	
5	III. 対象に応じた在宅看護の実際	1. 地域で療養する医療的ケア児の訪問看護の実際	講義	松谷
6		2. 精神疾患療養者への訪問看護の実際	講義	木村
7		3. 脊髄損傷療養者への訪問看護の実際	講義	柴崎
8		4. 在宅酸素療法している療養者への看護の実際	講義	帝人
9		5. 呼吸器疾患や難病疾患療養者への訪問看護の実際	講義	原田
10				
11	IV. 在宅看護の展開	1. 在宅看護の展開(訪問看護計画と援助) 事例① 2. 計画に基づいた援助の実施とリフレクション	演習	木村
12				
13				
14	V. 在宅療養者の災害時の看護	1. 災害が療養者に及ぼす影響 2. 災害サイクルに応じた療養者への看護	講義 GW	木村
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	木村

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			15	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	5	
担当教員	木村 美保 柴崎 恵子 堀内 久美子 松谷 依子 原田 典子 帝人		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	成人期にある人の特性を多角的にとらえられるよう、身体的・社会的・心理的な面から成人期にある人とその家族に対する看護を教授する。						
一般目標	1. 成人が心身ともに成長・成熟し、社会的役割の担い手として生涯発達する過程が理解できる。 2. 成人の健康について、生活の視点から多面的に包括的に捉えることができる。 3. 成人期にある人の特性を考慮し、よりよい健康状態を目指し支え促す看護の基本的アプローチについての考え方や方法論が理解できる。 4. 成人期にある人のヘルスプロモーションと健康を増進するための支援の方法を理解できる。 5. 健康生活をおびやかす要因を知り、生活行動がもたらす健康問題と予防について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						

到達目標

知識(認知領域)				
成人期にある人を支援するために有用な理論や概念と成人に対する看護の特徴について理解できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
単に授業を受講するだけでなく、主体的にグループ活動や演習に取り組める				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 成人と生活	1. 対象の理解: 大人になること、大人であること 1) 生涯発達の特徴: 発達段階と発達課題 2) 各発達段階の特徴: 青年期、壮年期・中年期、向老期 2. 対象の生活: 働いて生活を営むこと 1) 生活を営むこと 2) 仕事を持ち働くこと 3) 家族から捉える成人 4) 人生をたどること	講義 GW	
2	II. 生活と健康	1. 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 1) 成人を取り巻く環境と生活の状況 2) 成人の健康の状況 2. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 1) 保健・医療・福祉システムの概要と連携	講義 GW	
3	III. 成人への看護アプローチの基本	1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 1) 大人の健康行動のとらえ方 2) 行動変容を促進する看護アプローチ ・トランスセオレティカルモデル ・エンパワメントを促すアプローチ ・強みをいかすためのアプローチ 2. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 1) 医療における人間関係 2) 患者と看護師の人間関係 3. 意思決定支援 1) 医療における難しい決断と意思決定 2) 意思決定過程における看護師の役割 4. 家族支援	講義 GW	
4				

5	IV. 成人の健康レベルに対応した看護	1. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションとは 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための健康づくり 2. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 1) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 2) 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	講義 GW	
6	V. 成人の健康をおびやかす要因と看護	1. 健康バランスの構成要素 2. 健康バランスに影響を及ぼす要因 1) ライフスタイルと健康問題 2) ストレスと健康問題 3. 生活行動がもたらす健康問題とその予防 1) 就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 2) 飲酒・喫煙・身体活動量の低下と運動不足・肥満と健康問題 3) 生活環境衛生と健康 4) 感染症と健康問題 5) 引きこもり、うつ、ネット依存などの新たな健康問題	講義 GW 演習	
7				
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)	○		○	20	
担当教員	高橋 朋子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	呼吸・循環機能障害を有する対象へ回復を促すための症状・検査や治療を理解し生活の再調整を促す看護について教授する。 対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象および家族への援助を事例を用いて教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 機能障害のある対象の症状・検査や治療に対する看護を理解できる。 3. 機能障害のある対象の回復過程に応じた看護が理解できる。 4. 機能障害のある対象の生活の再調整を促す看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 2呼吸器 3循環器（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
呼吸・循環機能障害の症状と病態生理が述べられる。 呼吸・循環機能障害の検査と治療が述べられる。 呼吸・循環機能障害の対象への看護が述べられる。					
技術(精神運動領域)					
呼吸・循環機能障害を有する対象への支援が体験できる。					
態度(情意領域)					
単に授業を受講するだけでなく、主体的にグループ活動や演習に取り組める。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	Ⅰ. 呼吸機能障害患者の看護	1. 呼吸機能に異常がある対象の看護(1) 1) 検査と治療	講義	佐甲	
2		2. 呼吸機能に異常がある対象の看護(2) 1) 呼吸機能に障害を持ちながら生活する人の看護	講義		
3		3. 看護過程の展開 事例①	演習・GW		
4			演習・GW		
5		4. 呼吸機能を維持する技術と看護 1) 酸素吸入法 2) 気道内加湿 3) 体位ドレナージ	演習		
6					
7	Ⅱ. 循環機能障害患者の看護	1. 循環機能に異常がある対象の看護(1) 1) 検査と治療	講義	佐甲	
8		2. 循環機能に異常がある対象の看護(2) 1) 循環機能に障害を持ちながら生活する人の看護	講義		
9		3. 看護過程の展開 事例② 1)心臓血管集中治療室における看護の実際	演習・GW		
10		2)回復・慢性期における看護	演習・GW		
11		4. 循環機能を維持する技術と看護 1) 心電図モニター 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習		
12					
13		5. 呼吸機能・心臓機能を回復させるための看護 1) 人工呼吸療法の基礎知識 2) 呼吸器リハビリテーション ① 急性期・回復期 ② 慢性期 3) 循環器リハビリテーション	講義	中山	
14			講義		
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	佐甲	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	佐甲 美和 中山典子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	栄養摂取・代謝機能障害を有する対象へ回復を促すための症状・検査や治療を理解し生活の再調整を促す看護について教授する。 対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象および家族への援助を事例を用いて教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 機能障害のある対象の症状・検査や治療に対する看護を理解できる。 3. 機能障害のある対象の回復過程に応じた看護が理解できる。 4. 機能障害のある対象の生活の再調整を促す看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1成人看護学総論 5消化器（医学書院）						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域）				
栄養摂取・代謝機能障害の症状と病態生理が述べられる。 栄養摂取・代謝機能障害の検査と治療が述べられる。 栄養摂取・代謝機能障害の対象への看護が述べられる。				
技術（精神運動領域）				
栄養摂取・代謝機能障害を有する対象への支援が体験できる。				
態度（情意領域）				
単に授業を受講するだけでなく、主体的にグループ活動や演習に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ．摂取・通過機能障害患者の看護	1. 摂取・通過機能に異常がある対象の看護(1) 1) 検査と治療 2) 検査を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護	講義	佐甲
2		2. 摂取・通過に異常がある対象の看護(2) 1) 食道がんの看護	講義 演習	
3	Ⅱ．吸収・排泄機能障害患者の看護	1. 吸収・排泄機能に異常がある対象の看護(1) 1) 人工肛門造設術前後のアセスメントと看護 2) 障害受容過程	講義	東
4		2. 吸収・排泄機能に異常がある対象の看護(2) 1) 人工肛門造設術後の対象の生活資源	演習	
5		2) 継続看護と社会資源	演習	
6	Ⅲ．消化機能障害患者の看護	1. 消化機能に異常がある対象の看護(1) 1) 胃・十二指腸疾患患者のアセスメントと看護	講義	佐甲
7		2. 消化機能に異常がある対象の看護(2) 1) 消化器疾患の術後合併症の予防と早期発見への看護	講義 演習	
8		3. 消化機能に異常がある対象の看護(3) 1) 消化器難治性疾患の生活調整への支援	講義 演習	
9	Ⅳ．膵臓機能障害患者の看護	1. 膵臓機能に異常がある対象の看護(1) 1) 出現しやすい症状と看護	講義	
10		2. 膵臓機能に異常がある対象の看護(2) 1) 膵炎患者のアセスメントと看護	講義	
11	Ⅴ．胆道・胆のう機能障害患者の看護	1. 胆道・胆のう機能に異常がある対象の看護(1) 1) 胆道系疾患患者のアセスメントと看護	講義	
12	Ⅵ．肝機能障害患者の看護	1. 肝機能に異常がある対象の看護(1) 1) 肝炎患者のアセスメントと看護	講義	佐甲
13		2. 肝機能に異常がある対象の看護(2) 1) 肝硬変症患者の出現しやすい症状と看護 2) 肝硬変患者のアセスメントと看護	講義 演習	

14	VI. 肝機能障害患者の看護	3. 肝機能に異常がある対象の看護(3) 1) 病みの軌跡	講義 GW	佐甲
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	佐甲

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	佐甲 美和 東 真由美		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	造血・免疫機能・内部環境調節機能障害をきたした対象へ回復を促すための症状・検査や治療や生活の再調整を促す看護について教授する。 対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象および家族への援助を事例を用いて教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 機能障害のある対象の症状・検査や治療に対する看護を理解できる。 3. 機能障害のある対象の回復過程に応じた看護が理解できる。 4. 機能障害のある対象の生活の再調整を促す看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染 (医学書院)						

到達目標

知識(認知領域)				
造血・免疫機能・内部環境調節機能障害の症状と病態生理が述べられる。				
造血・免疫機能・内部環境調節機能障害の検査と治療が述べられる。				
造血・免疫機能・内部環境調節機能障害の対象への看護が述べられる。				
技術(精神運動領域)				
内部環境調節機能障害を有する対象への支援が模倣できる。				
態度(情意領域)				
単に授業を受講するだけでなく、主体的にグループ活動や演習に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 糖代謝機能障害 患者の看護	1. 糖代謝に異常のある対象の看護(1) 1) 原因とアセスメント	講義	東
2		2. 糖代謝に異常のある対象の看護(2) 1) 検査と治療	PBL	
3		3. 糖代謝に異常のある対象の看護(3) 1) セルフケアを支援する看護	PBL	
4		4. 糖代謝に異常のある対象の看護(4) 1) 糖代謝機能障害を持ちながら生活する人の看護	PBL	
5		5. 糖代謝に異常のある対象の看護(5) 1) 自己血糖測定 2) インスリン自己注射	実技演習	
6	Ⅱ. 甲状腺機能障害 患者の看護	1. 甲状腺機能障害のある対象の看護(1) 1) 検査と治療	講義	東
7		2. 甲状腺機能に異常のある対象の看護(2) 1) 甲状腺機能障害を持ちながら生活する人の看護	講義演習	
8	Ⅲ. 腎・排泄機能障害 患者の看護	1. 腎・排泄機能に異常のある対象の看護(1) 1) 検査と症状の看護	講義	東
9		2. 腎・排泄機能に異常のある対象の看護(2) 1) 腎・排泄機能障害の看護	講義	
10		3. 腎・排泄機能に異常のある対象の看護(3) 1) 腎臓の働きと透析の原理 2) 透析療法をうける対象の看護	講義	
11		4. 腎・排泄機能に異常のある対象の看護(4) 1) 導入期のセルフマネジメント 2) 保存期から維持期のセルフケア	講義GW	

12	IV. 造血機能障害患者の看護	1. 造血機能に異常のある対象の看護(1) 1) 主要症状と検査時の看護	講義	田中
13		2. 造血機能に異常のある対象の看護(2) 2) 病期に応じた看護	講義	
14	V. 免疫機能障害患者の看護	1. 免疫機能に異常のある対象の看護	講義	東
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	東

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				10	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	東 真由美 田中 勝男		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人看護学方法論Ⅳ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	救急看護では、外来・救急のトリアージ、初期診療、対象のフィジカルアセスメントが重要となる。実際の現場を想定し、救急疾患、重症外傷の病態の基礎知識を教授する。また、主要症状から重症度を判断し、アプローチしていく特殊性を演習をとおして教授する。						
一般目標	1.救急看護の特殊性を理解できる。 2.救急におけるトリアージの重要性やトリアージ方法を理解できる。 3.救急・重傷者患者のフィジカルアセスメントと看護について理解できる。 4.ICLSの基礎的技術を習得できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 救急看護総論（医学書院） ICLS						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
救急看護の概念と看護の役割・目的を説明できる。 救急・重症患者の特徴を説明できる。 救急・重症患者におけるトリアージや看護を説明できる。 ICLSの基礎知識を説明できる。					
技術(精神運動領域)					
BLS・ICLSの技術を習得できる。					
態度(情意領域)					
単に授業を受講するだけでなく、主体的にグループ活動や演習に取り組める。					
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考	
1	I. 救急看護が展開される場	1. 救急医療体制、救急看護の特徴	講義	佐甲	
2	II. 救急・外傷のトリアージ	1. 救急外来での初期トリアージ	講義	佐甲	
3	III. フィジカルアセスメント	1. 主要な病態とフィジカルアセスメント 2. 症状別トリアージ 1) 意識障害 2) 呼吸困難 3) ショック 4) 頭痛 5) 胸痛 6) 熱傷 7) 中毒	講義	佐甲	
4			GW	佐甲	
5					
6	IV. 中間試験	1. 知識のまとめ 2. ICLSの概要	試験 講義	隅	
7	V. ICLS	2. BLS	演習	佐甲	
8		3. 循環モニタリングと気道管理	演習	隅	
9					
10		4. 心電図波形とアルゴリズム 1) 心停止・心静止 2) VT・VF	演習		
11					
12		5. チーム蘇生の実践	演習		
13					
14		6. 蘇生のための鑑別診断			

15		7. 4H4T心肺停止の原因検査 発表	GW	隅 佐甲
----	--	---------------------	----	------

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験(中間)	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	50	
担当教員	佐甲 美和 隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	老年期は、加齢性変化に伴った身体的・心理的・社会的変化がおこりエンドオブライフに向かう時期となる。老年理論や発達課題および超高齢化社会での倫理的課題、社会制度の学びを通して、老いを成熟・発達の過程としてとらえ、老いを生きる高齢者それぞれにあった看護を教授する。また、加齢性変化を理解し、高齢者に対する看護の基礎的知識を体験を通して教授する。						
一般目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 高齢者を取り巻く社会を理解できる。 3. 高齢者看護の基本が理解できる。 4. 高齢者の生活を支える看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 高齢者の加齢性変化を身体的・心理的・社会的特徴から理解できる。 高齢者の生活を支える看護の基本を理解できる。 高齢者を取り巻く社会と権利擁護についてを理解できる。				
技術(精神運動領域) 高齢者の身体的特徴を体験できる。 疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域) グループで協力して学ぶことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 老いることへの理解	1. 加齢と老化 2. 老いを生きるということ 1) 高齢者の定義、発達課題 2) 加齢に伴う身体的側面の変化の特徴 3) 加齢に伴う心理的、社会的側面の変化の特徴	講義	
2		1. 高齢者体験 2. 体験を通じた感覚機能・運動機能の感想のまとめ	演習 個人課題	
3				
4	Ⅱ. 高齢者の生理的特徴と生活への影響	1. 呼吸・循環機能の老化 2. 消化・吸収・代謝機能の老化 3. 排泄機能の老化 4. 運動機能の老化 5. 認知・知覚機能の老化 6. 免疫機能の老化・性機能の老化 7. 睡眠と覚醒の変化 8. 老化の全身への影響とフレイル、廃用症候群 9. 老年症候群の概要	講義	
5				
6	Ⅲ. 超高齢化社会と社会保障	1. 超高齢化社会の統計的輪郭 2. 高齢化社会における保健医療福祉の動向 3. エイジズム、スティグマ		
7	Ⅳ. 老年看護の成り立ち	1. 老年看護の役割 2. 老年看護における理論・概念の活用		
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未 修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	10	
授業態度		○		評価なし	
演習(GW・技術等)			○	評価なし	
担当教員	南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	加齢性変化を踏まえて、高齢者に多い脳・神経や運動器、感覚器の機能障害等をもつ対象に対する看護を教授する。加齢性変化の理解をさらに深められるように、対象にあった生活指導を事例を用いて教授する。高齢者の生活を支援する看護を機能障害に合わせたリハビリテーションの演習をとおして教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴を加齢性変化を踏まえて理解できる。 2. 機能障害のある対象の症状・検査や治療に対する看護を理解することができる。 3. 機能障害のある対象の生活の再調整を促す看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
機能障害の症状と病態生理が述べられる。 機能障害の検査と治療が述べられる。 機能障害が対象の日常生活におよぼす影響を述べられる。				
技術(精神運動領域)				
機能障害に応じた生活支援を計画できる。 機能障害に応じた生活支援を実施できる。				
態度(情意領域)				
主体的にグループ活動や演習に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 高齢者に多い健康障害	1. 高齢者の疾患の特徴と日常生活への影響 2. 高齢者のヘルスアセスメントの留意点、バイタルサインの変化 3. 高齢者の生活機能を評価するアセスメントツールと看護 BBS、BRS、日常生活自立度、IADL、バーセルインデックスなど	講義・GW	東
2	II. 脳・神経機能障害のある対象の看護	1. 脳血管障害(出血・梗塞)のある対象の看護 1) 原因・症状・検査 2) 生活を支援する看護	講義・GW	
3				
4		2. パーキンソン病・パーキンソン症候群のある対象の看護 1) 原因・症状・検査 2) 生活を支援する看護	講義・GW	
5	III. 運動機能障害のある対象の看護	1. 運動機能障害のある対象の理解 2. 障害・症状が日常生活に及ぼす影響 3. 骨粗しょう症のある対象の看護 4. 大腿骨頸部骨折・脊髄圧迫骨折のある対象の看護 5. 変形性膝関節症のある対象の看護	講義・GW	
6				
7	IV. 感覚機能能障害のある対象の看護	1. 感覚機能障害のある対象の理解 2. 障害・症状が日常生活に及ぼす影響 3. 加齢による視覚障害 4. 加齢による聴覚障害	講義演習	
8	V. 加齢性変化を考慮した生活指導	1. 加齢性変化を考慮した生活指導の計画 1) 転倒予防 2) 拘縮予防 3) 誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア 4) 義歯の管理方法	講義演習	
9		2. 加齢性変化を考慮した生活指導の援助の実施 1) 転倒予防 2) 拘縮予防 3) 誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア 4) 義歯の管理方法 3. 指導計画・援助の実施のリフレクション	講義演習	

10	VI. 高齢者の機能障害に応じたリハビリテーション	1. 理学療法 1) リハビリテーションの概念 2) 関節可動域測定・訓練 3) 徒手筋力検査・筋力増強訓練 4) 呼吸理学療法 5) 高齢者の特徴を踏まえた肢体不自由リハビリテーションの実践 6) 廃用性疾患のリハビリテーション	講義演習	島本
11				
12		2. 作業療法 1) 片麻痺における日常生活訓練と介助法 2) 脊髄損傷時の日常生活訓練と介助法	講義演習	石丸
13		3. 言語療法・嚥下ケア 1) 摂食・嚥下障害に対するケアの実践 2) コミュニケーション障害に対するケアの実践	講義演習	正司
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	東

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	10	
担当教員	東 真由美 島本 祐嗣 石丸 拓也 正司 誠規		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	老年看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	加齢性変化を踏まえて、高齢者に多い認知および排泄の機能障害、皮膚の障害、症状別看護について演習を通して教授する。また、高齢者の安全、災害、虐待、身体拘束などに対する社会的統計や関連する法律を高齢者の権利擁護と看護の役割について教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴を加齢性変化を踏まえて理解できる。 2. 機能障害のある対象の症状・検査や治療に対する看護を理解することができる。 3. 機能障害のある対象の生活の調整を促す看護が理解できる。 4. 障害を持つ高齢者の権利擁護と生活を守る看護を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患編						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 機能障害の症状と病態生理が述べられる。 機能障害の検査と治療が述べられる。 機能障害が対象の日常生活におよぼす影響が述べられる。 障害をもつ高齢者の権利擁護と生活を守る看護の役割が理解できる。				
技術(精神運動領域) 機能障害に応じた看護を計画できる。 機能障害に応じた看護を実施できる。				
態度(情意領域) 主体的にグループ活動や演習に取り組める。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 認知機能障害のある対象の看護	1. 高齢者のうつの症状と看護 2. 高齢者のせん妄の症状と看護	講義	南田
2		3. 認知機能障害の病態・症状・疾患・診断・治療・予防	講義	
3			講義	
4		4. 症状に合わせた看護 (パーソンセンタードケア、ユマニチュード、バリデーション技法)	講義	
5		5. 場面の再構成、実演、振り返り	演習 個人課題	
6	Ⅱ. 高齢者の特徴に合わせた看護の計画・実施	1. 認知機能維持、低下予防のための看護 1) 季節に応じた集団レクリエーションの計画 2) 計画発表、リフレクション、計画修正	演習・GW 個人課題	
7				
8	Ⅲ. 皮膚障害のある対象の看護	1. 褥瘡発生・スキンテア発生の要因のアセスメントと評価ツール 2. 褥瘡・スキンテア予防の看護の実践 3. 高齢者に多い皮膚疾患と看護 皮膚掻痒症、疥癬	講義	磯部
9	Ⅳ. 排泄機能障害のある対象の看護	1. 易感染状態の高齢者の看護、尿路感染症 2. 前立腺肥大症、前立腺癌 3. 排尿障害のある対象の看護 尿失禁、過活動膀胱 4. 排便障害のある対象の看護 便失禁、便秘	講義	磯部

10	VI. 高齢者の特徴に合わせた看護の計画・実施	1. 事例Aさんに対する援助の計画、実施 1)ハンドマッサージ、手浴、褥瘡処置の援助計画 2)ハンドマッサージ、手浴、褥瘡処置の援助計画に基づいた実施 3)リフレクション、計画修正	GW 個人課題	磯部
11				
12	V. 老年症候群と看護	1. 高齢者のアセスメントツール GDS、CGAなど 2. 主な症候と看護 1)脱水症の成因とその看護 2)熱中症の成因とその看護 3)閉じこもり、寝たきり、るい瘦 フレイルの進行とサルコペニア	講義	磯部
13			講義	
	VI. 高齢者と災害	1. 災害における高齢者の脆弱性 2. 災害フェーズと高齢者支援	講義	
14	VIII. 高齢者の権利擁護と看護の役割	1. 成年後見制度 2. 高齢者虐待 3. 身体拘束	講義	磯部
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	磯部・南田

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○		○	10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	20	
担当教員	磯部 純子 南田 直子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	子どもを取り巻く環境が急激に変化している中で、次代を担う子どもたちの成長・発達の特徴を学ぶとともに、子どもへの支援とその家族が安心して育児ができる環境について教授する。 また、子どもと家族を取り巻く社会の変化や小児が抱える課題に着目して、看護の果たす役割についてグループディスカッションをしながら理解が深められるよう教授する。						
一般目標	1. 小児看護の対象である子どもの権利や看護の特徴について理解できる。 2. 発達段階における子どもの成長・発達の進み方や成長の評価、発達の評価について理解できる。 3. 子どもにとっての家族の特徴と家族のアセスメントの意味が理解できる。 4. 子どもを取り巻く社会の変化から子どもの健康問題について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論（医学書院）						

到達目標

知識(認知領域)				
小児を取り巻く環境を踏まえ、小児の成長・発達を理解し、説明することができる。				
技術(精神運動領域)				
課題に積極的に取り組みことができる。				
態度(情意領域)				
グループワークに主体的に参加し、発言・情報共有ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I．小児看護の特徴と看護	1. 小児看護の対象、目的と役割 2. 小児看護の変遷 3. 小児看護における倫理と子どもの権利 4. 小児看護の課題	講義	
2	II．子どもの成長発達1	1. 成長・発達とは 1)小児看護学における発達論:ピアジェ認知発達理論、エリクソン 自我発達理論 2. 成長・発達の進み方 3. 成長の評価、発達の評価	講義 GW	
3	III．子どもの成長発達2	1. 新生児・乳児 2. 幼児・学童 3. 思春期・青年期		
4				
5	IV．家族の特徴とアセスメント V.子どもと家庭を取り巻く社会 1	1. 子どもにとっての家族とは 1)家族とは 2)現代家族の特徴 2. 家族アセスメント 1)子どもを持つ家族のアセスメントの目的と留意点 2)家族アセスメントの家族にとっての意味 1. 児童福祉 2. 医療費の支援	講義	
6	V．子どもと家族を取り巻く社会2	3. 母子保健(乳児健診) 4. 予防接種	講義 GW	
7		5. 学校保健 6. 食育 7. 特別支援教育 8. 臓器移植	講義 GW	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
課題	○	○	○	10	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)				評価なし	
担当教員	磯部 純子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	全ての健康レベルの子どもの対象として、子どもに出現する健康問題の経過やおかれている状況が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護技術や方法について教授する。						
一般目標	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響を理解できる。 2. 子どものおかれている状況から子どもと家族に及ぼす影響や看護の特徴を理解できる。 3. 子どもの症状観察の要点やアセスメントに必要な看護技術を身につけることができる。 4. 障害のある子どもと家族の看護について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 病気・障害が子どもと家族に与える影響を具体的に理解できる。 健康問題を持つ子どもの生活や治療環境(入院、通院、在宅など)における援助方法と看護の役割が理解できる。 子どもへの看護技術の特徴と看護の方法について説明できる。 プレパレーションの概要を理解できる。				
技術(精神運動領域) 小児への問診、バイタルサイン測定(検温、呼吸音聴取)をプレパレーション技術を踏まえて実施できる。				
態度(情意領域) 自ら課題に取り組むことができる。 小児を尊重する言葉かけや人権に配慮したコミュニケーションが実践できる。 主体的にグループワークや演習に参加し、協議・情報共有ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護 3. 健康問題をもつ子どもの家族の看護	講義	
2	II. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1. 入院中の子どもと家族の看護 1) 入院環境と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の特徴と看護 2. 外来における子どもと家族の看護 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来受診する子どもと家族の特徴と看護 3) 事例をとおして演習(プレパレーション等) 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 在宅療養の環境と看護の役割 2) 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義 GW	
3			GW 演習	
4		4. 災害時の子どもと家族の看護 1) 被災地の環境と看護の役割 2) 災害時の子どもと家族の特徴と看護 5. 子どもの虐待と看護 1) 子どもの虐待とは 2) リスク要因と発生予防・早期発見 3) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 4) 求められるケア	講義 GW	
5	IV. 子どもにおける疾病の経過と看護	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護	講義	
6	V. 子どものアセスメント	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) バイタルサイン 3) 身体測定(乳児健診の内容)	講義 GW 演習	
7		2. 身体的アセスメント 1) 一般状態 2) 眼、耳、顔面・鼻・口腔 3) 呼吸、心臓・血管系 4) 腹部、筋・骨格系 5) 神経系、リンパ系、皮膚・爪等	講義 GW 演習	

8	VI. 症状を示す子どもの看護	1. 機嫌、啼泣、痛み、 2. 呼吸困難、チアノーゼ、ショック 3. 意識障害、痙攣、発熱、	講義	
9		4. 嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫 5. 出血、貧血、発疹、黄疸	講義	
10	VI. 検査・処置を受ける子どもの看護	1. 子どもにとっての検査・処置体験の意味 2. 看護の実際 3. 与薬、輸液管理 4. 抑制 5. 検体採取 6. 電法、経管栄養 7. 呼吸症状の緩和	講義	
11	VIII. 障害のある子ども(神経疾患)の看護	1. 障害のある子ども(神経疾患)の看護 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある子どもと家族の特徴、社会支援	講義 GW	
12	VII. 小児科における看護過程の展開	1. 小児科における看護過程の展開の基本的な考え方とその方法 2. 情報収集とアセスメントの視点 3. アセスメントシートを用いた情報収集とアセスメント(事例)	講義 演習	
13		4. 全体像の把握と看護問題の抽出 成長発達に応じた健康上の課題を明確にする 5. 看護計画の立案		
14		グループの学びの発表と共有		
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート			○	10	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	河村 麻由子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	子どもの病気や障害について、主な疾患の病態・症状・診断・治療から小児看護に特有な看護や技術へと関連つけて教授する。また、それぞれの健康障害に直面した子どもと家族への支援の方法について教授する。						
一般目標	1. 機能障害のある小児の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 機能障害のある小児の症状・検査や治療に対する看護を理解できる。 3. 機能障害のある小児の回復過程に応じた看護が理解できる。 4. 機能障害のある対象の生活の再調整を促す看護が理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論、小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
小児の機能別疾患の病態の理解、特徴を踏まえた看護を理解することができる。				
技術(精神運動領域)				
自ら課題に取り組み、疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
主体的にグループワークに参加し、協議・情報共有ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 呼吸器疾患およびアレルギー疾患と看護	1. かぜ症候群の子どもの看護	講義	白松
2		2. 肺炎の子どもの看護 3. 気管支喘息の子どもの看護 4. 食物アレルギーの子どもの看護	講義	
3	Ⅱ. 循環器疾患と看護	1. ファロー四徴症の子どもの看護 2. 川崎病の子どもの看護	講義	
4	Ⅲ. 腎・泌尿器疾患および生殖器疾患と看護	1. 腎疾患の急性期および慢性期の看護 2. 腎疾患をもつ子どもの看護 1) ネフローゼ症候、糸球体腎炎 3. 泌尿・生殖器疾患をもつ子どもの看護 1) 尿路感染症、水腎症	講義	
5	Ⅳ. 感染症と看護	1. 麻疹・風疹・水痘の子どもの看護 2. 流行性耳下腺炎の子どもの看護 3. 髄膜炎・百日咳の子どもの看護	講義	磯部
6	Ⅴ. 代謝性疾患と看護	1. I型糖尿病をもつ子どもの看護 1) 入院中の看護 2) 退院後の療養生活	講義 GW	
7	Ⅵ. 消化器疾患と看護	1. 形態異常のある疾患の子どもの看護 1) 唇裂・口蓋裂の子どもの看護 2) 幽門狭窄症、鎖肛の子どもの看護 2. 腸重積の子どもの看護 3. 急性胃腸炎の子どもの看護	講義 GW	
8	Ⅶ. 血液・造血器疾患と看護	1. 貧血・出血傾向のある子どもの看護 2. 再生不良性貧血の子どもの看護 3. 血友病の子どもの看護 4. 家族の看護	講義	
9	Ⅷ. 悪性新生物と看護	1. 診断時の看護 2. 治療を受ける子どもの看護 3. 自宅での生活への移行時期の看護 4. 白血病の子どもの看護	講義	
10	Ⅸ. 神経疾患と看護1	1. 痙攣のある子どもの看護 2. 進行性神経筋疾患の子どもの看護 3. 中途障害の回復過程とリハビリテーション		

10	X. 皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉科疾患と看護	1. アトピー性皮膚炎の子どもの看護 2. 中耳炎の子どもの看護 3. 眼科的検査を受ける子どもと家族の看護		磯部
11	XI. 運動器疾患と看護	1. 発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)の子どもの看護 2. 先天性内反足の子どもの看護 3. 骨折した子どもの看護	講義・GW 演習	
12	XII. 事故・外傷と看護	1. 子どもの事故の特徴 2. おもな事故・外傷と看護 1) 頭部外傷 2) 誤飲・誤嚥 3) 溺水 4) 熱傷 5) 熱中症	講義 GW	
13	XIII. 神経疾患と看護2	重症心身障害児(脳性まひ)の特徴と看護の実際	講義	宗東
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	磯部

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	磯部 純子 白松 裕 宗東 博文		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	母性看護学は、次世代の健全育成を目指し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病の予防を目的とした実践科学である。対象を理解できるように母性の概念や母性を取り巻く社会の現状、女性のライフサイクル各期の特徴及び性と生殖に関する健康とそれぞれに対する看護を教授する。						
一般目標	1. 母性の概念を幅広くとらえ、母性看護のあり方を対象者、看護の目的・目標から理解を深める。 2. リプロダクティブヘルス/ライツの理念をもとに、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指す看護について考えることができる。 3. 次世代の健全育成を目指す母性看護の機能と役割を理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 母性の概念及び母性の特性を説明できる。 母性を取り巻く社会の変遷と現状(母子保健統計を含む)を説明できる。 母性看護の課題や母子保健システムにおける看護の役割を説明できる。 女性のライフサイクル各期の特徴及び性と生殖に関する健康と看護を説明できる。				
技術(精神運動領域) 疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域) グループワークには積極的に参加し、自身の考えを述べることができる。 興味をもって授業に参加し、発問には積極的に答えることができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 母性看護の概念	1. 母性看護の基盤となる概念（母性とは） 2. 母性看護の対象 ライフサイクル・マタニティサイクルの視点から理論に基づく対象の特徴(愛着理論、母親役割獲得、母親への適応過程、母子相互作用) セクシャリティの発達課題	講義	
2	II. 母性看護の変遷	1. ヘルスプロモーションの視点から母性看護の対象を捉える 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 意義と課題 3. 母性看護の歴史的変遷 4. 出生数の推移と戦後の母子保健の基盤整備	講義	
3	III. 母性看護に関する施策と統計	1. 母子保健統計の動向 1) 出生に関する動向 2) 死亡に関する動向 3) 婚姻と出産	ワーク1 講義	
4		2. 母性看護に関する法律と施策 1) 主な母子保健行政のあゆみ 2) 母性看護に関する法律 3) 妊産婦と乳幼児に対する法律 4) 母性看護に関する職種	講義	
5	IV. ライフサイクルにおける健康と看護	1. 性周期と女性のライフサイクル 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 妊娠の成立機序 4. 更年期の健康と看護	講義	
6	V. リプロダクティブヘルス/ライツケア	1. ライフサイクルからみたリプロダクティブヘルス 2. リプロダクティブヘルスの視点からの喫煙の影響 3. リプロダクティブヘルスの視点からの性暴力を受けた女性の看護	講義	

7	V. リプロダクティブヘルス/ライツケア	4. リプロダクティブヘルスの視点からの人工妊娠中絶 5. 家族計画の意義と受胎調節の方法 6. リプロダクティブヘルスの視点からの性感染症と予防法	講義	
			講義・GW	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)			○	10	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	妊娠・分娩・産褥期及び新生児期における対象を理解し、正常な経過を学ぶとともに母児に対する看護を教授する。						
一般目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・及び新生児の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 2. 母児及びその家族に対する健康の保持増進に向けた援助内容と説明ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 母子及びその家族に対する健康保持増進に向けた支援方法を理解できる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
事前学習を十分に行いグループワーク・演習に主体的に参加し自己の知識・技術を定着させる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 妊娠期の看護	1. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴	講義・DVD	
2		2. 妊婦と胎児の健康状態の観察(レオポルド触診法・子宮底測定)	講義・演習	
3		3. 妊婦の健康管理について(マイナートラブル)	講義・GW	
4		4. 妊婦の健康管理と保健指導について	講義	
5	Ⅱ. 分娩期の看護	1. 分娩の生理・分娩の3要素・経過	講義	
6		2. 分娩時の看護に必要な産婦・胎児のアセスメント1	講義・DVD	
7		3. 分娩時の看護に必要な産婦・胎児のアセスメント2	講義	
8	Ⅲ. 新生児期の看護	1. 新生児の生理的・身体的特徴・出生直後の看護	講義	
9		2. 新生児のアセスメントの視点について(健康観察・育児支援)	講義・演習	
10		3. 新生児のアセスメントの視点について(健康観察・おむつ交換・抱き方)	講義・演習	
11	Ⅳ. 産褥期の看護	1. 産褥期の身体的特徴・心理的・社会的特徴について	講義	
12		2. 褥婦の健康状態のアセスメントの視点について(子宮復古の観察・乳房の観察)	講義・演習 DVD	
13		3. 産褥事例の看護過程、褥婦のアセスメント・看護計画立案 1	講義・GW 演習	
14		4. 産褥事例の看護過程、褥婦のアセスメント・看護計画立案 2	講義・GW 演習	
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			95	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	5	
担当教員	吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	母性看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	周産期に起こりやすい健康障害を理解し、健全な母性の健康保持増進のための看護について教授する。						
一般目標	1. 妊娠・分娩・産褥・及び新生児期に起こりやすい健康障害について理解し、健康状態のアセスメントと看護が説明できる。 2. 健康障害を持った母子の看護を行うための基礎的知識を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
健康障害を持った母子及び家族の看護を行うための基礎的知識を養う。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域)				
事前学習を十分に行い主体的に参加し自己の知識・技術を定着させる。 健康障害を持った母子の看護の基礎的知識を表現できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	Ⅰ. 妊娠期の健康問題に対する看護	1. ハイリスク妊娠の概要 (生活習慣・心理的・社会的因子・不妊治療を含む)	講義・GW	吉本
2		2. 全身疾患の合併症を持つ看護	講義	
3		3. 異常妊娠の看護	講義	
4		4. 妊婦とその家族の看護（不妊治療後の妊婦の看護）	講義・GW	
5	Ⅱ. 分娩期の健康問題に対する看護	1. 分娩3要素の異常の看護 ①	講義	
6		2. 分娩3要素の異常の看護 ②	講義	
7		3. 帝王切開を受ける産婦の看護	講義	
8		4. 産婦とその家族の看護(前期破水の産婦の看護)	講義	
9	Ⅲ. 産褥期の健康問題に対する看護	1. 産褥期の正常から逸脱した褥婦の看護①	講義	
10		2. 産褥期の正常から逸脱した褥婦の看護②	講義	
11		3. メンタルヘルスの問題を持つ母親の看護	講義	
12		4. 褥婦とその家族の看護	講義・GW	
13	Ⅳ. 新生児の健康問題に対する看護	1. 新生児の異常の看護	講義	仲
14		2. ハイリスク新生児の看護(NICU・GCU)	講義	
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	吉本

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○		評価なし	
演習(GW・技術等)		○	○	評価なし	
担当教員	吉本 美恵 仲 貴乃		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学概論			単位数	1	時間数	15
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神看護学の基盤であるメンタルヘルスの概念から、精神看護の目的や対象についてグループワークを交えながら教授する。また、精神看護の対象を取り巻く、精神医療の現状と現代社会が抱えるメンタルヘルスの問題について教授する。さらに、精神医療・看護の歴史、関連する法律や倫理について学び、精神看護の基礎となる知識を養う。						
一般目標	1. メンタルヘルスの概念を知り、精神看護の目的や対象を説明できる。 2. 精神看護の対象を取り巻く、精神医療と現代社会のメンタルヘルス上の問題について説明できる。 3. 発達段階における心の発達とメンタルヘルスの問題について理解できる。 4. 精神医療・看護の変遷と社会における精神障害に関連する制度について説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
メンタルヘルスの概念を知り、精神看護の目的や対象を説明できる。 精神看護の対象を取り巻く、精神医療と現代社会のメンタルヘルス上の問題について説明できる。 発達段階における心の発達とメンタルヘルスの問題について理解できる。 精神医療・看護の変遷と社会における精神障害に関連する制度について説明できる。 学習を通して、自分自身のメンタルヘルスにも関心を持ち、現代社会におけるメンタルヘルスの問題を抱える人とその支援のあり方について考えることができる。				
技術(精神運動領域)				
疑問や不明点を調べることができる。 疑問や不明点を質問できる。				
態度(情意領域)				
グループワークに積極的に参加し、主体的に学習できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 精神保健と精神医療	1. 精神看護と精神医療の現状と課題	講義	
2		2. 精神の健康とストレス 3. 精神障害の捉え方	講義 GW	
3	Ⅱ. 心のはたらきと人格形成	1. 心のはたらき 2. 自我の発達段階と防衛機制	講義	
4		3. ライフサイクルとメンタルヘルス 4. 危機介入とストレス理論	講義	
5	Ⅲ. 社会のなかの精神障害	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本の精神医学・精神医療の流れ	講義	
6		3. 精神障害と文化・社会学 4. 精神障害と法制度	講義	
7		5. 精神保健福祉対策と動向	講義 GW	
8	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			20	
授業態度		○	○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○		○	10	
担当教員	若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学方法論Ⅰ			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ人の抱える様々な健康問題について理解し、対象の疾患や症状、問題の特徴、および治療法について学修する。また、対象に合わせた看護について理解し、そのアセスメントや援助方法を学修する。						
一般目標	1. 精神科における身体的・精神的・社会的側面からのアセスメントの必要性について理解できる。 2. 主な疾患や症状、治療と有害反応を学び、それらが日常生活へ及ぼす影響と必要な看護について理解できる。 3. 患者と回復を支える家族の支援、ケアにおける人間関係について理解することができる。 4. 精神科における基本的な看護について理解し、対象に必要な看護過程の展開と援助を考えることができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 精神科における身体的・精神的・社会的側面からのアセスメントの必要性について理解できる。 主な疾患や症状、治療と有害反応を理解し、それらが日常生活へ及ぼす影響と、必要な看護について理解できる。 患者と回復を支える家族の支援、ケアにおける人間関係について理解することができる。 精神科における基本的な看護について理解し、対象に必要な看護過程の展開と援助を考えることができる。				
技術(精神運動領域) 疑問や不明点を調べることができる。				
態度(情意領域) 主体的にグループワークや演習に参加できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 精神科疾患の あらわれ方	1. さまざまな精神症状 2. 精神障害の診断と分類	講義	
2	II. 身体をケアする	1. 精神科におけるフィジカルアセスメント 2. 身体化する症状	講義	
3		3. 精神科の治療 1) 薬物療法(向精神薬)と有害反応における看護	講義	
4		2) 精神療法とその他の治療における看護 (電気けいれん療法、社会生活技能訓練(SST) 心理教育など)	講義	
5	III. 精神科における 看護	1. 主な精神疾患の治療と看護 1) 統合失調症	講義	
6		2) 気分(感情)障害	講義	
7		3) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 4) パーソナリティ障害、摂食障害	講義	
8		5) その他の精神疾患 (器質性精神障害、精神作用物質関連障害など)	講義	
9		2. 検査時の看護:身体的検査、心理検査	講義	
10		3. 精神看護における安全管理	講義	
11	IV. 関係のなかの人間	1. 全体としての家族とその支援 2. 人間と集団	講義	
	V. ケアの人間関係	1. ケアの前提・原則、方法 2. 関係のアセスメント:プロセスレコード 3. 患者－看護師関係	講義	
12	VI. 精神科における 看護過程の展開	1. 看護過程の展開の基本的な考え方とその方法 2. オレムとアンダーウッドの看護理論 3. オレム－アンダーウッド理論での情報収集とアセスメントの視点	講義 演習	
13		4. オレムアンダーウッドの6領域を用いた情報収集とアセスメント (事例)		
14		5. 全体像の把握と看護問題の抽出 心の健康回復のための健康上の課題を明確にする 6. 看護計画の立案		

15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	
----	--------	--------	----	--

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	精神看護学方法論Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ対象を取り巻く環境と、精神保健・福祉・医療における看護師の役割を学修する。また、対象へ精神看護を実践するための具体的方法を学修する。						
一般目標	1. 対象を取り巻く環境について理解し、精神的な安寧や回復を支える様々な支援とその方法について考えることができる。 2. 精神科病棟の特徴と治療的環境の実際について理解し、対象の安全を守るための看護の留意点を理解できる。 3. 精神科における多職種連携と退院へ向けた支援について理解できる。 4. 地域で精神障害をもつ人を支援するための方法と、保健・医療・福祉における看護師の役割について理解できる。 5. リエゾン精神看護、看護師の労働感情とメンタルヘルスについて理解できる。 6. 災害時におけるこころのケア・精神障害を持つ人の看護について理解できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院） 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象を取り巻く環境について理解し、回復を支える様々な支援とその方法について考えることができる。 精神科病棟の特徴と治療的環境の実際について理解し、対象の安全を守るための看護の留意点を理解できる。 精神科における多職種連携と退院へ向けた支援について理解できる。 地域で精神障害をもつ人を支援するための方法と、保健・医療・福祉における看護師の役割について理解できる。 リエゾン精神看護、看護師の労働感情とメンタルヘルスについて理解できる。 災害時におけるこころのケア・精神障害を持つ人の看護について理解できる。				
技術(精神運動領域)				
対象の援助において、関係性の構築を促進するためにコミュニケーション技術を活用し、精神的な安寧を保つための関わり方を演習で実施することができる。 精神看護を実践するための具体的な考えをまとめることができる。 実施したことをふり返り、実践で活用するための基本的技術を身につけることができる。				
態度(情意領域)				
精神障害や社会の現状について興味をもって学ぶことができる。 グループワークや演習に積極的に参加し、主体的に学習できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	講師
1	I. 援助のための対人関係技術	1. コミュニケーション技術 2. 自己理解と他者理解 3. 治療的コミュニケーション技法	講義 演習	若林
2	II. 回復を支援する	1. 回復の意味 2. リカバリーと看護	講義	
3	III. 入院治療と看護の展開	1. 精神科病棟の特徴と治療的環境 2. 入院中の観察とアセスメント、看護の実際	講義	木村
4		3. 緊急事態への対処自殺・離院・窒息などへの対応 4. 安全を守ること・人権を守ること	講義	
5		5. 退院に向けての支援と看護の実際 在宅療養へ向けた看護 (症状マネジメント、服薬管理、心理教育など)	講義	
6		6. 精神科における多職種連携と看護師の役割 (病棟、外来、リハビリ、地域など)	講義	
7	IV. 地域における精神看護の実際	1. 地域で生活を支援するための原則と制度	講義	若林
8		2. 地域での精神障害者への支援と看護	講義	
9		3. 学校や職場におけるメンタルヘルスと看護	講義	

10	V. 医療におけるメンタルヘルスと看護	1. リエゾン精神看護 2. 看護師の労働感情とメンタルヘルス	講義 GW	若林
11	VI. 災害時のメンタルヘルスと看護	1. 災害時におけるこころのケア 2. 精神障害をもつ人に対する災害看護	講義 GW	
12	VII. 精神障害を取り巻く地域社会の現状	1. 精神障害に関する社会の話題や現状 2. 人権侵害の歴史を考える 3. 入院治療における倫理的問題を考える。	GW 発表	
13				
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	講義 試験	若林

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度		○	○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	30	
担当教員	若林 一樹 木村 竜一		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	健康支援論			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	人の発達段階における健康課題について理解を深め、健康的に過ごすための看護について教授する。人々の健康支援の基礎理論を学び、健康の維持・増進を図るために、個人・集団における保健指導ができる基礎的知識を教授する。						
一般目標	1. 疾病の予防と健康増進、看護における学習支援の意義を理解できる。 2. 健康支援の基礎理論を理解し、人々の健康を維持・増進を図るための看護や支援を考えることができる。 3. 対象の健康課題に応じた保健指導を考えることができる。 4. 保健指導をふり返り、具体的に活用するための方法を考えることができる。						
テキスト 参考書等	電子テキスト及び配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
疾病の予防と健康増進、看護における学習支援の意義を理解できる。 健康支援の基礎理論を理解し、人々の健康を維持・増進を図るための看護や支援を考えることができる。 対象の健康課題に応じた保健指導を具体的に考えることができる。				
技術(精神運動領域)				
対象の健康課題に応じた看護を健康支援の理論を活用して考え、考えた指導方法を演習で実施できる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。グループワークでは、グループ全員で協力して臨むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 健康支援における看護	1. 社会の変化と健康支援の意義 1) 人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 看護における学習支援	講義	隅
2		3. 健康支援の基礎理論 1) 自己効力理論、変化のステージモデル、ヘルスビリーフモデル		隅
3		4. 発達段階における健康支援の方法 1) 身体的発達と健康支援 2) 心理的発達と健康支援		隅
4		5. 発達段階別に考える健康支援	GW	隅
5	Ⅱ. 健康支援の方法と社会制度	1. 健康を支援する社会制度 母子保健・健やか21、学校保健、健康日本21 産業保健と看護師のかかわり	講義	伊藤
6		2. 集団指導・個別指導	講義・GW	
7	Ⅲ. 保健指導の体験と実践	1. ポピュレーションアプローチの体験 2. 体験から実践への展開	講義・GW	
8	中間試験	1. 中間試験 2. 集団指導の実際(1)	試験・講義	若林
9	Ⅳ. 保健指導の実際(1)	1. 集団指導の実際(1): 集団指導の対象、テーマ決定、指導案作成	GW	吉本
10		2. 集団指導の実際(2): 指導案作成	GW	
11		3. 集団指導の実際(3): 実施	演習	
12		4. 集団指導の実際(4): 実施、評価とふり返り	演習・発表	
13	Ⅴ. 保健指導の実際(2)	1. 個別指導の実際(1): 個別指導の対象、テーマ決定、指導案作成	個人ワーク	磯部
14		2. 個別指導の実際(2): 指導案作成		
15	Ⅵ. 集団健康教育の体験	1. 集団健康教育の体験と体験内容の報告	体験	若林

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4): 90点以上 優(3): 80点以上 良(2): 70点以上 可(1): 60点以上 不可(0): 60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	30	

担当教員	隅 敦子 若林 一樹 伊藤 悦子 磯部 純子 吉本 美恵	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/
------	------------------------------------	--------	---	---

科目名	健康課題解決活用法			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について教授する。対象のライフステージに応じた看護を提供するために、事例を通して健康課題の解決方法を活用・実践できる内容とする。						
一般目標	1. 健康課題解決の理論やその特徴を理解する。 2. 看護過程の基本的理論を活用し、対象の発達段階を考慮しながら家族を含めた健康課題解決の方法が説明できる 3. 事例を通して健康課題の解決方法を活用・実践できる 4. 実習の体験を振り返ることで健康課題の解決に向けた看護を考えられる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
発達段階別に起こりやすい健康課題を理解できる。 健康課題を解決する理論の特徴を説明できる。 対象の発達段階を考慮しながら健康課題解決の方法が説明できる				
技術(精神運動領域)				
自らの実習体験をケースレポートで振り返ることができる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ.健康課題解決に向けた看護の基礎知識	1. 授業の概要 2. 健康課題解決に向けた看護 1) 自らの看護を振り返る方法(ケースレポート)	講義	吉本
2		2) 健康課題を明確にする思考と解決法について 3) 健康課題を解決するための基本的理論		
3	Ⅱ.発達段階別に考える健康課題と解決法	1. 活用法のひとつであるコミュニケーション 1) 対象との対人関係の理解についてのトラベルビー理論 2. 精神領域に有効な課題解決オレム理論 3) 事例の展開 (1) 双極性障害(躁うつ病)のある人と家族の看護 (2) 通院中の摂食障害のある人と家族の看護	講義 GW	若林
4				
5		1. 周産期にある対象の健康課題解決 1) 周産期・産褥期・新生児期に有効な課題解決の理論 (1) 産後うつ病を発症した初産婦と家族の看護 ルービン母親役割過程		吉本
6		1. 小児期にある課題解決の理論 1) 発達段階別に考える健康課題 (ピアジュ・エリクソン・アタッチメント理論) 2) 小児期に有効な課題解決の理論 3) 事例の展開 (1) 気管支喘息で通院中の小児と家族の看護 (2) 川崎病で通院中の小児と家族の看護		磯部
7				
8	Ⅲ. 実習体験をもとにした健康課題解決の振り返り	1. 実習体験の振り返り 1) 対象の発達段階から考える健康課題の再検討 2) 対象を振り返るために適切な理論を探す (1) メタ理論 (2) 中範囲理論(ロイ・フィンの危機理論)	講義 個人ワーク	佐甲
9		2. 実習体験をケースレポートに展開する。 1) ケースレポートの査読 2) 理論の検討(GW) 3) 実践した看護の問題 4) 実践した看護から考える自己の看護の課題	GW 個人ワーク	磯部 木村 佐甲 吉本 若林
10				

11	Ⅲ. 実習体験をもとにした 健康課題解決の振り返り	5) ケースレポートの中間提出と修正	GW 個人ワーク	磯部 木村 佐甲 吉本 若林
12		6) ケースレポートの作成 7) 発表準備・練習	GW 個人ワーク	
13				
14		3. 健康課題解決に向けた実習体験の振り返りの発表		
15	試験	1. 試験 2. サマリー作成		吉本

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○			50	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数	
小テスト				評価なし		
課題レポート	○			評価なし		
授業態度	○	○	○	評価なし		
演習(GW・技術等)	○	○	○	評価なし		
担当教員	吉本 美恵 磯部 純子 木村 美保 佐甲 美和 若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	
					プロセスレコード	10
					サマリー作成	10
					発表	10
					作成物	10
					提出期限	10

科目名	周手術期看護			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	急性期にある対象の身体的変化、対象やその家族の心理・社会的変化の理解を深めるとともに健康状態に応じた援助について教授する。また、手術に伴う身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害・機能喪失に対する援助や手術後の継続的な自己管理に関する援助について実践できる内容とする。						
一般目標	1.周手術期の看護の特徴について理解できる。 2.周手術期看護の役割を理解できる。 3.手術侵襲による生体反応と回復促進への看護を理解できる。 4.代表的な術式と患者への看護を理解できる。 5.急性期および周手術期看護に必要な看護技術について理解し正確に実践できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論（医学書院） 配布資料など						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
解剖学、病態生理学、麻酔、手術療法の復習をして臨むことができる。 学習を深めるために、事前に課題を提示するので取り組み授業に臨むことができる。				
技術(精神運動領域)				
演習は基礎看護技術を復習し、事前に計画を立案して臨むことができる。(演習への参加は必修)				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。 グループワークでは、グループ全員で協力して臨むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 手術を受ける患者の特徴	1. 手術の流れと看護の要点 2. 侵襲に対する生体反応 3. 手術室の環境 4. 代表的な手術 1) 開腹・開胸手術 2) 低侵襲手術(管腔内視鏡治療・体腔内視鏡治療)	講義	佐甲
2	II. 周手術期の身体的援助	1. 手術前の看護 1) 術後合併症のリスクアセスメント(栄養・呼吸・循環) 2. 手術中の看護 1) 手術体位による影響 2) 麻酔による影響と観察 3) 生理的機能の観察 3. 手術終了時の看護 1) 気管内麻酔の覚醒時 2) 全身機能の回復	講義	佐甲
3		4. 手術後の看護 1) 鎮痛・鎮静管理 2) 創傷管理・処置 3) ドレーン管理・処置 5. 術後合併症とその予防	講義	佐甲
4	III. 周手術期の心理的援助	1. 手術前の心理的援助 1) 心の整理と意思決定 2) せん妄と精神疾患との違い 3) 不安のアセスメントと援助 2. 手術後の心理的援助 1) 睡眠を促す援助 2) せん妄の予防 3) せん妄の特徴と対応	講義	若林
5	IV. 周手術期看護の実際	1. 周手術期看護の展開(人工骨頭置換) 1) 手術前の訓練 2) 手術中の環境(手術材料の準備・手術記録) 3) 術後ベッドの作成 4) 術後の観察 5) 術後の合併症予防の実際	演習	佐甲
6				
7				

8	V. 高齢者の手術の特徴と看護	1. 手術が高齢者に与える影響	講義	高橋
9		2. 早期回復性に向けた術後合併症の予防の実践 1) 廃用症候群の予防 2) 術後肺炎の予防	演習	
10	VI. 日帰りに手術の特徴と看護	1. 日帰り手術が行われる手術の特徴 2. 日帰り手術の実際と看護 1) 術前の説明 2) 在宅での治療の継続	講義	木村
11	VII. 小児期の手術の特徴と看護	1. 手術をうける小児の理解 2. 小児期に行われる手術と看護 1) 顔面・口唇口蓋疾患 2) 消化器疾患 3. 術前プレパレーションの実践	講義	磯部
12			演習	
13	VIII. 母性領域の手術の特徴と看護	1. 帝王切開術 2. 子宮摘出術	講義	吉本
14	IX. 手術にかかわる倫理	1. 「人工妊娠中絶をうける本人と家族」 1) インフォームドコンセントの重要性 2) 生殖をめぐる倫理的問題 3) 意思決定への支援	GW	吉本
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	佐甲

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度				評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	佐甲 美和 磯部 純子 吉本 美恵 木村 美保 若林 一樹 高橋 朋子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	薬物療法と看護			単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	薬物療法における看護師の役割を理解し、対象特性および各機能障害に応じた看護について教授する。また、処方された薬剤の管理および対象に現れる作用・副作用を理解し、対象に応じた適正な薬物療法における服薬指導について事例を通して理解を深める内容とする。						
一般目標	1. 薬物の特徴、発生机序、影響などを理解する。 2. 薬物の適正な使用方法を理解できる。 3. 健康状態・対象特性を把握し服薬における看護の基礎的な知識・技術を学ぶことができる。 4. 事例を通じて薬物療法が必要な対象に薬物管理・服薬指導ができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学（医学書院）母性看護学概論 配布資料						

到達目標（行動目標）

知識（認知領域） 安全な薬剤投与や適正な方法を理解でき、各対象の特徴的な疾患に必要な薬剤について理解できる。				
技術（精神運動領域） 対象の疾患に応じた薬物療法や服薬指導が実施できる。				
態度（情意領域） 主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。 グループワークでは、グループ全員で協力して臨むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ．薬物療法における看護の基礎知識	オリエンテーション（授業の概要、事例提供等） 1. 薬物療法における看護師の役割 2. 発達段階に応じた薬物の選択と対象への安全管理 3. 発達段階に応じた薬物の体内動態と相互作用の理解 1) 薬物の体内動態 2) 老年期の薬物の体内動態の特性 3) 小児期の薬物の体内動態の特性	講義 GW	隅
2		4) 妊娠期の薬物の体内動態と薬剤 5) 授乳期の薬物の体内動態と薬剤 6) 新生児期の薬物動態と薬剤	講義 GW	吉本
3	Ⅱ．感染に関わる薬剤と看護	1. 感染に関わる薬剤と有害事象 2. ライフステージ（小児・成人・母性・老人）ごとの感染症の特徴と看護 3. 感染症予防と消毒	講義 GW	隅
4	Ⅲ．対象の健康障害における薬物療法の特徴と看護	1. 発達段階に応じた薬物療法の理解 1) ジギタリス 2) モルヒネ 3) 抗癌剤 4) 副腎皮質ステロイド 5) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRS) 6) NSAIDs 7) 抗コリン薬 8) インスリン治療薬 9) ベンゾジアゼピン系睡眠薬 担当する薬物療法について各自15分の講義を作成する。	個人ワーク	吉本 佐甲
5				
6		1. 発達段階に応じた薬物療法の理解 4つのグループに分かれて各自15分の講義をする。	GW 演習	磯部 木村 佐甲 隅
7				

8	V. 看護の実践1	1. 発達段階に応じた看護の実践 1) 心不全に対してジギタリスを内服していた82歳男性がバイタルサイン測定中に悪心を訴えた時の対応 2) 麻薬性鎮痛剤を使用している在宅で療養者のバイタル測定と薬物管理をする家族の対応 3) 化学療法7日目に採血をする時の患者への説明 4) ネフローゼ症候群の3歳男児のステロイド投与中の観察 5) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬の内服開始3日目に消化器症状があり内服拒否している20歳女性に対する対応 6) 妊娠後期に腰痛を訴え市販薬の痛み止めを服用しようとして整形外科を受診した妊婦とその家族に対する対応 7) 初めて胃内視鏡検査を行う緑内障の既往歴がある男性への問診 8) 一型糖尿病の小学校3年生に対するインスリン注射の指導 9) 超短期型ベンゾジアゼピン系睡眠薬の内服をして興奮している高齢者への対応	GW	磯部 若林
9				
10				隅
11	VI. 看護の実践2	1. 検討した看護援助の実践（デモンストレーション、ロールプレイ等） 各グループ15分で援助場面を構成し発表する。（実習室で実演する）	演習	全員
12				
13		1. 実施した援助のリフレクションと援助の再構成 2. 発達段階別の薬物療法における看護のまとめ	講義	隅
14				
15	IV. 試験	筆記試験・振り返り		

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 修得 ()内はGPA点数
小テスト				0	
課題レポート	○			10	
授業態度(出席)			○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	10	
担当教員	隅 敦子 吉本 美恵 佐甲 美和	磯部 純子 木村 美保 若林 一樹	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

講義	佐甲 化学療法の実践						
	木村 在宅での薬物管理						
	若林 精神疾患を持つ患者の薬物管理						
課題	1 発達段階から考える薬物療法 4つの会場に分かれて各自15分の講義する。 構成（発表15分+交代5分）×9＝180分						
	2 薬物療法がわかる看護場面の実演 本館実習室で各グループが15分間看護場面を説明する。 患者役・看護師役・医師や家族、他の看護師役・説明者に分かれて看護場面を実践する。 状況の設定などは担当する教員に相談をする。						

科目名	健康回復期看護			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	健康回復過程を、急性期からの治癒過程や症状が継続する慢性期までの広い範囲をしてとらえ、健康障害からの回復過程にある対象と家族に対して、健康回復に向けた看護について教授する。発達段階や機能障害に応じた援助について事例を通して考えることで、回復期における看護の理解を深める。また、外来でのがん治療過程にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的支援の看護について教授する。						
一般目標	1. 健康障害からの回復過程にある対象と家族に対して、療養の場に向けた看護や社会復帰を支援する看護を理解できる。 2. 事例を通して発達段階や機能障害に応じた援助について考える。 3. 外来でのがん治療過程にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的支援の看護について理解できる。						
テキスト 参考書等	配布資料						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象が健康障害から回復し、維持するための看護や支援を考えることができる。				
技術(精神運動領域)				
対象の健康課題に応じた看護を考えた援助方法を演習で実施できる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。 グループワークでは、グループ全員で協力して臨むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	Ⅰ. 健康回復期の特徴と看護技術	1. オリエンテーション(授業の概要、健康回復期の考え方、事例等) 2. 健康回復期の特徴 3. 健康回復期にある対象と家族ニーズと看護援助 1) 栄養の管理 2) 回復意欲と身体活動の促進 3) 精神面への支援 4) 社会的役割の復帰への支援 5) 家族の支援	講義・GW	東
2		1. 中途障害とともに生きる人への回復支援 1) 障害における健康問題と障害受容:心と身体の変化、社会適応への変化 2) セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 3) 生活の再構築と生活への支援 4) 精神面への支援	GW・演習	東
3			GW・演習	
4	Ⅱ. 療養の場に向けた看護の実際	(事例1) 1. 高次機能障害をもつ人の自宅療養への援助 1) 対象の理解と看護問題および看護援助の検討 2) 自助・互助を含めた地域包括ケアシステムの活用や社会参加への支援 3) 看護援助の実践 4) 看護援助のリフレクションと援助の再実践	GW・演習	木村
5				東
6				
7				
8	Ⅲ. 社会復帰に向けた看護の実際	(事例2) 1. 継続治療を必要とする人の社会復帰に向けた支援 (例:白血病、潰瘍性大腸炎、不登校、引きこもり等) 1) 学童期・思春期・成人期の健康障害が社会生活に及ぼす影響と支援の必要性 2) 教育機関や就労施設との連携 3) 対象の理解と看護問題および看護援助の検討 「周囲の人たちへの健康障害の理解」「精神面への支援」 「学業や就業環境を整える支援」「治療を継続するための支援」 4) 看護援助の実践 5) 看護援助のリフレクションと援助の再実践	GW・演習	磯部 若林
9			GW・演習	
10			GW・演習	磯部 若林
11				

12	IV. 多様な場で回復を支援する看護の実践	1.がん治療を受ける人の看護 1) 放射線治療を受ける人の看護 2) 化学療法を受ける人の看護 3) がんリハビリテーションの支援	講義	鹿毛
13		1. 乳がん手術後の外来治療を継続する人と家族の看護 1) 対象の理解と看護問題および看護援助の検討 2) がんサバイバーの理解と支援	GW・演習	吉本
14				
15	まとめ・試験	まとめ・試験	試験	東

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	30	
担当教員	東 真由美 吉本 美恵 木村 美保 磯部 純子 鹿毛 沙智 若林 一樹		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	終末期看護			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	人生の最期を迎える人とそれを看取る家族の援助について、事例を通して基礎的知識を教授する。その人らしい生を全うする援助について考えるとともに、人生のどの時期にも起こりうる死の意味や全人的苦痛の理解と尊厳性に対する援助を学び、自らの死生観を育む内容とする。						
一般目標	1. 終末期にある人と家族の特徴と援助方法について理解できる。 2. 終末期にある人の全人的理解とその人らしさを支える援助方法を理解できる。 3. 緩和ケアにおける症状マネジメントの方法が理解できる。 4. 自らの死生観を表現することができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別冊 緩和ケア（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
対象の個性性を考慮しながら終末期にある人と家族の特徴と援助方法について理解できる。				
技術(精神運動領域)				
対象の援助が演習で実施できる。				
態度(情意領域)				
主体的に参加し、周囲と協力しながらGWでの積極的な討議・意見交換ができる。 グループワークでは、グループ全員で協力して臨むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 終末期の概念	1. オリエンテーション(授業の概要、終末期の考え方、事例について) 2. 死ぬということ: 日本の死生観、死を迎える場所 3. 終末期医療と看護の特徴	講義	木村
2	II. 終末期に関わる倫理的課題と医療従事者のストレス	1. 意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング、死の受容 2. 家族への支援 3. 対象と家族の意思の不一致、告知の有無等	講義	金子
3	III. 終末期におけるチームアプローチと緩和ケアの実際	1. 終末期におけるチームアプローチと看護師の役割 2. 終末期にある人の身体症状とその治療・看護 1) 全身倦怠、消化器症状等 2) がんの痛みのマネジメント WHOの鎮痛薬使用の5原則 オピオイド鎮痛薬による疼痛緩和の実際	講義 GW	光永
4		3. 終末期にある人の精神症状とその治療・看護、社会的ケア 4. スピリチュアルケア、グリーフケア		
5	IV. 周産期・小児の終末期	1. 終末期にある子どもと家族の理解と死の受容 2. 終末期の子どもと家族の援助	講義・GW	吉本
6	V. 成人期・老年期における終末期ケア	(事例)	GW 演習	東
7		1. 終末期にある成人と家族の理解と死の受容		
8		2. 終末期の家族の援助 (事例1) 1) 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア		
9	VI. 在宅における終末期ケア	1. 在宅で死を迎える対象と家族への支援 1) 成人期 2) 老年期	講義	岡藤
10		2. 在宅で行う看取りについて		
11	VII. 臨死期のケア	1. 臨死期にある対象の身体的・心理的变化 2. 臨終を迎えるまでに家族がたどる心理過程と家族のケア 3. 急変時のケア、死亡前後のケア	講義・GW	木村
12	VIII. 危篤時・死亡時の看護	1. シミュレーション 危篤時・死亡時の看護の実際	GW・演習	木村 吉本
13				
14	IX. 死について語る	1. 自分の死生観を分かち合う 1) 身近な人の死の体験や死にゆく人のドキュメンタリー映像・著書等を通して考える	GW 発表	木村
15	X. まとめ・試験	まとめ・試験	試験	木村

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート	○			10	
授業態度			○	評価なし	
演習(GW・技術等)	○	○	○	30	
担当教員	木村 美保 金子 美幸 光永 祐子 岡藤 美智子 東 真由美 吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践 I			単位数	1	時間数	15
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護管理は看護者が一人ひとりが行う対象者へのケアマネジメントと、組織としての看護サービスのマネジメントがあり、ケアを提供するすべての看護職が担う役割である。ここでは、看護管理の基本的知識を学び、多職種と連携・協働する中で看護マネジメントに必要な知識と技術を教授する。						
一般目標	1. 看護管理における看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント方法を説明できる。 2. マネジメントに必要な知識や技術をワークを通して理解できる。 3. チーム医療における看護師の役割を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
マネジメントプロセスの構成要素を4つ挙げ、それぞれの意味を説明できる。 福祉施設等における資源(人的・物的・財的)活用のポイントを説明できる。 チーム医療を理解し、多職種連携・協働について説明できる。 組織の理念・目標達成のための目標管理の意義と方法が説明できる。				
技術(精神運動領域)				
自ら課題に取り組むことができる。				
態度(情意領域)				
グループワークに主体的に参加し、協議・情報共有ができる。 課題に積極的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護とマネジメント	1. 「管理」とは「マネジメント」とは 2. 看護看護とは 3. 看護管理学の基本的要素	講義 ワーク	野崎
2	II. 看護ケアのマネジメント	1. 看護ケアのマネジメントにおける看護職の機能・役割 2. 看護の継続性と継続看護 3. 多職種連携・協働における看護、チーム医療 4. 看護業務の実践	講義	
3	III. 看護サービスの マネジメント	1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 看護管理と経済 3. サービスの評価	講義	弓削
4		1. 看護師長の役割と機能 2. 病棟管理の実践	講義	中元
5	IV. マネジメントに必要な 知識と技術	1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップ・メンバーシップ 3. 組織の調整	講義 GW	野崎
6	V. 看護を取り巻く諸制度	1. 看護職と法・制度 2. 医療制度 3. 看護政策と制度	講義	
7	VI. 看護職のキャリア マネジメント	1. キャリアとキャリア形成 2. キャリアラダー 3. 演習:Let's peptalk	講義 演習	
8	看護管理まとめ	1. 筆記試験	試験	

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート				評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○		○	20	
担当教員	野崎 美紀 中元 智恵	弓削 美枝	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅱ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護研究の方法を学び、問題発見や問題分析、問題探求、倫理的思考などの能力を身につけ、看護を探究する態度を養う。また、自己の看護に対する課題を見出し、主体的に取り組むことができるよう教授する。						
一般目標	1. なぜ看護研究を学ぶのかを理解できる。 2. 看護研究に必要な文献検索ができる。 3. 研究計画書に沿って看護研究を実践する手順と方法がわかる。 4. 自己の深めたい分野を探究することができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 看護研究(医学書院)						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
看護研究に必要で手段にあった倫理的配慮を理解できる。 研究目的に沿った研究方法の分類を理解できる。 データ分析の方法が理解できる。				
技術(精神運動領域)				
研究計画書作成ができる。 研究成果をわかりやすく伝えるための工夫ができる。 研究計画書に沿った分析方法を選択できる。 Excelを用いたデータの分析ができる。				
態度(情意領域)				
看護研究のプロセスで、調べることの難しさやわかることの楽しさを体験できる。 看護研究とは何かを考え、自己の課題に主体的に取り組むことができる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護研究とは	1.看護研究の定義と役割 2.なぜ看護研究を学ぶのか	講義	中間試験 内容
	II. 研究の始め方	1. リサーチクエスト決定までのプロセス		
	III. 文献検索	1.文献とその種類 2.文献検索の方法 3.文献の入手と整理		
2	IV. 研究における倫理的配慮	1. 研究における倫理的配慮 2. 研究における依頼と同意	講義 個人ワーク	
	V. 研究の設計と方法の選択	1. 研究デザインの選択と整理		
3	VI. データの集計	1. 標本の選択・抽出 2. インタビューデータの収集 3. アンケートデータの収集 4. 尺度の活用		
	VII.データの分析	1. 質的データの分析 2. 量的データの分析 3. Excelを用いた分析		
4	中間試験	1. 中間試験	試験	
	VIII. 模擬研究の実践①	1. 研究計画書を読み解く 2. グループ計画書の作成	講義 GW	
5	VIII. 模擬研究の実践②	1. 模擬研究のデータ収集	GW	
6	VIII. 模擬研究の実践③	1. 模擬研究のデータ分析		
7	VIII. 模擬研究の実践④	1. 模擬研究の結果、考察	個人ワーク	
8	VIII. 模擬研究の実践⑤	1. 模擬研究の査読	GW 個人ワーク	課題②
9	VIII. 模擬研究の実践⑥	1. 模擬研究発表の準備	GW	課題③
10	VIII. 模擬研究の実践⑦	1. 模擬研究発表		

11	IX. 研究計画書の作成①	1. クエスチョンリサーチ 文献レビュー	個人ワーク	課題④
12	IX. 研究計画書の作成②	1. 研究における倫理的配慮		課題⑤
13	IX. 研究計画書の作成③	1. 看護研究デザインの選択		
14	IX. 研究計画書の作成④	1. データ収集と分析方法の選択		
15	IX. 研究計画書の作成⑤	1. 査読	GW	

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			30	
課題レポート		○		40	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	看護の統合と実践Ⅲ			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期	教員実務経験対象		有	
授業概要	医療安全では、医療事故・看護事故の基礎知識を学び、医療安全の重要性を理解する。また、対象者と医療従事者が事故を起こす危険要因を総合的に判断し、事故を防止するための基本的知識・技術・対応力について教授する。災害看護では、災害の特徴、災害医療及び看護の基本を理解するとともに、災害看護の各期及び救援活動に必要な知識や基本的技術を教授する。国際看護では、国際社会の健康問題の現状と国際協力の仕組みについて理解し、異なった文化や社会における看護の役割を教授する。						
一般目標	1. 医療安全の重要性を理解し、事故を防止するための知識・技術・対応力を説明できる。 2. 災害時に看護者が果たす役割と災害各期における災害支援活動を説明できる。 3. 国際的な健康問題、国際協力のしくみ、外国人への看護を説明できる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 看護学概論(医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)						

到達目標

知識(認知領域)					
医療安全、災害看護、国際看護の基礎的知識を説明できる。					
技術(精神運動領域)					
医療安全を意識した行動ができる。					
態度(情意領域)					
医療安全、災害看護、国際看護の関心を高めることができる。					
回数	授業項目		授業内容	授業方法	備考
1	医療安全	I. 医療安全と看護の責務	1. 医療安全の考え方の変化 2. チーム医療と看護師の責務	講義	高橋
2		II. 事故発生のメカニズムと対策	1. 事故発生のメカニズム 2. 事故分析インシデント 3. 事故対策	講義 演習	
3		III. 看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応	講義 演習	
4		IV. 医療安全施策と事故後の対応	1. 医療安全施策 2. 医療事故発生時の初期対応 3. 看護業務と事故発生要因 転倒転落 誤嚥	講義	
5		V. 感染対策	1. 感染対策の基本 予防策 職業感染 2. 新興感染症	講義	大庭
6		VI. 安全対策 注射	1. 注射における危険 2. ラベルの意味 注射薬の規格 間違えやすい薬物	講義	高橋
7		VII. 医療安全の基本と管理の実際	1. 組織での医療事故 2. 安全対策の検討および実施	講義	米原
8	災害	VIII. 災害看護の定義	1. 災害看護の取り組みの始まり 2. 災害の定義 種類 特徴	講義演習	磯本
9		IX. 災害サイクル	3. 災害サイクル 災害サイクルに応じた看護 4. トリアージ		
10		X. 災害の心理回復の過程	5. 施設内災害時の初期対応 6. 心理的回復の過程 災害への備えとそのシステム		
11	国際看護	I. 国際看護学とは何か	1. 国際看護学とはなにか 2. 健康と保健医療の世界的課題 3. 持続可能な開発目標(SDGs)	講義	デービス千春
12		II. 外国人への看護	4. 国際協力の仕組み 5. 国際看護活動の展開 6. 日本に在留する外国人の看護 7. 異文化理解		
13		III. 活動の実際	8. 国際看護活動の実際		
14		IV. JICAの活動	9. 途上国の生活や文化 10. JICAの活動と体験談	講義	JICA
15	まとめ・試験		まとめ・試験	試験	高橋

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト	○			10	
課題レポート	○			評価なし	
授業態度			○	10	
演習(GW・技術等)	○	○	○	評価なし	
担当教員	高橋 朋子 磯本 一夫 米原 美奈子 JICA デービス千春 大庭 沙織		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	統合技術演習			単位数	1	時間数	30
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	臨床実践の場は、複数の患者の受け持ちや急な現象などの複合的な状況にある。複合的な状況では、看護師自身の安全を含め危険を回避し看護が提供できるように、総合的な判断をしていく必要がある。臨床実践場面を想定し、看護師として総合的な判断、対応ができるよう演習を通して学修していく。						
一般目標	1. 複合的な場面における、優先順位の考え方を理解できる。 2. 複合的な場面における危険回避や安全な対処をするための方法を理解できる。 3. 複合的な場面におけるチームでの調整の仕方を理解できる。 4. 看護実践を振り返りながら修正、実施する思考を身に着けることができる。						
テキスト 参考書等	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践（医学書院）						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
複合的な場面における優先順位を考慮することができる。 医療安全に関わる自分の考えを説明できる。				
技術(精神運動領域)				
災害時の移動方法を実践できる。 複合的な場面における危険回避や安全な対処をするための方法を実施できる。				
態度(情意領域)				
メンバーシップ・リーダーシップを考えた主体的に行動し、チームの課題達成に向け協力できる。 自己の看護を振り返り今後の課題について表現できる。				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	I. 看護実践に必要な思考	1. 看護師に求められる臨床判断 1)「気づく」を増やす力 2)「解釈・判断」を看護師として行う力 3)「行為・反応」を対象に返す力 4)「結果」を確認できる力 2. 安全な看護実践を生むチーム作り 1)看護ケア提供システムから考えるチームの特性 2)集団力学を発揮したコンフリクトの解消 3)切れ目のない看護の提供につなげるコミュニケーション	講義	定期試験
2	II. 複合的な場面における統合的判断に必要な看護の知識の活用	1. 安全を守る構造・環境 1)受け持つ病床の特徴から対象を把握する 2. 日常業務のマネジメント 1)対象の特徴を考える 2)ケアの重要性を考える 3)タイムマネジメントを考える	GW	
3		1. 安全な看護実践－1 1)輸液ポンプ使用中患者の寝衣交換 2)病室内X線検査の介助	演習	
4		1. 防災訓練	演習	
5		1. 安全な看護実践－2 1)療養上の世話におけるインシデントの分析と対応 2)診療の補助におけるインシデントの分析と対応 3)KYT分析	講義・GW	
6				課題①
7	III. 複合的な状況における統合的判断や対応の実践	1. 複合的な状況を想定した技術練習	演習	課題②
8				
9		1. 複合的な状況に対する統合的な判断	GW	
10		1. 複合的な状況に応じた統合的判断に基づく看護実践(1回目)	技術試験	課題③
11				
12		1. 看護実践のリフレクション	GW	
13				
14		1. 複合的な状況に応じた統合的判断に基づく看護実践(2回目)	技術試験	課題②

15	まとめ・試験	まとめ・試験	定期試験	筆記・課題 ③
----	--------	--------	------	------------

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			40	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGP点数
小テスト				評価なし	
課題レポート		○	○	20	
授業態度			○	20	
演習(GW・技術等)	○	○	○	20	
担当教員	隅 敦子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	基礎看護学実習Ⅰ（生活環境、コミュニケーション）			単位数	1	時間数	40
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護の対象が生活する場としての病院と対象の生活環境を理解し、病院で行われている看護の実際を学ぶ。さらに、対象の環境を整えることの重要性や環境と健康との関連性を理解する。また、看護者として対象への接し方や態度を身につけるためにコミュニケーション技術を活用し、看護の対象の情報を収集していく。自己の課題達成に向けて、主体的に実習に取り組む姿勢を養う。						
一般目標	1. 対象が生活する場としての病院と環境との関連を理解する。 2. 対象とのかかわりを通して看護に必要なコミュニケーション技術について考えることができる。 3. 対象に行われている治療や看護、援助の根拠を考えることができる。 4. 対象にあった安全な環境調整を実践できる。 5. 対象の尊厳を守る行動ができる。 6. 病院における看護師の位置づけと多職種について説明できる。 7. 主体的に実習に取り組み、学びを表現できる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
実習要綱参照					
技術(精神運動領域)					
実習要綱参照					
態度(情意領域)					
実習要綱参照					
回数	実習日程	授業内容		授業方法	時間
1	実習1日目	1. 病院オリエンテーション 1) 病院・病棟の設備や機能の理解 2) 病院組織、看護部や看護体制の理解		病院実習	8時間
2	実習2日目	2. 同行・受け持ち実習 1) 入院している対象の生活と環境の理解 2) コミュニケーション技術の実践 3) 入院している対象に実践されている看護の理解 4) 保健医療福祉チームとしての看護職の理解 3. 看護職に必要な姿勢や態度の理解 4. 学びの会			8時間
3	実習3日目				8時間
4	実習4日目				8時間
5	実習5日目				8時間
担当教員		隅 敦子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	基礎看護学実習Ⅱ（アセスメント実習）			単位数	2	時間数	80
対象学生	1年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	対象の健康状態をアセスメントし、ゴードンの枠組みに沿って全体像を捉え、対象に起こっている反応とその原因・誘因および健康上の課題を明らかにする過程を学修する。合わせて、対象に必要な日常生活の援助を個別性を踏まえて実施しながら、対象の理解を深めていく。対象との関わりのなかで、対象に求められる看護を考え、今後の学習課題に気づくとともに自ら学ぶ姿勢を身につける。						
一般目標	1. ゴードンの枠組みを用いて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から対象の情報を収集できる。 2. 対象の健康上の課題とその原因・誘因を捉え、患者の全体像をつかむことができる。 3. 優先順位を考えた看護計画を立案でき、個別性のある援助計画に基づいて日常生活援助が実施できる。 4. 対象との関わりをとおして、よい人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。 5. 継続看護の必要性を認識し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。 6. 看護師に必要な姿勢や態度を養う。 7. 主体的に学び、実習をとおして自己の考えを表現できる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 実習要綱参照				
技術(精神運動領域) 実習要綱参照				
態度(情意領域) 実習要綱参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	実習1日目	1.実習概要 2. 病院オリエンテーション	病院実習	8時間
2	実習2日目	1. 病院オリエンテーション 1) 病院・病棟の設備や機能の理解 2) 保健・医療・福祉チームの継続看護の視点から対象理解 2. ゴードンの枠組みを用いた意図的な情報収集 1) コミュニケーション技術やカルテをとおした情報 2) 看護援助の実際から得られる情報(援助の同行・実施)		8時間
3	実習3日目	3. 観察・測定技術を用いて正確な情報収集 1) フィジカルアセスメント技術の活用 2) 対象および家族の負担を考慮した情報収集 4. 援助計画に基づいた日常生活援助 1) 実施前の観察と判断に基づいた実施 2) 安全・安楽・自立を考えた実施 3) 実施中・終了時・実施後の継続的な観察と評価 4) 適切な時期・内容・方法での報告 5. アセスメント 1) 複数の情報からの分析 2) 健康障害・治療による反応、生活行動への影響と対処行動 3) 看護上の問題を起こしうる因子の検索		8時間
4	実習4日目	6. 全体像の把握と看護問題の優先順位の検討 1) 看護上の問題の関連性 2) 理論を用いた優先順位 3) 健康レベル・治療段階に応じた優先順位 4) 対象の望む優先度 7. 看護計画の立案 1) 観察計画・直接ケア計画・教育計画 2) 根拠に基づいた具体的な方法		8時間
5	実習5日目	8. アセスメント・全体像・看護計画の整理、技術練習	学内実習	4時間
6	実習6日目	2～7. の継続 8. 全体像発表 9. 学びの会	病院実習	8時間
7	実習7日目			8時間
8	実習8日目			8時間
9	実習9日目			8時間

10	実習10日目				8時間
11	実習11日目	10. 看護計画立案・技術振り返り	学内実習		4時間
担当教員		隅 敦子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域実習 I			単位数	1	時間数	40
対象学生	1年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	地域実習 I は、看護の対象である生活者とその生活の場を体験から理解する実習である。学びの場である防府市の実態調査や離島で暮らす人々の生活から、地域の特性による保健・医療・福祉の資源の違いを学ぶ。地域で生活する多様な健康レベルにある個人や家族の生活、集団における人々の相互作用(互助・自助)を地域の住民組織の活動を把握することを目的とする。さらに、対象者に対して積極的なコミュニケーションをとり、適切な関係を築くことについて実習を通して学ぶ。						
一般目標	1. 看護の対象である人間を生活者として理解できる。 2. 地域で生活する人々との関りを通して、対象と関わり合えるコミュニケーション技術を実践できる。 3. 生活する地域を理解を通し、健康の保持増進、病気の予防、健康回復への看護について考えることができる。 4. 専門職を目指す看護学生として、倫理観に基づいた主体的で責任感のある行動がとれる。 5. 地域で暮らす人々を支援するための保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を考えることができる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	実習日程	授業内容	授業方法	時間
1	実習1日目	1. 地域の実態を知る。 1) 防府市の特徴について 2) 野島の特徴について	学内実習	4時間
2	実習2日目	2. 生活の場における保健・医療・福祉施設の実態 1) 市町村や県のホームページや新聞、チラシなどで保健・医療・福祉に関する情報を収集する。 2) 実際の場所へ行き、学校からの所要時間、活用できる資源を確認する。(市内フィールドワーク) 3) グループワークで地域マップを作成する。 4) グループワークで地域の保健・医療・福祉の特徴を考える。	臨地実習	8時間
3	実習3日目			8時間
4	実習4日目	3. 離島の生活と生活者 1) 野島の人々に生活、生活圏についてインタビューを行う。 2) 人々の生活圏を周り、防府市内との違いを知る。		8時間
5	実習5日目	4. 生活の場における保険・医療・福祉施設について 1) グループワークで考えた地域の保健・医療・福祉の特徴をまとめ 2) 作成した地域マップ等を用いた発表する。		8時間
6	実習6日目	5. 学びの共有 1) グループワークで野島で感じたことを話し合う。 2) グループワークで野島の住民の話をもとに、健康と「自助」「互助」の関係性について話し合う。 3) グループワークで片倉病院文化祭での体験をもとに、健康と「自助」「互助」の関係性について話し合う。	学内実習	4時間
担当教員		三好 恭子	実務経験紹介	有
				http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域実習Ⅱ			単位数	1	時間数	40
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	地域看護論実習Ⅱは、健康状態やライフステージに応じた地域で提供される一次・二次予防を中心に学ぶ。地域で暮らす人々を支える病院・保育園などの保持増進し疾病を予防する活動を体験し、その地域やライフステージで起こりやすい健康課題を考えることで、問題を解決思考能力を強化する。また、体験を通して、健康課題を解決する地域資源を理解する。						
一般目標	1. 地域で生活する人々の社会的特徴から理解できる。 2. 看護師や保育士との関りを通して、対象に応じたコミュニケーションの重要性を理解できる。 3. 地域特性や対象の健康状態やライフステージに起こりやすい健康課題を理解できる。 4. 看護学生として、倫理観に基づいた主体的で責任感のある行動がとれる。 5. 地域の健康にかかわる多職種と看護師の役割について説明できる。 6. 主体的な学びの実践を通して、地域看護学における自己の課題を説明できる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)						
実習要項参照						
技術(精神運動領域)						
実習要項参照						
態度(情意領域)						
実習要項参照						
回数	実習日程	授業内容		授業方法	時間	
1	実習1日目	1. 全体オリエンテーション		学内実習	4時間	
2	実習2日目	2. 地域における保健・医療・福祉の実践と多職種連携 1) 地域での保健活動の実践(公衆衛生学会) (1) 地域の特性に基づいた公的保健活動を知る。 (2) 地域での健康作りの活動を知る。 (3) 山口県での「地域包括ケアシステム」の活用の実践を知る。 (4) 健康にかかわる多職種について知る。		臨地実習	8時間	
3	実習3日目	2) 二次予防の実践 (1) 地域医療連携室の役割を知る。 (2) 健診センターでの看護師の役割を知る。 (3) 外来における看護師の役割を知る。 (4) 健康にかかわる多職種について知る。		臨地実習	8時間	
4	実習4日目	3. 保育園実習 1) 講演:成長発達と健康課題 2) 地域に暮らす子どもの日常生活の支援		保育園実習	8時間	
5	実習5日目				8時間	
6	実習6日目	4. 地域の発達課題 1)グループワーク (1) 防府市の健康についてアセスメントをする。 (2) 発達段階に応じた健康課題を考える。 2) テーマカンファレンス (1) 防府市で「公助」「共助」はどのように活用できるか。		学内実習	4時間	
担当教員		三好 恭子		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	地域実習Ⅲ			単位数	2	時間数	80
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	看護師が行う看護の対象は療養者を含めた地域で生活する人々である。拡大される療養の場において提供される看護の役割について理解する。また、個人・家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するための生活の基盤である「地域」を理解する。						
一般目標	1. 対象が生活する地域や集団におけるヘルスニーズが把握できる。 2. 個人や集団に応じたコミュニケーション技術を用いて看護が実践できる。 3. 根拠をもとに地域における健康課題が分析できる。 4. 健康活動の計画立案、実践および評価をとおした看護を展開できる。 5. 対象の尊厳を守り、倫理観に基づいた責任のある行動がとれる。 6. 多様な場で提供される看護と地域ヘルスプロモーションを支える多職種連携の意義と方法を理解できる。 7. 自ら学び、課題を見つけることができる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
実習要項参照					
技術(精神運動領域)					
実習要項参照					
態度(情意領域)					
実習要項参照					
回数	実習日程	授業内容	授業方法	時間数	
1	実習1日目	1. 地域に暮らす人々の健康教育 1)オリエンテーション 2)健康教室の計画・立案 3)健康教室計画書添削および修正 4)健康教室の展開 5)健康教室の評価	学内実習	4時間	
2	実習2日目			8時間	
3	実習3日目		臨地実習	8時間	
4	実習4日目	2. 健康障害を抱えながら生活する人への支援 1)外来・通院透析 2)一次救急・二次救急	病院実習	8時間	
5	実習5日目			8時間	
6	実習6日目	3. 地域看護学の対象 1)山口県の保健・医療・福祉政策 2)テーマカンファレンス (1)健康障害と生活への影響から考える山口県の地域の健康課題 (2)山口県の健康課題から考える地域看護の役割	学内実習	8時間	
7	実習7日目	4. 地域のヘルスプロモーションを支える事業と多職種連携 1)福祉施設における多職種連携 2)福祉施設における退院調整と看護師の役割 3)地域連携室の機能と看護師の役割	施設実習	8時間	
8	実習8日目			8時間	
9	実習9日目			8時間	
10	実習10日目	8時間			
11	実習11日目	5. 学びの共有 1)ケースカンファレンス (1)実習で出会った多職種連携から協働の意義を考える (2)実践から振り返る対象に応じたコミュニケーション媒体の選択 6. 事後確認試験	学内実習	4時間	
担当教員		南田 直子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	在宅看護論実習			単位数	2	時間数	80
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	在宅療養者とその家族の生活の場である家庭や福祉サービスの場で対象者と関わり、抱えている問題やニーズを把握し、看護を実践しながら在宅看護に必要な知識・技術・態度を身につける。また、退院後の在宅療養者の健康状態や必要な援助を理解し、保健・医療・福祉の専門職との連携のなかで看護師の役割を考える。ターミナル期にある療養者も含む継続看護について学修する。						
一般目標	1. 在宅療養者とその家族を身体・精神・社会側面からアセスメントし、その人らしい生活を支援するための問題を明らかにできる。 2. 訪問看護師と在宅療養者とその家族の関わり方を通して、個別性に応じたコミュニケーション方法を理解する。 3. 在宅療養者の健康状態やその変化、生活リズムに応じた援助を検討できる。 4. 在宅療養者の健康状態やその変化、生活リズムに応じた援助を理解できる。 5. 看護学生として、在宅ケアの場の訪問マナーや倫理観に基づいた責任ある行動がとれる。 6. 在宅療養者とその家族の生活を支える為の在宅ケアシステムや保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割と多職種と連携・協働について理 解できる。 7. 看護師に求められる資質を高めるよう、主体的に実習に取り組むことができる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)				
実習要項参照				
技術(精神運動領域)				
実習要項参照				
態度(情意領域)				
実習要項参照				
回数	授業項目	授業内容	授業方法	備考
1	実習1日目	1. 事前確認試験 2. 領域オリエンテーションの補足 3. 訪問同行で必要な技術練習	学内実習	4時間
2	実習2日目	1. 在宅療養者とその家族についての理解 1) 療養者の全体像の把握 2) 療養者の生活に影響を及ぼす家族の状況 3) 療養者と家族の健康上の課題とニーズ	臨地実習	8時間
3	実習3日目	2. 在宅生活を支援する上での課題解決に向けた看護実践 1) 健康障害に応じた日常生活行動の自立支援を見学 2) 在宅における医療管理の実際 3) 在宅における終末期看護の実際 4) 在宅で療養している人とその家族への対応	訪問看護ステーション4日	8時間
4	実習4日目	3. 在宅療養者とその家族の人格や多様な価値観の尊重・倫理的判断に基づいた態度 1) 訪問者としての立場、マナー 2) 価値観・人生観などの把握と尊重 3) 家族の多様性・療養者・家族の生活様式 4) 地域社会のなかでの療養者・家族 5) 傾聴・共感的態度	居宅介護支援事業所 1日	8時間
5	実習5日目		通所介護1日	8時間
6	実習6日目		看多機 2日	
7	実習7日目	4. 在宅ケアを支える看護師の役割と、他職種との連携や協働の理解 1) 社会資源の種類と機能、連携方法 2) 在宅看護における看護師の役割 3) ケアマネジメントの実際 4) 通所介護施設及び看護小規模多機能介護の概要、療養者の利用目的、看護師の役割	学内実習	8時間
8	実習8日目	5. 在宅看護実習を通しての自己の看護観 1) 在宅看護を通しての看護観 2) 在宅看護の課題と自分自身の課題	臨地実習	8時間
9	実習9日目		訪問看護ステーション4日	8時間
			居宅介護支援事業所 1日	8時間
			通所介護1日	

10	実習10日目				看多機 2日	8時間
11	実習11日目	1. 実習のまとめ 2. 事後確認試験 3. 実習の学びの共有し、実習における自己の課題を明確にする。			学内実習	4時間
担当教員		木村 美保	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	成人・老年看護学実習 I			単位数	2	時間数	80
対象学生	2年	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	対象に応じた、健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ。						
一般目標	1. 成人・老年期にある対象を生活者として捉え、アセスメントし、健康上の課題を明確にできる。 2. 看護師に必要なコミュニケーション技術を用いて援助的関係を築くことができる。 3. 対象に応じて課題解決のための判断に基づいた、看護計画の立案と援助方法の選択ができる。 4. 看護計画に沿って安全・安楽・自立に留意しながら、対象の日常生活援助が実施できる。 5. 対象の尊厳を守り、倫理観に基づき責任をもって看護実践ができる。 6. 他の職種と協働している場面に参加し、看護師の役割がわかる。 7. 主体的に実習に取り組み、自ら学び続ける姿勢を身につける。						
知識(認知領域)							
実習要綱参照							
技術(精神運動領域)							
実習要綱参照							
態度(情意領域)							
実習要綱参照							
回数	実習日程		授業内容			授業方法	時間
1	実習1日目		1. 全体オリエンテーション 1) 成人看護学実習概要 2) 事前課題の提示 3) 各施設の概要			学内実習	4時間
2	実習2日目		2. 病院オリエンテーション 1) 施設概要 3. 看護過程の展開 1) 患者紹介 2) 情報収集 3) 日常生活援助			臨地実習	8時間
3	実習3日目		3. 看護過程の展開 2)・3)の継続 4) 情報の分析 5) 全体像の把握				8時間
4	実習4日目		6) 健康課題の抽出 7) 看護計画の立案 8) 援助計画の評価・修正				8時間
5	実習5日目		2)～8)の継続 9) 初期計画検討会				8時間
6	実習6日目		4. 技術練習 5. アセスメント及び全体像、援助計画の修正			学内実習	6時間
7	実習7日目		2)～8)の継続 10) 看護計画の実践と日々の評価(SOAP記録) 11) 看護問題の評価			臨地実習	8時間
8	実習8日目						8時間
9	実習9日目						8時間
10	実習10日目						8時間
			2)～8)、10)・11)の継続 6. 学びの会				

11	実習11日目	7. 学びの共有 1) 患者に応じた看護過程の実践からの学び	学内実習	4時間	
担当教員		隅 敦子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ			単位数	2	時間数	80
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	急性期にある対象に応じた看護を学習する。急性期とは、健康状態の急激な変化があり、生体はその変化に対応するためにさまざまな反応を起こしている時期である。看護にあつては、身体の内部分がどうなっているかを理解し、悪化を防ぐとともに回復を促進するための援助を要する。健康問題が心理的側面や社会的側面に及ぼす影響を総合的に理解しながら、生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた看護を個別性に応じて展開する。						
一般目標	1. 急性期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、健康上の課題が明確にできる。 2. 急性期にある対象にあつたコミュニケーション技術を用いて援助的関係を築くことができる。 3. 対象に変化を予測し、課題解決のための判断に基づいた看護の方向性を明確にできる。 4. 対象に応じた生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた援助ができる。 5. 対象の尊厳を守り、倫理に基づき責任をもって看護を実践できる。 6. 健康回復に向けて看護の継続性を理解し、保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。 7. より良い看護の実践を目指して自ら学び続ける能力を身につける。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
実習要綱参照					
技術(精神運動領域)					
実習要綱参照					
態度(情意領域)					
実習要綱参照					
回数	実習日程	授業内容	授業方法	時間	
1	実習1日目	1. 領域別オリエンテーションの補足 2. 事前確認試験 3. 技術確認(前かがみ洗髪、寝衣交換)	学内実習	4時間	
2	実習2日目	4. 施設オリエンテーション 5. 看護過程の展開 1)患者紹介 2)情報収集と整理	病院実習	8時間	
3	実習3日目	2)の継続 3)全体像の把握 4)健康上の課題の判断 5)援助の実践と評価、修正		8時間	
4	実習4日目	2)～5)の継続 6)初期計画検討会		8時間	
5	実習5日目	5)の継続 7)対象の変化に応じた援助の実践と評価、修正 8)退院後に向けた援助の実践と評価、修正 9)術前・術中・術後の看護		8時間	
6	実習6日目	6. 技術練習 7. 看護計画及び援助計画の評価、修正 8. テーマカンファレンス	学内実習	8時間	
7	実習7日目	5)、7)～9)の継続	病院実習	8時間	
8	実習8日目			8時間	
9	実習9日目			8時間	
10	実習10日目	5)、7)～9)の継続 9. 学びの会			8時間
11	実習11日目	10. 学びの共有 11. 事後確認試験 12. 技術演習	学内実習	4時間	
担当教員		佐 甲 美和	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ			単位数	2	時間数	80
対象学生	2年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	成人期・老年期における健康障害や回復段階に応じた対象の特徴を理解し、健康障害のレベルに応じた個別的な看護が実践できる能力を養う。健康障害や回復段階の変化を疾病や加齢の経過という視点だけではなく、対象の生活へ及ぼす影響も含めて捉え、健康上の課題を解決するための看護を実践する。						
一般目標	1. 健康障害や回復段階に応じた対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康上の課題が明確にできる。 2. 対象に応じた健康上の課題解決のための判断に基づいた看護の方向性を明確にできる。 3. 対象に応じた身体機能回復・促進およびセルフケア行動を高める看護を実践できる。 4. 継続看護の必要性を理解し、社会的支援の活用や多職種との連携について理解できる。 5. 対象とその家族の価値観や尊厳を守り、人として尊重した責任ある行動がとれる。 6. より良い看護の実践をめざして自ら学び続ける能力を身につける。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 実習要綱参照						
技術(精神運動領域) 実習要綱参照						
態度(情意領域) 実習要綱参照						
回数	実習日程		授業内容		授業方法	時間
1	実習1日目		1. 領域別実習オリエンテーションの補足 2. 事前学習確認・事前確認試験 3. 受持ち患者に必要なとなる技術練習と確認		学内実習	4時間
2	実習2日目		4. 施設概要オリエンテーション 5. 看護過程の展開 1) 受け持ち患者紹介・挨拶 2) 情報収集と情報の整理		臨地実習	8時間
3	実習3日目		3) 受け持ち患者のアセスメントの展開 4) 受け持ち患者に対する援助の実施 6. カンファレンス 1) 学生カンファレンス			8時間
4	実習4日目		2)～4)の継続 5) 受け持ち患者のアセスメントの展開・修正 6) 身体機能回復や促進、セルフケア拡大へ向けた看護計画の立案 7) 初期計画検討会			8時間
5	実習5日目		4)～6)の継続 8) 援助計画の気づきと解釈に基づいた評価・修正 9) 看護計画の援助に基づいた日々の評価・修正			8時間
6	実習6日目		6. カンファレンス 2) テーマカンファレンス① 7. 技術練習 8. 援助計画、看護計画の修正		学内実習	8時間
7	実習7日目		4)～6)、8)、9)の継続		臨地実習	8時間
8	実習8日目					8時間
9			4)～6)、8)、9)の継続 6. カンファレンス 3) テーマカンファレンス②			8時間
10	実習10日目		4)～6)、8)、9)の継続 9. 学びの会			8時間
11	実習11日目		10. 学びの共有 11. 実習目標に沿った実習の自己評価、記録指導 12. 事後確認試験		学内実習	4時間
担当教員		内田 千里		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	小児看護学実習			単位数	2	時間数
対象学生	3年	開設期	前期		教員実務経験対象	
授業概要	小児を取り巻く環境は大きく変化しており、子どもの健康に関する問題状況は多岐にわたる。少子化・家族形態の価値観や家族観の多様化、家族や地域社会の育児機能の変化とともに養育者・遊び・食事もあり方が変のような時代を背景に小児が直面する問題と関連づけ、健康に障害のある対象の疾患を理解し、対象を尊重しよび健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。また、幼稚園実習では、子どもの健全学ぶ機会とする。					
一般目標	1. 小児期にある対象を成長・発達し続ける存在として、身体的・精神的・社会的側面から理解し、成長・発達を健康課題の解決につながる看護を説明できる。 2. 小児の成長・発達および健康状態に応じた基礎的看護技術を実施できる。 3. 小児の生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を習得する。 4. 小児及び家族との人間関係を築き、発展させるための働きかけを説明できる。 5. 保健・医療・福祉・教育チームの一員としての看護師の役割を理解し、他職種と協働できる。 6. 小児看護学実習を通して小児観、看護観を深める。					

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)					
実習要項参照					
技術(精神運動領域)					
実習要項参照					
態度(情意領域)					
実習要項参照					
回数	授業項目	授業内容			授業方法
1	実習1日目	1. 領域別オリエンテーションの補足 2. 事前確認試験 3. 技術確認			学内実習
2	実習2日目	1. 実習病院概要オリエンテーシ 2. 外来の役割 3. 受け持ち患者の理解、情報収集			病院実習
3	実習3日目	2・3の継続			
4	実習4日目	1) 健康を障害された小児を身体的・精神的・社会的側面から理解する。			
5	実習5日目	1. 初期計画検討会に向けて学内にて記録の整理 2. 実施する援助の演習			学内実習
6	実習6日目	4. 初期計画検討会 1) 対象理解、看護過程の展開を発表できる。 2) 対象の個性に応じた関連図、援助計画を発表できる。			病院実習
7	実習7日目	2. 3の継続 5. 看護計画を実施・評価			
8	実習8日目	2. 3. 5の継続 6. 健康を障害された小児の看護の実施及び学びの発表			
9	実習9日目	1. 実習施設オリエンテーション 1) 施設の把握 2. 受け持ちクラスの児のかかわり 1) 受け持ちクラスの児の日常生活習慣を観察する。 2) 健康な小児の成長発達を理解する。			幼稚園実習
10	実習10日目	2 1)・2)の継続 3) 学びの会(小児の日常生活習慣、成長発達の学びを発表)			
11	実習11日目	1. 学びの共有 2. 実習目標に沿った実習の自己評価、記録指導 3. 事後確認試験			学内実習
担当教員		磯部 純子	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp

80
有
の変化・子育て わってきた。そ 、成長・発達お な成長発達を
し健

備考
4時間
8時間
8時間
8時間
8時間
8時間
8時間
8時間
8時間
8時間
4時間
jp/nw/

科目名	母性看護学実習			単位数	2	時間数	80
対象学生	3年生	開設期	前期		教員実務経験対象		有
授業概要	母性看護学実習は、女性のライフサイクルの中で、劇的に変化する周産期に焦点をあて、「生命の誕生」の瞬間に立ち会い、新しい生命をはぐくみ育てる過程での援助を学ぶ。妊娠・分娩・産褥にある女性と新生児の一連の特徴を理解することによって、生命の誕生とその過程とその看護についての学びを深めることができ、また、生命の尊厳を尊重する態度を養うことができる。 新しい家庭の誕生は様々な役割変化につなげる家族の発達段階である。母性をめぐる社会変化と看護の役割のなかでより健康レベルの高い対象への継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の一員として母子の健康増進のために必要な看護を学ぶ。						
一般目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、健康上の課題を明確にできる。 2. 対象に応じた健康上の課題解決のための判断に基づいた援助ができる。 3. 母と児（胎児）の尊厳を守り、倫理観に基づいた責任のある行動がとれる。 4. 退院後のサポートの必要性を理解し、社会支援の活用や地域関連機関との連携を理解できる。 5. より良い看護の実践を目指して自ら学び続ける能力を身につける。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)							
実習要項参照							
技術(精神運動領域)							
実習要項参照							
態度(情意領域)							
実習要項参照							
回数	実習日程	授業内容		授業方法	時間		
1	実習1日目	1. 領域別オリエンテーションの補足 2. 事前確認試験 3. 妊婦・褥婦・新生児に対する技術確認		学内実習	4時間		
2	実習2日目	4. 施設オリエンテーション 1) 教員による病院説明 2) 病棟 3) 外来		病院実習	8時間		
3	実習3日目	5. 褥婦の看護 1) 対象理解のための情報収集 2) バイタルサイン 3) 授乳指導			8時間		
4	実習4日目	6. 産婦人科外来・小児科外来の見学			8時間		
5	実習5日目	7. 分娩見学(待機)			8時間		
6	実習6日目				8時間		
7	実習7日目	8. 妊娠期における看護の実際 1) 妊婦体験 2) 事例課題及び事例に対する必要な保健指導の実践		学内実習	8時間		
8	実習8日目	9. 分娩期における看護の実際 1) 出産(DVD) 2) 分娩期1～4期の看護のポイント発表			8時間		
9	実習9日目	10. 新生児アセスメントの実際 1) 出生直後の観察と看護(DVD) 2) 新生児のバイタルサイン測定 3) 沐浴			8時間		
10	実習10日目	11. 産褥期における看護の実際 1) 褥婦の支援の実際(DVD) 2) 受け持ち褥婦の看護の展開と思考の整理			8時間		
11	実習11日目	12. 学びの共有 13. 実習目標に沿った実習の自己評価、記録指導 14. 事後確認試験			4時間		
担当教員		吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/	

科目名	精神科看護学実習			単位数	2	時間数	80
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		有
授業概要	精神に障害をもつ対象との関わりを通して、精神障害について理解を深め、対象の抱えるメンタルヘルスの問題を統合的に捉え、看護過程を展開し、必要な看護を考え実践するための基本的な能力を養う。対象の心の健康問題の回復において、多職種がどのように連携しているのかを学び、看護師に求められる役割について考える。精神障害をもつ対象が社会資源を活用しながら、地域でどのように生活をされているのかを学修する。精神看護に必要な知識・態度・技術を身につけながら、精神看護を体験することで自分自身の基盤となる看護観を深めていく。						
一般目標	1. 精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から捉え、解釈・統合・分析をして健康上の課題を明確にできる。 2. 精神に障害をもつ対象と信頼関係を構築するためのコミュニケーション方法を実践できる。 3. 科学的根拠に基づき精神に障害をもつ対象に応じた看護を立案できる。 4. 精神に障害をもつ対象に応じた心の健康回復を促す看護が実践できる。 5. 精神に障害をもつ対象の人格を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。 6. 精神保健・福祉・医療における看護師と多職種の役割・連携について理解できる。 7. 看護師に求められる資質を高めるように、主体的に実習に取り組むことができる。						

到達目標(行動目標)

知識(認知領域) 実習要綱参照					
技術(精神運動領域) 実習要綱参照					
態度(情意領域) 実習要綱参照					
回数	実習日程	授業内容	講義	時間	
1	実習1日目	1. 全体リモートオリエンテーション(別日に実施) 2. 領域別オリエンテーションの補足 3. 事前確認試験	学内実習	4時間	
2	実習2日目	3. 病院オリエンテーション 1) 病院の概要 2) 病棟の概要 4. 受け持ち患者の看護の展開 1) 患者紹介 2) コミュニケーション 3) 情報収集	病院実習	8時間	
3	実習3日目	2)、3)の継続 4) 健康上の課題の明確化 5) 看護計画の立案 6) 援助の実践と評価・修正 7) デイケア・デイナイトケアでの活動を通じた社会資源の理解 8) 保護室見学 9) プロセスレコードによるコミュニケーションの振り返り 10) 初期計画検討会 11) 学びの会		8時間	
4	実習4日目			8時間	
5	実習5日目			8時間	
6	実習6日目			8時間	
7	実習7日目			8時間	
8	実習8日目	5. 地域施設オリエンテーション 1) 地域で生活するための社会資源の活用について 2) 地域で生活するための多職種の連携について	地域実習	8時間	
9	実習9日目	1)、2)の継続 3) 利用者の活動に合わせた援助・支援 4) プロセスレコードによるコミュニケーションの振り返り		8時間	
10	実習10日目	6. 学びの共有	学内実習	8時間	
11	実習11日目	7. 実習目標に沿った実習の自己評価、記録指導 8. 事後確認試験	学内実習	4時間	
担当教員		若林 一樹	実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/

科目名	統合実習			単位数	2	時間数	80
対象学生	3年	開設期	後期		教員実務経験対象		
授業概要	本実習では、複数の受け持ち患者に対して、援助の優先順位を決定し、時間調整を行いながら複数の援助を実践する。また、病棟師長・看護リーダー・チームメンバーのシャドウイングをとおして、病棟の看護管理や他部門との連絡・調整等の実際を学修する。医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力および看護技術力を身につけることをねらいとして、実習の総仕上げである本実習が、臨床で働く上での自覚と責任感が持てるような実習とする。						
一般目標	1. 複数の患者を受持ち、優先順位を考えながら時間調整を行い複数の援助ができる。 2. メンバーおよびチームリーダーとしての役割を理解し、看護チームの一員としての役割や業務の調整、多職種との協働・連携の実際を理解する。 3. 病棟における看護管理および安全管理の実際を学び、組織としての視点で看護を考えることができる。 4. 対象の尊厳を守り、専門職として倫理観に基づいた責任ある行動がとれる。 5. 統合実習の経験をふまえて働く自分をイメージし、看護師を目指す自己の課題を明らかにするとともに、社会人としての自分を構想する。						

到達目標(行動目標)

到達目標(行動目標)

知識(認知領域)						
実習要綱参照						
技術(精神運動領域)						
実習要綱参照						
態度(情意領域)						
実習要綱参照						
回数	実習日程		授業内容		授業方法	時間
1	実習1日目		1) 師長の役割と業務について 2) 看護管理の視点から学生間のディスカッション		病院実習	4時間
2	実習2日目		1. 施設概要オリエンテーション 2. 受け持ち患者の看護の展開 1) 患者紹介 2) 情報収集と情報の整理 3) 援助実践		病院実習	9時間
3	実習3日目		2)～3) 継続 4) 援助計画立案 5) 看護計画立案		病院実習	9時間
4	実習4日目		2)～5)の継続 3. 複数患者受け持ちの看護の展開 1) 学生間の情報の共有、看護の方向性の確認 2) 複数患者の援助の実践 4. メンバー同行 5. リーダー同行 6. 学生カンファレンス 7. 学びの会		病院実習	9時間
5	実習5日目				病院実習	9時間
6	実習6日目				病院実習	9時間
7	実習7日目				病院実習	9時間
8	実習8日目				病院実習	9時間
9	実習9日目				病院実習	9時間
10	実習10日目		1. 看護管理業務の振り返り 1) マネジメントプロセスにそった振り返り 2) 医療安全文化の醸成につながる場面 3) 看護ケア提供システムにおいてメンバーに求められる能力		病院実習	4時間
担当教員		吉本 美恵		実務経験紹介	有	http://www.yic.ac.jp/nw/